

出口信男の世界

泰永三二郎

序

コロナ禍が世界を覆った時（大昔のこのよ
うな気がする！）、若島先生がChess
Problemと詰将棋のオンラインミーティング
「プロパラ会」を開始しました。

2021年2月の第1回例会の時に若島先生が
「このオンラインミーティングで何かやりた
い方は手を上げてください。」と仰るので、
出口信男氏の作品紹介をしたいと申し出た
ところ、あっさり「じゃ、時間も内容もお任せ
しますので、次回からどうぞ。」とのお返事
を頂いた。

早速出口氏に「こんな企画があるの
ですが、やっても構わないですか。」と
問い合わせたところ、ゴーサインが出て
2021年の3月の例会から始めるという
トントン拍子の流れだった。

ここで時間を少し巻き戻すことにしよう。

私自身の詰将棋との関わりを簡単に
振り返っておきましょう。子供の頃から
パズルやミステリが好きで、詰将棋も
好きでした。友人の薦めで1976年の
250記念号が出る少し前の247号
から詰パラの購読を始めました。当
時は「フェアリー詰将棋研究室」と
いう名称で門脇芳桂氏が担当していた
コーナーが気に入り、すぐにカピ
タンの会員にもなりました。

そうこうするうちに、熱が高じて詰
パラのバックナンバーを集めだした。
バックナンバーは単に読んでも十分
面白いものですが、フェアリー詰
将棋の歴史を調べるのが目的でした。
これを読み物としてまとめたものが
カピタンに連載した「幻想詰将棋
型録」です。50年ほど前のことな
のでパソコンはまだこの世に存在
せず、当然のことながら原稿は
すべて手書き。フェアリー詰将
棋の黎明期からの歴史を記録して
おくのが目的でした。

ところが始めてはみたものの具体的
には超長編の検討が大きなネック
となり、寿限無が出現するちょっと
前（最初の爆発期）で中絶する
ことになった。

その後一時フェアリーランドの
担当を務めた後詰将棋から離れる
ことになった。30年ほどの冬眠
状態が解消されるきっかけは神
無太郎さん。2019年太郎さん
から「幻想詰将棋型録」をア
ップデートしませんか、と声掛
けして頂いた。

30年の間にフェアリー詰将棋に
PCを活用する道が飛躍的に進
み、神無七郎さんによるほか
詰超長編に関する論考が既に
あることも含めて太郎さん
には色々教えて頂いた。お陰
で「型録」は以前の記述の
間違い、作品検討、作品考証、
すべてにわたってアップデート
できました。神無一族の助力
は絶大でした。感謝申し上げます。

「型録」はフェアリー詰将棋
に興味がある方には多少なり
とも益するところがあるか
と思います。手前味噌ですが
まだ読んでない方、webで
読めますのでどうぞ。その
際はぜひ感想をお聞かせ
ください。

<http://cavesfairy.gl.xrea.com/guide/catalog.pdf>

「幻想詰将棋型録」の
リニューアル企画が一段落
して、次は出口信男（左真樹）
作品集を何としてもやらなく
ちゃいけないと考えた。作
品を調べ始めると私に先駆
けて出口信男作品を収集研
究されている佐藤達也とい
う方がいることが分かった。
佐藤さんの助けで出口氏御
本人と直接連絡が取れるよ
うになった。もっとも出口
氏は電子メールを使用しな
いので手紙のやり取りのみ。
御本人とのやり取りに伴
ってたくさんのPNが判明し
、作品の全貌が明らかにな
ってきた。

公開の方針は定まらないが
まずは作品リストを作らな
ければならない。これがな
ければ話は始まらない。

作業の目処が立ったのが2021年の初頭で、最初に書いたプロパラ会の発足はちょうどこの時期のことだった。作品リストも大体出来たし作品分析も進んだので、目標の本丸である「出口信男全作品（仮）」の方の助けになるかもとの思惑もあり、若島先生のお誘いに乗ったと言う経緯でした。

筆者の頭の中にイメージする「出口信男全作品（仮）」は、編年体というか発表順に作品を並べていくものだが、プロパラ会の方は何回続けられるか不明なこともあり、1回1回トピックを決めてそれに沿って作品を紹介していくという方針を立てた。

しかし実際に詰将棋のマニアたちを前に1時間程度の講演をするのはかなりなプレッシャーで、事前の作品選択、内容分析～資料の準備～講演の組み立てなど考えなければならぬことが多く、追い込まれて結果的に作品理解が深まったと感じている。発表した内容は事前の若島先生との相談通り、その都度Problem Paradise誌に原稿化していった。後でまとめればとりあえず作品集が出来る、という目論見だったがそう簡単には問屋が卸さない。

コロナ禍で会合が制限される中で必要性が高まったオンラインミーティングの流行もコロナを巡る状況に従って変化していき、実際に顔を会わせるリアルミーティングが復活するようになり、プロパラ会は存在意義を全うし2023年の8月を持って終了することになった。「出口信男の世界」は一旦ケリを付けることになる。

zoom会議「プロパラ会」の記録をしておきましょう。ただし筆者の演目関係のみ記す。

- ・ 2021/2/7 記念すべき会のスタート
- ・ 2021/3/7 トリウラ詰
- ・ 2021/4/4 ミニ詰
- ・ 2021/5/6 駒詰
- ・ 2021/8/1 天竺詰（途中で中断）
- ・ 2021/11/7 天竺詰（続き）
- ・ 2022/2/6 会が中断され出演なし。
- ・ 2022/5/1 対面詰
- ・ 2022/8/7 休会
- ・ 2022/11/6 入れ替わり詰など
- ・ 2023/2/5 協力詰
- ・ 2023/5/7 マキシ詰、安北詰
- ・ 2023/8/6 安南詰、最悪詰

「出口信男の奇妙な世界」を開始したのはプロパラ会としては第2回目の2021/3/7。

Propara本誌の94号から文字化された。基本的にこの連載をまとめたのが本書になるが、上の記録の通り講演の進行が変則になったこともあり、実際にレクチャーした内容と原稿にした内容とは若干の異動がある。

本書「出口信男の世界」の構成

0. 序
1. トリウラ詰
2. ミニ詰
3. 駒詰
4. 天竺詰、出口信男＝左真樹の登場
5. 対面詰
6. 天竺詰（2）
7. 入れかわり詰、攻得詰など
8. 協力詰
9. 安北詰、マキシ詰
10. 安南詰、最悪詰
- 付録1. せめかわり詰など
- 付録2. 作品リスト

4章は時間の関係で2回に分けて行ったものを本来の意図通りにまとめた。

6章の天竺詰（2）は実際のプロパラ会が休会になったため、レクチャーは実施していな

い。また逆に2021/11/7のレクチャーの後半部分は4章には相応しくないので、原稿化はしなかった。その部分は今回第11章付録1として収録した。連載中に作品発表されたせめかわり詰もここで取り上げた。

内容はほぼProblem Paradise誌に連載したままのつもりだったが、読み直してみると不十分なところが目について、詰上がり図や途中図を増やしたり、舌足らずな表現を直したり少し変更した。

今回まとめ版の目玉が付録2の作品リストになる。図面も詰手順も付いていないが、それでも本稿で最も価値のある部分と思う。この結果大部分のPNを明かすことになる。作者の英断を称えたい。

発表後判明した間違いは訂正した。作者とのやり取りの中で公表を控えたいという作品があったため、今回改めて作品番号を振り直した結果、連載中の番号と今回の版とは異なる番号になっている。なお巻末の作品リストは新しい作品番号になっている。

当然のことながら、作品ごとに初出の掲載誌と発行号は全部つけた。作品番号は「Y-###」の形式で基本的に古いものから順につけてある。頭のYは私の名前の頭文字で、モーツァルトの作品番号で有名なK626とかのイメージで決めました。

例)

1-5番 トリウラ詰 37手詰。Y-173 (カピタン35号、1987-1)

は、第1章の第5番。ルールはトリウラ詰。手数は37手詰。作品番号Y-173。1987年1月発行のカピタン35号に掲載された、と言うことを表しています。

ルール名についてはPropara連載中は筆者の独断で発表時とは異なるものを使用したものもあったが、今回基本的に発表時のルール名表記に戻すことにした。

しかし作品ごとの解説と付録の作品リストでは発表時のルール表記にこだわらず現行の一般的なもので表した。

例)

ばか詰→協力詰

自殺詰→自玉詰

対鮮詰→対面詰

逆対鮮詰→背面詰

逆鮮詰→安北詰

など

ルールの内容は各ルールが登場する場面で解説している。

今回で出口氏の重要な作品群をすべて紹介出来たとはとても言えない。思いつくだけでも多数の天竺煙詰、禽将棋、5五将棋など紹介すべきものは多い。可能であれば、「出口信男の世界」の続編は書くべきでしょう。ところで「出口信男全作品(仮)」はどうなるのだろう。

十分気をつけたつもりだが、筆者の勘違いや記述のミスなどがあることと思う。気が付かれた方はぜひお知らせください。

資料提供をして頂いた佐藤達也様、色々お手伝い頂いた神無太郎様、そして発表の場を与えてくださった若島先生に感謝申し上げます。そして偉大な詰将棋作家出口信男氏が今後も素晴らしい作品を発表されますようにお祈りして序に変えます。

2024/7/14

泰永三二郎

出口信男の世界

目次

	序	
第 1 章	トリウラ詰	1
第 2 章	ミニ詰	9
第 3 章	駒詰、駒協力詰	16
第 4 章	天竺詰（1） 出口信男 = 左真樹の登場	28
第 5 章	対面詰	36
第 6 章	天竺詰（2）	47
第 7 章	いれかわり詰、オール交換駒、攻得詰	56
第 8 章	協力詰	66
第 9 章	安北詰、マキシ詰	75
第 10 章	安南詰、最悪詰	86
付録 1	天竺詰、双方ミニ協力詰、せめかわり詰	97
付録 2	作品リスト	106

第1章

トリウラ詰

今回から「出口信男の世界」と題して書くことになりました。本編に入る前に少し経緯を説明します。

まず出口信男さんについて。

氏は1977年にデビューしたフェアリー専門(*1)の詰将棋作家である。30以上の名前を持っているが、出口信男以外の特に有名なものは左真樹と大恥早計である。ちなみに出口信男も本名ではない(*2)。本稿では基本的に出口信男の名前で統一して書き記す。デビューから2001年までに発表した作品の総数は修正図を除いておよそ420局(*3)にのぼる。その後しばらく休眠状態だったが、数年前復活した。

注

- *1、ごく僅かながら伝統ルールの詰将棋も発表している。
- *2、左真樹や大恥早計は元ネタが分かり易い。出口信男の由来は、「Dekunoboo」とのこと。
- *3、作品数は数え方によって違ってくるのであくまで目安。

私自身は1990年前後に詰パラのフェアリーランドを担当して以来冬眠。そのまま消えてしまうところを神無太郎さんに声を掛けて頂いて詰将棋の世界に戻ってくることができた。その後同氏の多大なサポートが力になり、2020年に「幻想詰将棋型録」を新装版として約40年ぶりにアップデートし、webで公開 (<http://cavesfairy.gl.xrea.com/guide/>) 出来た。復帰からこの新装版の公開まで来れたのは本当に神無太郎さんのおかげで、氏には感謝の言葉しかありません。

「出口信男＝左真樹」については、何とか作品集をまとめる事を目標に過去1年半ほど時間を掛けて調べてきました。そんなときに若島先生がチェスと詰将棋のオンラインmeetingを始めたのでした。good timing! おっちょこちょいな私は、さっそく「やらせてくださ

い。」と手を挙げてトントン拍子に「出口信男の世界」が実現することになった。当初のタイトルは「出口信男の奇妙な世界」。私より見識も高く出口信男愛の勝っている方は少なくないはずなので、お叱りを受けないよう私らしさを出しつつ頑張りたいと考えています。発表の場を与えてくださった若島先生には感謝申し上げます。

その第1回に何を取り上げるのが最善手か。初球は豪速球が王道なのかもしれませんが、多くの方が見たことのない魔球で行こう、と熟考の末「トリウラ詰」に決めました。理由は以下の3点。

- ・ありきたりでないこと。出口信男の一面を明確に主張している。
- ・30年以上前の旧作ルールながら、最近作られた新作もあるということで作者も愛着のあるルールと考えられる。
- ・私自身が面白いと感じた。自分だけで面白がっては申し訳ない、皆様にもおすそ分けしなくては。

《トリウラ詰のルール》

- 1.駒の動かし方は普通の将棋と同様、本来の利きで動く。
- 2.駒を取る場合に限って、取りに行く駒は必ずその裏の利きを使って取らなければならない。例えば生の桂馬が駒を取る時には成桂の動きで取ることになる。
- 3.王ならびに金は取るときも取らないときも本来の利きで動くものとする。
- 4.行きどころのない駒は存在してもかまわない。
- 5.二歩は取り二歩も禁手でこの将棋ではたとえ取りの対象が王将であっても例外とはしない。つまり王を取ると同時に二歩が生じるような局面においては、王は取れない(王手とは認めない)
- 6.打歩詰は常に禁手。

「駒の利きに敵駒がある場合にその駒を取る」のが普通なので、このルールはかなり変わっています。

maeshima／動くときの動きと取るときの動きが異なるのはチェスのポーンに近いと思いました。

なるほど、確かにそうだ。この感想を作者に伝えたところ、

作者／事実その通りで、トリウラルールの発想も元々はチェスのポーンやシャンチーのpao（炮）の動きに由来しているので、嬉しく思いました。

との言葉を頂きました。それに加えてトリウラ詰の類縁ルールが20通り以上も送られて来て、目が点になりました。

さて、詰将棋なので先手は王手をかけ続けることになるが、王手というのは次に玉を取れる手という理解なので、次の図。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 香

19香など一間以上離して打っても王手にはなりません。放置されても次に11香と玉を取れないからです。香で王手を掛けるには、12香の短打または21香、22香の3通りがあるということになります。すぐ分かるように生

駒が強く、成駒が弱いという特徴があります。特に歩は強い駒なので、打歩詰には要注意です。

次図は出口氏の例題を2題。どちらも1手詰です。少し考えてみてください。

例題(a) トリウラばか詰、1手詰。

Y-428 (未発表)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王	王	一
								王	二
									三
							歩		四
									五
									六
									七
									八
								香	九

持駒 なし

例題(b) トリウラばか詰、1手詰。

Y-429 (未発表)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王		一
							王	王	二
									三
							歩		四
									五
									六
									七
									八
								香	九

持駒 なし

一瞬ギョッとしますが、19香は12の玉を取れませんから初形で王手はかかっていることになります。

正解は、
 (a)13香生迄。
 (b)13香成迄。

どちらも同桂とは取れず、24歩が13香を守っているのと同玉とも取れない。(a)で13香成とすると、22玉とされて逃れる。(b)で13香生とすると、11玉と逃げられる。成と生で一对ということでしょう。

続いて5手のばか詰。持駒が歩2枚の裸玉。
 例題(c) トリウラばか詰、5手詰。

Y-430 (未発表)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王		一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 歩2

作意：32歩、12玉、23歩、11玉、
 22歩生迄5手。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
						歩	歩		二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

32歩、11玉、22歩で詰み形だが、これでは打歩詰。そこで遠回りをするわけ。

続いてトリウラの逆ルールであるトリオモテ詰。トリオモテとは、駒取りではないときは裏の動きということだから、「トラズウラ」の方がわかり易いかもしれない。

例題(d) トリオモテばか詰、5手詰。

Y-431 (未発表)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 歩2

作意：12歩、22玉、23歩、21玉、
 22歩寄成迄5手。

絶連とも言えるが、最終手がフェアリーの味。

ここからは、出口信男のトリウラ詰個展となります。ばか詰（協力詰）ではありません。なんじゃこりゃ〜、と思ってもらえれば私としては成功と思っています。一応私の解答をつけますが、このルールは勘違いを誘発するように出来ているので、もしかしたら間違い手順かもしれません。

この紹介でトリウラ詰が面白いと思って新作を作られた方はぜひProParaなどへ投稿してください。私も必死に解きたいと思います。

1-1番 トリウラ詰 25手詰。

Y-432 (未発表)

				ス			ス		王	一
		香	歩		香	歩				二
と	と		歩			歩				三
		馬								四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 角歩

詰手順：21角、同玉、32香生、イ同と、12歩、口31玉、22歩、41玉、32歩直生、51玉、62香生、同と、42歩、61玉、52歩、71玉、62歩生、81玉、72歩、91玉、92と右、同角、同と、同玉、82角迄25手。

変化：イで12玉は23歩、11玉、22歩生迄。口で同玉は23歩以下。

詰上がり

										一
王	角	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

配置が繰り返し趣向を暗示しています。32歩の守備力が強力で初手が難しい。ただ33歩が上部を抑えているので、意外に玉は狭いです。

初手あっさり21角と捨てて、32歩を取ります。同とと取られて、持駒歩2枚で詰むかいなと思わせますが歩はかなり強力な駒。12歩と打つと玉方は取ることが出来ず、31玉と逃げる一手なのでした。続けて攻め方は22歩と打つしかなく玉方も絶対の41玉。32歩寄生とは二歩でできないから32歩直生として、作者の狙いが見えてきます。

生歩の壁を作りながら左上隅まで追った局面で82歩生と寄れば一手詰だが、駒取り以外は表の利きで動かなくてはいけないから、82歩生とは動けない。92と直は同玉で逃れるから92と右とするしかないのだが、わざわざ角の利きを通す不利な手のように見えるのが面白い。92で精算して82角打迄。いやー、すごい。詰めてびっくり。二段目に横一線の詰上りとは！

1-2番 トリウラ詰 29手詰。

Y-433 (未発表)

桂	ス	角	歩	王	歩	角	ス	桂	一
と	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	二
桂								桂	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 歩5

詰手順：61角生、同玉、71歩、イ同玉、81桂生、口同玉、91歩、71玉、A81桂生！、61玉、71歩、51玉、

41角生、同玉、51歩、同玉、61歩、41玉、
51歩、31玉、21桂生、同玉、31歩、同玉、
41歩、21玉、31歩、11玉、21桂生迄。
29手。

変化：イで51玉は41角生以下本手順に入る。

紛れ：Aで81歩は歩が足りなくなる。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
歩	桂	歩	歩	歩	歩	歩	桂	玉	一
と	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

初手は左から攻める。Aで81歩と打ってしま
うと最後歩が足りなくなる仕掛けもある。
珍しい横二重線の詰上がりが狙いでしょう。

1-3番 トリウラ詰 33手詰。

Y-434 (未発表)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	金			歩		金			一
			歩						二
					香				三
		金				香			四
									五
		金							六
馬									七
									八
	玉								九

持駒 香2

詰手順：79香、98玉、89香、イ97玉、
88香、96玉、86金、同玉、77香、ロ96玉、
87香、ハ95玉、86香、94玉、84金、同玉、
75香、ニ73玉、84香、62玉、
73香生、51玉、41金、ホ同玉、
32香生、51玉、42香生、61玉、
71金、同玉、82香生、61玉、
72香生迄33手詰。

変化：イで87玉は、98馬、96玉（97玉は
88香、96玉、87馬、95玉、77馬、86合、
同香、94玉、84香迄）、87香、95玉、
86香、94玉、85金、93玉、84金直、92玉、
93金、同玉（81玉は82香生迄）84香、
92玉、83金、81玉、82金、同玉、73香生、
92玉、83香生、81玉、82香生迄。

ロで95玉は86香以下2手早い。

ロで85玉は86香、94玉（74玉、75香、
73玉、84香以下）、84金、同玉75香以下
2手早い。

ハで85玉は86香、94玉以下作意順で追うしか
なく同手数。

ニで93玉は84香、92玉、82金、同玉、
73香生、92玉、83香生、91玉、82香生迄。
ホで61玉は71金、同玉、82香生、61玉、
72香生迄

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			玉						一
	香	香			香	香			二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

トリウラ詰は、表と裏の性能差が大きい駒の方が面白い。その意味で香は恰好の駒です。本作逃げ方が微妙で少しややこしいところがありますが、変化は大体早く詰むようになっていきます。生香四枚の詰上りが狙いですが、2枚の香で玉を追い落とす手順は趣向的でいい感じです。

1-4番 トリウラ詰 33手詰。
Y-435 (未発表)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				玉					一
			と		香				二
			と		桂				三
			と		と				四
			と	香	杏				五
			と	玉	桂				六
			杏	と	杏				七
			と	香	歩				八
			と						九

持駒 なし

詰手順：52香生、同歩、A同桂生、同玉、53と右、51玉、B52と直、同玉、53歩、イ同玉、54桂、ロ同玉、C55杏、同玉、56と、ハ同玉、D57歩打、ニ同金、同歩、同玉、58金、56玉、57と、55玉、56と寄、54玉、55と寄、53玉、54と寄、52玉、53と寄、51玉、E52と寄迄33手。

変化：イで51玉は52と上迄。
ロで52玉は53と上、51玉、42桂生迄。
ハで54玉は55と左上、53玉、54と左上、52玉、53と左上、51玉、52と左上迄。
ニで55玉は56と以下作意手順に入る。

紛れ：Aで同ととは取れない。取るときは歩の動き。

Bで52と左上は62玉、52と寄は61玉。

Cで55と上は同様に進んで、最後一步不足となる。

Dで57とは67玉、57歩上は同金で手が無い。

Eで52と直は同玉。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				玉					一
				と					二
				と					三
				と					四
				と					五
				と					六
				杏	と	杏			七
				金					八
				と					九

持駒 なし

と金の柱が強そうだが、実は全部歩の取り方しかできない役立たず。しかし駒取りでないときはと金の動き方が可能。

序盤の目的は45成香の利きを通す事で、とりあえず玉の逃走範囲を限定出来る。一度追い上げて58金で頭を抑えてから、連続のと寄りで67成香の利きを通しながら追い落とす。こんなことをよく考えるものだ。最後は寄と詰というのだろうか。詰上りは珍形。

1-5番 トリウラ詰 37手詰。
Y-173 (カピタン35号、1987-1)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
			銀			銀		王	六
王	金		銀	金		銀			七
金									八
									九

持駒なし

詰手順：26銀、17玉、27銀、18玉、
17銀、イ19玉、18銀、29玉、28銀、39玉、
29銀、ロ49玉、39銀、59玉、
58金、ハ同玉、57銀、59玉、58銀、69玉、
68銀、79玉、69銀、89玉、88金引、同金、
同金、同玉、78銀、ニ99玉、89金、同玉、
79銀、ホ98玉、88銀、99玉、89銀迄37手。

変化：

イで29玉は28銀、39玉、38銀、49玉、
39銀、59玉、58金、同玉、57銀、59玉、
49銀、69玉、68銀、79玉、78銀、89玉、
88金引、同金、同金、99玉、89銀迄。

ロで48玉は、58銀、49玉、39銀迄。

ハで69玉は68金、79玉、78銀、89玉、
88金引、同金、同金、99玉、89銀迄。

ニで97玉は87金、98玉、88金、99玉、
89銀迄。

ホで99玉は89銀迄。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
王	銀						銀	銀	九

持駒なし

金銀図式の四銀詰。主題はもちろん2枚の銀
でくるりくるりと追う手順の気持ちよさで
しょう。手の感触を楽しむ繰り返す趣向で
す。色々と変化がありますが、全て割り切れて
早く詰むようになっています。途中でバトン
タッチして、最後は雪隠詰。34年前の作です
が、このルールの発想の原点かもしれませ
ん。

第2章

三二詰

《ミニ詰のルール》

- 1.後手は可能な指し手の中で最も距離の短い手を指さなければならない。最短距離の指し手が複数ある場合は、その中のどれを選ぶかは後手の自由。
- 2.他は普通の詰将棋と同じ。

指し手の距離は次のように定める。

将棋盤の一つ一つのマス目を一辺の長さが1の正方形とする。指し手の駒の移動元のマス目の中心から、移動先のマス目の中心までの距離を物差しで測る。それを指し手の距離と定める。斜めの距離はピタゴラスの定理で計算する。

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								将	皇	一
								馬		二
										三
										四
										五
										六
										七
								飛		八
							銀	桂	香	九

持駒 飛歩

- 上図で、
- 19香が11香成とする手の移動距離は8
 - 28飛が23飛生と動くとき移動距離は5
 - 21桂が33桂と跳ぶと、 $\sqrt{5}$ (ルート5)で大体2.236
 - 22角が99角成とすると、 $7\sqrt{2}=9.89\dots$

このように、

- ・成生は指し手の距離とは無関係。
- ・駒を取るかどうかとも距離とは無関係。

また持駒を打つ手はすべて距離1と定める。

ミニ詰ルールの最短距離を最長距離に変えると、マキシ詰になる。オリジナルはチェスにあり、将棋に導入されたのがいつかは明確に分かっている。詰パラ1974年4月号で若島先生がマキシ詰を紹介された。そのあたりについては、拙著「幻想詰将棋型録」に詳しく書いてあります。

本稿は詰将棋の話に限ります。

この2つのルールは2つで一つというか、一方を思いつければ他方も同時に生まれるという性格のものなので、マキシとミニはセットのものと、つい考えてしまいますが実際はマキシ詰がまず出て、ミニ詰が出たのは約8年後でした。

さて、今回ここでミニ詰を取り上げるにあたって、マキシ詰とミニ詰の過去作を調べてみました。個人的な印象では、「マキシ詰は多くてミニ詰は少ない」でしたが、何と実際はどちらも少なかった。マキシ詰は14名の作者で43題、ミニ詰を手掛けたのはたった2名で作品も8題だけ。どちらもほとんど昭和の時代のもので、平成以降は新作はほぼゼロ。複合ルールでかろうじて生き延びている状態です。ばか詰でなくても玉方の指し手をかなりの程度コントロール出来るため余詰みやすいルールであることは確かです。

マキシ詰は趣向作が作りやすいと言われていいます。確かにそんな気はします。逆に普通の短編などはほぼありません。このジャンルでは個人的には上田吉一さんの美濃囲いの23手詰(詰パラ394号、1988-12)が印象に残っています。今回マキシやミニに興味を持たれた方は、ぜひ作図を試みてください。

例題 ミニ詰 5手詰。

Y-113 (カピタン30号、1982-12)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
							歩	馬	二
					桂	歩			三
						飛			四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂

詰手順：23桂、同飛、21歩成、同玉、31飛成迄5手。

例題用に作ったものでしょう。新ルールを発表する場合、ルールの特徴を生かした短手数
の例題が用意できるかどうかはかなり重要
です。本題がミニ詰の発表作第1号となりま
す。

次からは出口信男さんのミニ詰作品展とな
ります。

2-1番 ミニ詰 65手詰。

Y-313 (将78号、1996-1)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
					角	桂	角		三
									四
									五
									六
									七
		銀						金	八
王									九

持駒 歩

詰手順：89角成、同玉、98角成、79玉、

88馬、69玉、78馬、59玉、68馬、49玉、
58馬、39玉、48馬、29玉、38馬、19玉、
18金、同玉、29馬、17玉、28馬、16玉、
27馬、15玉、26馬、14玉、25馬、13玉、
24馬、12玉、23馬、11玉、21桂成、同玉、
12馬、31玉、22馬、41玉、32馬、51玉、
42馬、61玉、52馬、71玉、62馬、81玉、
72馬、91玉、92歩、同玉、81馬、93玉、
82馬、94玉、83馬、95玉、84馬、96玉、
85馬、97玉、86馬、98玉、87馬、99玉、
88馬迄65手。

例題はこっちの方が良いかも。ミニ詰の
エッセンスが詰まっています、分かりやすいし
面白い。距離1の逃げ道を常に確保して√2の王
手をかけるのがミニ詰の定石というのが分か
ります。ノンストップの周辺巡りがこれだけ
の駒数で出来てしまうわけです。玉が反時計
回りに一周回って還元玉で詰め上がる。これ
がホントのミニ煙。

2-2番 ミニ詰 35手詰。

Y-270 (将70号、1993-2)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						馬	桂	王	一
						飛	桂	王	二
						馬	王	王	三
							香		四
								玉	五
									六
									七
									八
									九

持駒 歩4

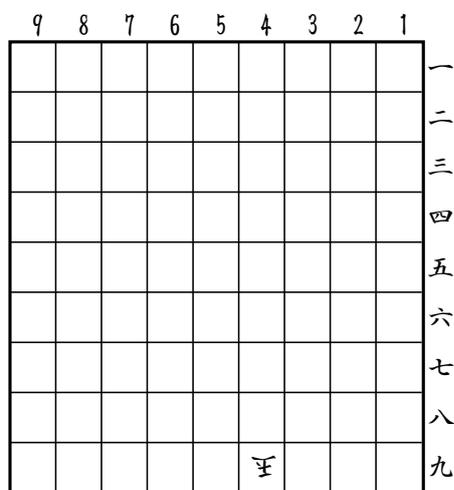
詰手順：22飛成、同圭寄、25桂、12玉、

13歩、同圭寄、同桂成、同玉、25桂、12玉、
13歩、同圭、同桂成、同玉、25桂、12玉、
13歩、同桂、同桂成、同玉、25桂、12玉、

13歩、同角、同桂成、同玉、22角、12玉、11角成、同玉、21金、12玉、22金、13玉、23金迄35手。

桂馬のはがし趣向です。こんなのも出来るんですね。はがす順序がミニ詰ルールのせいもあり限定されているのが面白い。最後21金と打つのが変な感じですがキッチリ詰みません。

2-3番 ミニ詰 37手詰。不完全作。
Y-128 (カピタン30号、1982-12)



持駒 金銀2桂2歩2

詰手順：38銀、59玉、68銀、69玉、59金、78玉、69金、88玉、79金、87玉、78金、86玉、77金、85玉、76金、84玉、75金、83玉、74金、93玉、84金、92玉、93歩、91玉、83桂、81玉、82歩、同玉、73金、81玉、71桂成、同玉、62金、81玉、72金、91玉、83桂迄37手。

裸玉です。残念ながら本題は余詰作でしたが、作者が裸玉と煙詰をそろえたのは意図的でないはずがなく、図巧の故事に倣ったメタ趣向であることは確実でしょう。ということで重要作なので取り上げます。

ミニ詰の定石は「 $\sqrt{2}$ の王手をして、1の逃路に追う」です。金が先手の持駒にある状態では8段目の玉は簡単に上辺隅に追い込むことが

でき、その時の持駒によっては詰む。逆に言うと金を持たれていたら玉は極力8段目に来ないようにする。これを頭に入れておくと、序盤が理解しやすいかと思います。2手目48玉は8段目なので、ずりずり上辺隅に追えば簡単です。39玉は49金、28玉のところで、39金と入るのがミニ詰流の妙手で簡単に捕まる。

そこで、2手目は59玉とするのが本手順となります。68銀と追い打ちを掛けて、当然の69玉に59金から69金のすり込みで8段目に落とすことに成功します。ただこの折衝で銀を2枚とも使ったので、上辺に追い落としたときに桂2歩2の持駒でどう詰めるかが問題になるわけです。というか、作る方からしてみたら、「持駒に何を何枚持たせたらちょうど割り切れるのか。」という正算式の作図問題となるわけです。

手順中8筋を下がるか9筋を下がるかは、玉方に選択権があり紛らわしい。作意手順では74金に82玉ではなく93玉と寄る手が最強の抵抗なので、9筋から下がっても結局同じ形に接続する。すわ中分かれの変同かと早とちりをしそうになりますが、9筋を下がると85金、93玉の時に、作意通りでも詰みませんが、実は94歩以下の早詰が生じるので、8筋を下がるのが正解となります。作意順では74金、93玉には84金と抑えるしかない。うまく出来ています。

85金、93玉の局面で94歩とする早詰順は以下の通り。

94歩、甲92玉、84桂、乙91玉、83桂、81玉、82歩、同玉、93歩成、81玉、92と迄31手。

甲で83玉は74金、82玉、93歩成、81玉（72玉は63金、61玉、62金、81玉、72金、91玉、82金迄33手）73桂、71玉、72歩、同玉、63金、71玉、83桂迄33手。

乙で82玉は83歩、同玉（81玉は72桂成、91玉、82圭迄）74金、82玉、73金、81玉、72桂成、91玉、82金迄33手。

ところで初手を58銀の方から打つとどうなるかを検討してみましょう。

48玉や59玉は銀桂歩を持駒に8段目に追い出せるので詰みます。問題は39玉の応手。28銀に29玉と潜られるとこんなに狭い玉なのにどうしても詰まない。不思議です。

そもそもどうして最初の玉位置が49玉なのでしょう。この作者のことですから、裸玉の全検くらいはやった可能性がありますし、手数短いものは見つけていても発表しなかったかもしれません。

ところで、本題には残念ながら余詰がありました。下図が28手目の局面。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
	玉								二
	歩	桂							三
	金								四
									五
									六
									七
			銀			銀			八
									九

持駒 桂

ここで作意手順の73金くらいしか手がなさそうですが、74桂と打つ手がありました。72玉とされて持駒無しで詰むかいな...

余詰：74桂、72玉、71桂成！、同玉、62桂成、81玉、72圭、91玉、92歩成、同玉、83金、91玉、82金迄。

まるで煙の収束のような美しさです。

出口信男さんはこのミニ詰の裸玉と次の煙詰をセットで出してきた。実はこの2年前にマキシ詰で同じく裸玉と煙詰を発表している。

マキシ煙詰：詰パラ1980-5

マキシ裸玉：詰パラ1980-12

半年の間をおいて別々に掲載されたので真相は不明ですが、こちらの2作も意図的にセットで作図されたのかもしれませんが。いやきつとそうだ。

2-4番 ミニ詰 161手詰。

Y-129 (カピタン30号、1982-12)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	と	と	と	と		銀		玉	一
銀					歩	歩	と		二
歩	歩	歩	歩		歩	角	と		三
香			桂			桂	と		四
香							と	と	五
飛	飛						と	と	六
						金	銀		七
	金	桂	香	桂	香				八
	金	金				玉	銀		九

持駒 なし

詰手順：38金、49玉、39金、同玉、28銀、49玉、38銀、59玉、69金、同玉、79金、59玉、69金、同玉、99飛、79金、同飛、同玉、89金、69玉、79金、同玉、89飛、同玉、88角成、同玉、99金、78玉、89金、68玉、79金、58玉、69金、48玉、59金、38玉、49金、28玉、39金、18玉（中間1図,40手経過）

ミニ詰の煙ですが、いわゆるミニ煙ではなく本物の39枚使用の煙詰です。マキシ煙の時はマキシ詰というものが24作あった状態で煙詰が発表された。煙詰としては初物（服部敦さんと同時発表で1号局と2号局）でしたけど。

本題の場合はミニ詰自体が作例ゼロの状態
で煙詰が突然出現した。まず、その意義を強
調しなければなりません。地図が存在しない
地点を調べ、そこに山があることを発見し
て、実際に登頂してみせたわけです。解答者も
一様に驚いた。

手順は右下隅から始まる。微妙な駒繰りか
ら9段目を左辺に追い、金合を絡めて飛車角3
枚を早めにぶった切ります。裸玉でお見せし
たように玉を8段目に連れ出せば金一枚で追う
ことが出来る。8段目の桂と香がただ取られる
だけの配置のように見えますが、そんなこと
はない。試しに78桂を78歩としてみます。こ
のままでは二歩ですけど、8筋を下がられて攻
めが続かない。68香、58桂、48香も玉を右下
に誘導するための必要駒になっています。

さて、40手掛けて下辺の駒をスweepして
右下隅に戻ってきました。

中間1図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		と	と	と	と		銀		玉	一
銀							歩	歩	と	二
歩	歩	歩	歩		歩			と		三
香			桂				桂	と		四
香								と	と	五
								と	と	六
										七
									玉	八
							金			九

持駒 なし

中間1図より、
17と、同玉、16と引、18玉、17と、19玉、
18と、同玉、29金、17玉、27と、同玉、
38金、17玉、28金、16玉、26と、同玉、
37金、16玉、27金、15玉、25と、同玉、
36金、15玉、26金、14玉、24と、同玉、
35金、14玉、25金、13玉、23と、同玉、

22桂成、13玉、23圭、同玉、34金、13玉、
24金、12玉、22銀成、同玉、13金、21玉
(中間2図,88手経過)

17とを19玉とかわすと18と、同玉、29金、
17玉、16と引迄だから、同玉。ここで15とが
実は邪魔駒。これがなければ、すぐに27と、
同玉、38金、17玉、28金、16玉と出来る。そ
こで16とから17とだが、今度は19玉とかわす
のが正解。同玉と取ると4手短くなる。ここか
ら奇妙なジグザグ金の趣向手順で右上隅まで
追い落とします。

22桂成に33玉と逃げると、42銀生、43玉、
34金、42玉、52桂成迄の変化は気が利いてい
る。序盤から気になる11の馬がここから表舞
台に登場する。

中間2図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		と	と	と	と			玉	玉	一
銀						歩	歩			二
歩	歩	歩	歩		歩				金	三
香			桂							四
香										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

中間2図より、
31歩成、同玉、42歩成、21玉、22歩、同馬、
32と、同馬、12金、31玉、41と、同玉、
52桂成、31玉、42圭、同馬、22金、41玉、
51と、同玉、62歩成、41玉、52と、同馬、
32金、51玉、61と、同玉、72歩成、51玉、
62と、同馬、42金、61玉、71と、同玉、
82歩成、61玉、72と、同馬、52金、71玉、
81銀成、同玉、92歩成、71玉、82と、同馬、

62金、81玉、92香成、同馬、72金、91玉
(中間3図,142手経過)

何と馬を引き連れての夏立ち型の横追い手順が出てくる。ミニ詰ならではのロジックで誠に鮮やかと言うほか無い。ご本人に聞いたわけではありませんが、私はこの手順の発見が本作の出発点ではないかと想像しています。

8手一組の繰り返しで気持ちよく左上隅に追い詰めた局面が次図。鍋に入ったと思われる最終盤のはずのこの局面が案外難しい。92香とパクつくと上部に逃げられる。かと言って持駒はない。

中間3図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
玉									一
玉		金							二
									三
									四
香									五
									六
									七
									八
									九

持駒なし

中間3図より、
81金！、同玉、92香成、71玉、82杏、61玉、
72杏、51玉、62杏、41玉、52杏、31玉、
42杏、21玉、32杏、11玉、33角、12玉、
22角成迄161手。

こんなところで妙手81金捨が飛び出すとは驚き。同玉の一手に今度は大威張りで馬が取れる。

単騎の成香で右上隅まで追って長丁場の大団円となる。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						杏	馬	玉	二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒なし

下辺と上辺で一往復ずつさせる全体の構成も見事で、右辺の縦追いと上辺の馬を引き連れての横追いともにオリジナルな手順です。それまでミニ詰を作った人がいなかったの、そんなこと当たり前みたいですが、オリジナル感が強い手順です。

出口信男さんの最高傑作が何かは色々楽しい議論があるところと思うが、本局をベスト・ワンという人がいても納得します。

以下にプロパラ会での参加者の感想をチャットから転載します。

菊田裕司／素晴らしい！

山田嘉則／左隅で終わりと思ったらまた右に追うのが、これでもか、という感じでした。

岸本裕真／最後まで面白いですね

NAOKI UETANI／これは傑作ですね。趣向手順のバラエティがこれでもかというぐらい盛り込まれておりどうしようもなく完璧です

tadashi／やはりこれは歴史に残る傑作ですね。美しい。

山田嘉則／僕はこれが最高傑作だと思っています。

Toshimasa Fujiwara／今回も楽しかったです。ありがとうございます。

第3章

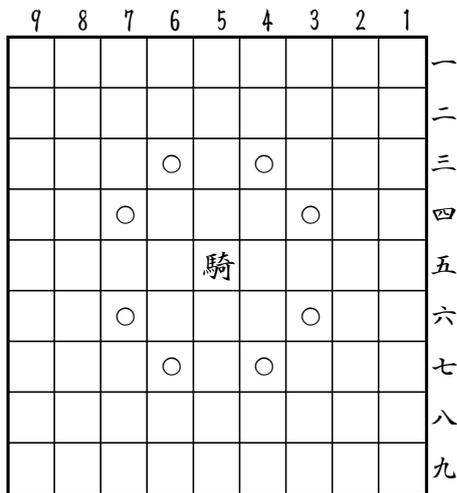
駒詰

玉以外の駒を詰める詰将棋を駒詰と言います。詰の対象となる駒をロイヤル駒と言いますが、本章ではロイヤル駒として、チェスのナイトや朝鮮将棋（チャンギ）の象（サン）などが登場します。

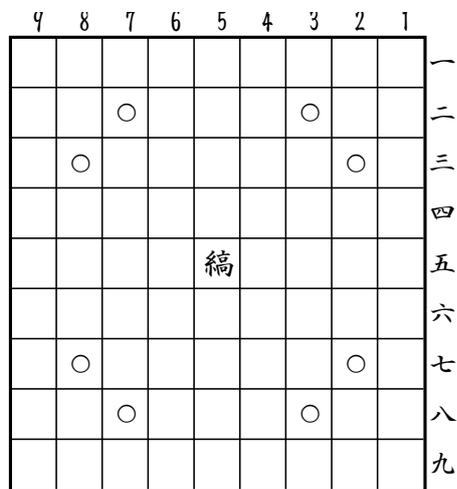
まず動き方の説明。

ナイトとゼブラはいわゆるリーパー族の駒で、各々の動き方は次の図の通り。ナイトは(1,2)リーパー、ゼブラは(2,3)リーパーと言ったりします。図面ではナイトは騎、ゼブラは縞で表すことにします。

〈ナイト（騎）の動き方〉



〈ゼブラ（縞）の動き方〉

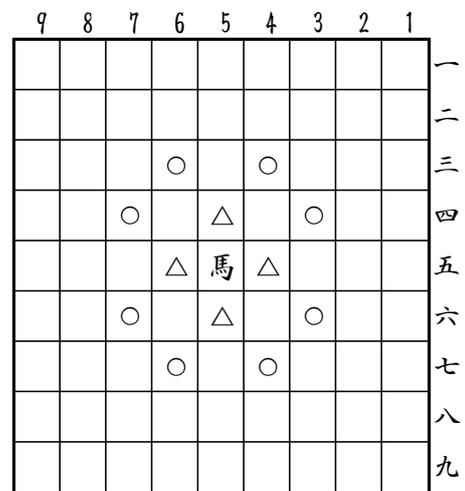


これらの駒は現在地点と行先地点との位置関係のみが問題となり、途中の駒配置は無関係です。将棋では桂馬が同様の性質を持っています。ただ桂馬と違ってバックが出来るためか、行き所のない駒になりません。従って行きどころのない駒の禁則は適用されません。

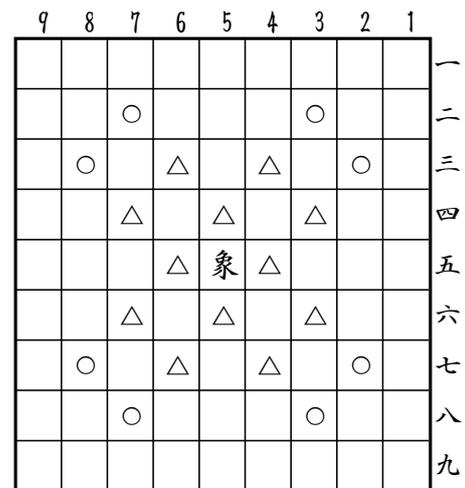
もう一点、通常成は設定されません。

続いて中国象棋の馬（マ）と朝鮮将棋の馬（マ）でこれらは同じ性能を持っています。

〈馬（マ）の動き方〉



〈象（サン）の動き方〉



馬（マ）と象（サン）はリーパーとしての性能は各々ナイトやゼブラと同じですが、大きく異なるのは途中の配置によって跳べなく

なることがある。言ってみれば合駒が利くことです。

ジャンプには移動順序があり、「まず最初に縦横の隣のマスに動き、続いて斜めのマスを移動する」と考える。その経路途中で駒があればその方向には跳び越えられなくなると考えると、理解しやすい。

図の△の位置に敵または味方の駒があるとその方向の○には跳べなくなる。これを表す絆馬脚（馬の脚を縛る）という用語があるとのことです。

続いて朝鮮将棋の包（ポ）

〈包（ポ）の動き方〉

将棋の飛車と同様に縦横に何マスでも動ける。ただし、駒を一枚だけかつ一回だけ跳び越えなければならぬ、という特殊な性格がある。

- ・一度に2枚以上の駒は跳べない。
- ・一度跳んだ後空所である限り何マスでも動ける。線上の最初の駒が敵駒の時、その駒を取れる。敵駒を取ったらそこで止まる。
- ・敵駒を取るときも取らないときも、駒を跳び越えなければならぬ。中国象棋の炮（パオ=Pao）は駒取りでない場合は跳ばなくても良いので、そこが異なる。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
		歩	歩		馬	香			五
									六
					銀				七
									八
					桂				九

上図で、55包の可能な指し手は、85包（85歩を取る）、58包（駒取りなし）、59包（59桂を取る）、35包（駒取りなし）、25包（駒取りなし）、15包（駒取りなし）の6通りだけ。51方面には動けない。

包に関しては他にも細かいルールがあるが、今回の問題には影響がないので省略する。

なお上記のようなフェアリー駒については、通常成は設定しない。

神無次郎氏によるフェアリー詰将棋の解図・検討プログラム=fmが実用化されると、早い段階でリーパー系の裸玉を歩だけで詰めるばかり詰の完全検討に応用された。

神無七郎氏の「八方桂+持駒歩 調査報告 1996年」(<http://k7ro.sakura.ne.jp/report/komamap.html>)がまとめた研究成果になる。そこではナイト（騎）、キャメル（駱駝）、ゼブラ（縞馬）、ジラフ（きりん）、Five-Leaper、Root-50-Leaperの6種類が扱われている。

神無七郎氏の論考中、ナイト王の裸玉持駒歩のみの協力詰について、持駒2歩と3歩のものが調査発表されている。その結果を元に筆者が持駒歩が4枚以上の場合を追加調査し、完全作を表の形にまとめたものが次の表である。ただし鏡像配置を除いてあるので、1筋から5筋までのみ。

表で、例えば11のマスに3とあるのは、11ナイト王の裸玉の場合は持駒歩3枚のときのみ完全作があるということ。

また数字の2が入っているマスは上辺の5箇所だけだが、持駒歩2枚の完全作が存在するのはこの5箇所だけということである。

持駒歩枚数別ナイト王（裸玉）完全作分布

5	4	3	2	1	
3	3	3		3	一
	2	2	3		二
3	2	2	2		三
3		3	3	3	四
		3	4	3	五
	4	3 4	4	4	六
		3		4	七
4	4	3 4 5	4		八
					九

この表から、この条件では持駒が歩6枚以上の完全作はなく、完全作は全部で31作あることが分かる。

ところが上記の神無七郎氏の論考が出る3年前の1993年7月発行の将77号で出口氏は38玉型のナイト王裸玉を3作並べて発表している（次の1番～3番）。

完全作分布の表で確認してみると、同一玉位置で完全作が複数あるのは、36が2題、38が3題あるだけで、出口さんが発表したナイト王ばか詰はこの38玉型の3題のみ。これは偶然の一致だろうか。氏は裸玉の完全作の分布をかなりの程度（完全に？）把握していたのではないか。

それでは問題の38玉型の裸玉3局を手数の短い順（持駒の多い順）に並べましょう。

3-1番 ばか詰 13手詰。

Y-278 (将77号、1993-7)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
						駒			七
									八
									九

持駒 歩5

詰手順：39歩、46騎、47歩、54騎、55歩、62騎、63歩、83騎、84歩、71騎、62歩成、92騎、83歩成迄13手。

7手目からの手順は42玉型裸玉持駒歩2の鏡像手順になっている。歩の枚数に余裕があるときは、手早く上辺まで運ぶのが良い。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
駒			と						二
	と								三
									四
				歩					五
									六
						歩			七
									八
							歩		九

持駒 なし

3-2番 ばか詰 19手詰。

Y-279 (将77号、1993-7)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
						驃			八
									九

持駒 歩4

詰手順：39歩、46騎、47歩、65騎、
66歩、53騎、54歩、45騎、46歩、64騎、
65歩、52騎、53歩成、44騎、43と、23騎、
33と、11騎、22と迄19手。

3手目から6手サイクル（後述）手順に入り、53歩成としてからは最短距離で11で詰む。ナイト王はこのようにと金一枚で詰んでしまう。ちなみに、頭2手を削って46玉型持駒歩3の17手詰になるかと言うと、そうはならない。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								驃	一
							と		二
									三
									四
			歩						五
				歩					六
									七
									八
						歩			九

持駒 なし

3-3番 ばか詰 27手詰。

Y-280 (将77号、1993-7)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 歩3

詰手順：39歩、57騎、58歩、45騎、
46歩、37騎、38歩、56騎、57歩、44騎、
45歩、36騎、37歩、55騎、56歩、43騎、
44歩、35騎、36歩、54騎、55歩、42騎、
43歩成、23騎、33と、11騎、22と迄27手。

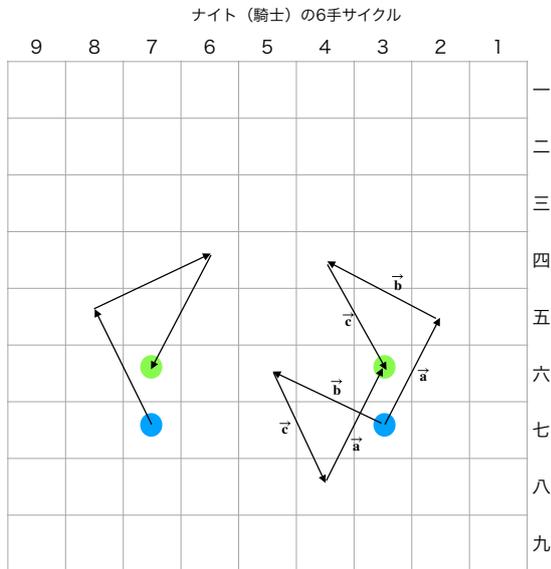
ナイト王は生歩だけでは詰まないの、歩が成れる地点までナイト王を移動しなければならない。その移動の仕方は色々あるので、本作の場合正解手順以外では27手で詰まないのは不思議な感じがする。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								驃	一
							と		二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

歩が3枚あれば6手のサイクル手順で玉を1段ずらすことが出来る。6手のサイクル手順のバリエーションは、 $(1,2)+(1,-2)+(-2,1)=(0,1)$ の順列が $3!=6$ 通り、その鏡像 $(-1,2)+(-1,-2)+(2,1)=(0,1)$ の順列が $3!=6$ 通りの計12通りある。



ナイト（騎士）を3回動かして元の位置から見て、1マス上に移動することを考える。

$$(-1,2)+(2,1)+(-1,-2)=(0,1)$$

ベクトルの足し算は順序と無関係なので、並べ替えても結果は変わらない。並べ方は $3!=6$ 通りある。また、符号を入れ替えた。次のベクトルの和も $(0,1)$ になる。

$$(1,2)+(-2,1)+(1,-2)=(0,1)$$

こちらの順列も6通りある。ただし、どちらの場合も将棋盤の外に出ることがあるので、その場合はノーカウント。

12通りは理論値で、実際はナイト王が盤外に出たり、9段目に移動すると歩が打てないなどでナイト王の位置によっては12通りすべてが可能になるわけではない。

従って、余詰（非限定）が出てても不思議はないのです。しかし、上辺に追って歩が成れる位置に来たときにどの筋で成るとその後最短手数で詰められるか、という微妙な問題が

あって玉位置によって完全作になったり非限定になったりすることになる。

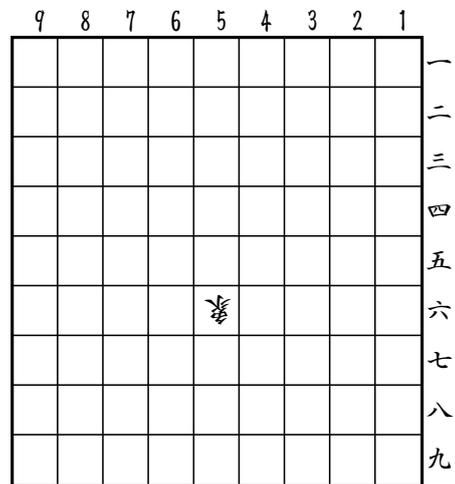
歩が4枚以上ある場合は繰り返しを厳密にしなければ早く詰める手順があったりするわけです。

出口氏が取り上げたリーパーは、他に camel（駱駝） = $(1,3)$ リーパー、giraffe（麒麟） = $(1,4)$ リーパーがあるが今回は省略する。

続いて変則的なリーパーである朝鮮将棋の象に移る。リーパー自体が変則的な駒なのですが、その上絆馬脚というルールがある。象は誰かが頭の中で考え出したフェアリー駒ではなく、現実には遊ばれているゲーム（朝鮮将棋）の駒というのが不思議な感じですが。出口信男氏はここに注目した。

3-4番 ばか詰 19手詰。

Y-185（カピタン39号、1988-5）



持駒 歩6

詰手順：57歩、33象、34歩、65象、66歩、42象、33歩成、74象、75歩、51象、42と、34象、35歩、62象、52と、45象、46歩、73象、74歩迄19手。

作者／歩が7枚あれば17手で詰みます。そちらの方が若干詰め難いと思うのですが、簡単な方を投稿します。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
				と					二
		▲							三
		歩							四
						歩			五
			歩	歩					六
			歩						七
									八
									九

持駒 なし

74歩が絆馬脚のルールにより96への逃走を防いでいるのでこれで詰上り。その17手詰の方を次に上げる。

3-5番 ばか詰 17手詰。

Y-186 (カピタン39号、1988-5)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
				▲					五
									六
									七
									八
									九

持駒 歩7

詰手順：57歩、33象、34歩、65象、66歩、42象、33歩成、74象、75歩、46象、47歩、18象、19歩、35象、36歩、12象、22と迄17手。

ということで、5番は出題されなかった方。詰手順は私の解ですが、樹形図を書いて全検しました。答えがあると分かっている、それなりに時間がかかった記憶がある。最後の22とが44への逃路を防ぐ絆馬脚の一手。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
							と	▲	二
									三
									四
		歩							五
			歩			歩			六
				歩	歩				七
									八
								歩	九

持駒 なし

作者は象王を歩で詰めるばか詰を全検したと担当の服部さんが書いていて、カピタンにその全検結果が書かれている。どうやら転記ミスがあったらしく掲載されたものは正しいものではない。

ところで、このような検討を人力で行うには途方も無い根気と時間が必要と思うが、この熱量はどこから来るのでしょうか。

ここで、一つ疑問が出ます。56象が絆馬脚のないゼブラだったらどうなのか。ゼブラの方が合駒が利かないだけ手数が長く掛かりそうな気もしますが、...

3-6番 ばか詰 19手詰。

Y-213 (カピタン47号、1990-9)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
				歩					六
									七
									八
									九

持駒 歩6

詰手順：57歩、33縞、34歩、65縞、
66歩、42縞、33歩成、25縞、26歩、53縞、
43と、36縞、37歩、13縞、14歩、45縞、
44と、22縞、13歩成迄19手

7手目までは5番と同一手順。8手目以降が別
ルートとなるが同手数で19手で詰む。私見で
は、協力詰は「詰上り形をいかに（早く）作
るか」という問題だから途中の局面では玉の
行動範囲が広いほうが詰めやすい意味があ
る、ということかと。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
							歩		二
								と	三
				と					四
									五
			歩				歩		六
				歩		歩			七
									八
									九

持駒 なし

3-7番 ばか詰 35手詰。

Y-215 (カピタン47号、1990-9)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
							歩		八
									九

持駒 歩5

詰手順：39歩、55縞、56歩、23縞、
24歩、46縞、47歩、14縞、15歩、37縞、
38歩、54縞、55歩、22縞、23歩生、45縞、
46歩、13縞、14歩、36縞、37歩、53縞、
54歩、21縞、22歩生、44縞、45歩、12縞、
13歩成、35縞、36歩、63縞、
53歩成、31縞、21歩成迄35手。

詰上がり

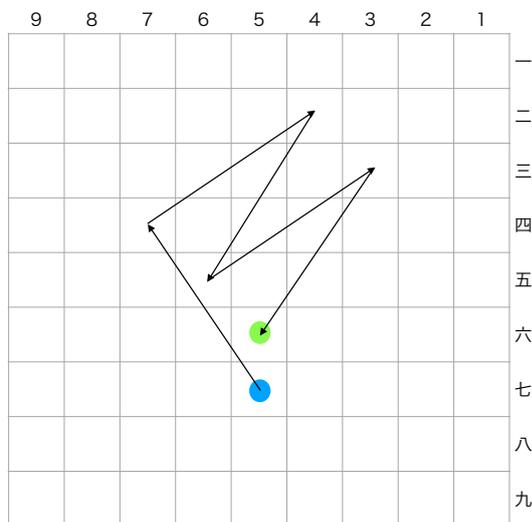
9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						歩	と		一
									二
				と				と	三
									四
						歩			五
							歩		六
									七
									八
									九

持駒 なし

3番の解説で書いた通りナイト王を6手サイ
クルで一段ずつ追い上げる手順があるのと同
様に、ゼブラ王では5回動いて隣のマスに戻
る手順があり、そのサイクル途中に同じ列に2度

以上来ることはない。持駒が5歩必要となるが、10手のサイクルが出来る。

zabra (縞馬) の10手サイクル



zabra (縞馬) の場合は5回動かして元の位置から見て、1マス上に移動することが出来る。

$$(-2,3)+(3,2)+(-2,-3)+(3,2)+(-2,-3)=(0,1)$$

今回の順列は $5!=120$ 通りとなる。ただし、盤の外に出るのは無効だから最大120通りということ。

当時出題されたのは56縞型裸玉で持駒が歩6枚 (19手) と歩5枚 (29手) の2題だけだった。38玉型の本作は作者の出題時のコメントで触れられただけで出題はされなかった。塩田洋氏は出題図の解答に、出題されなかった本題の解答を付け加えた。

塩田洋 / 35手のものも解いてみましたが、手数が多いほど簡単です。10手一組の趣向手順は大発見です。

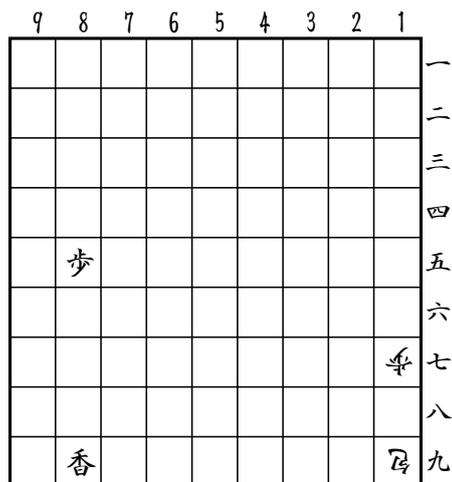
前掲の神無七郎氏の研究によるとゼブラ裸玉を歩だけで詰めるばか詰の完全作ではこの35手詰が最長! だったとのことで、その上何と第2位の長手数が56縞+歩5枚の29手詰なのだとか。作者は最長手数については一切触れ

ていないのですが、発表した3題中の2題が特別な2題であることが分かる。これも出口氏が全検をやっていることの傍証ではないでしょうか。fm登場以前という時期を考えると多分人力で行っているのかもしれませんが、何か効率的なメソッドがあるのでしょうか。

次は包を使用した協力詰。包は朝鮮将棋の駒。動き方は飛車のように縦横に何マスでも動ける走り駒で、ただし必ず駒を跳び越えなければならない。詳しくは本稿前半部分を参照のこと。19包がロイヤル (王属性) 駒で、詰める対象です。

3-8番 ばか詰 61手詰。

Y-152 (カピタン32号、1985-11)



持駒 銀

詰手順：28銀、16包、17銀、18包、19歩、15包、16銀、17包、18歩、14包、15銀、16包、17歩、13包、14銀、15包、16歩、12包、13銀生、14包、15歩、11包、12銀生、13包、23銀成、43包、33全、13包、14歩、53包、43全、23包、13歩成、63包、53全、33包、23と、73包、63全、43包、33と、83包、73全、53包、43と、93包、83全、63包、53と、33包、43と、83包!、84歩、23包、33と、93包、83歩成、63包、73と、93包、83香成迄61手。

包の性質から導き出されるシンプルな原理を徹底的に利用する。結果的に包は1筋と3段目だけを動く。1筋はきっちり11まで行ってからごく自然に直角にターンする。見事です。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
馬	香	と				と			三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

詰めるには8筋の香と歩を利用するしかないから、8筋まで追うのは自然だが、さてどこでどうやって詰めるのだろうか。このパズル性が本題の二つ目の美点。

83全と据えてから、一旦右に戻してあっと驚く事になる。詰の主演として振る舞ってきた成銀を包にあっさり取らせてしまうとは！そして急転直下83香成迄の詰。包の性質を十全に生かしたこの詰上り。このような簡素極まりない配置から飛び出す繰り返す趣向とパズル性の融合。詰上りの意外性も演出効果が高く、素晴らしい作と言えよう。

続いて中国象棋や朝鮮将棋の馬（マ）を詰める詰将棋。まずは肩慣らしに裸玉の協力詰から。

※この後の3-9と3-10の盤面の馬は将棋の成角ではなく中国象棋や朝鮮将棋の馬（マ）でロイヤル（王属性）駒なので注意をすること。

馬（マ）の動き方は本章最初の動き方の解説部分を参照のこと。

3-9番 ばか詰 23手詰。

Y-183 (カピタン38号、1988-3)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
								銀	七
									八
									九

持駒 歩4

詰手順：18歩、25馬、26歩、33馬、34歩、54馬、55歩、42馬、33歩成、21馬、22と、42馬、32と、34馬、33と、53馬、43と、45馬、44と、24馬、34と、16馬、17歩迄23手。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
						と			四
				歩					五
							歩	銀	六
							歩		七
									八
									九

持駒 なし

詰上がりが二重の絆馬脚になっていて、馬王は28、37、には動けない。手順は33に成っ

たと金が22~32~33~43~44~34と大活躍する。

ちなみに17馬王を17ナイト王としても完全作となり、そちらは13手で詰む。手順は次の通り。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
								駒	七
									八
									九

持駒 歩4

詰手順：18歩、25駒、26歩、33駒、34歩、A45駒、46歩、24駒、25歩、32駒、33歩成、11駒、22と迄13手。

17馬王の場合はこの手順は成立しない。Aの45駒が絆馬脚のため指せないわけです。続いて双方の玉が馬王の長編趣向詰。

3-10番 ばか詰 121手詰。
Y-184 (カピタン38号、1988-3)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						歩			一
			駒	駒				駒	二
			馬						三
		駒					駒		四
		駒	駒	駒					五
	歩				ス			駒	六
	歩	駒			駒				七
			駒					駒	八
駒			駒						九

持駒 なし

※63馬と65馬は将棋の成角ではなく中国象棋や朝鮮将棋の馬（マ）でロイヤル（王属性）駒。

63馬と65馬は双方ロイヤル駒。つまり本作は双玉詰将棋である。協力詰だが当然王将が自ら敵駒が利いているマスに移動することはできない。

詰手順：44馬、73馬、/65馬、61馬、73馬、42馬、61馬、21馬、42馬、13馬、21馬、25馬、33馬、17馬、25馬、38馬、17馬、57馬、38馬、65馬、46馬、73馬、/65馬、61馬、73馬、42馬、61馬、21馬、42馬、13馬、21馬、25馬、33馬、17馬、25馬、38馬、17馬、57馬、38馬、A78馬、57馬、86馬、78馬、65馬、86馬、73馬、/65馬、61馬、73馬、42馬、61馬、21馬、42馬、13馬、21馬、25馬、33馬、17馬、25馬、38馬、17馬、57馬、38馬、78馬、57馬、97馬、78馬、85馬、66馬、73馬、/85馬、61馬、73馬、42馬、61馬、21馬、42馬、13馬、21馬、25馬、33馬、17馬、25馬、38馬、17馬、57馬、38馬、78馬、57馬、86馬、78馬、94馬、95歩、同飛生、86馬、73馬、/65馬、61馬、73馬、42馬、61馬、21馬、42馬、13馬、21馬、25馬、33馬、17馬、25馬、38馬、17馬、57馬、38馬、78馬、59馬、97馬、78馬、85馬、66馬、97馬、98香迄121手。

回転型知恵の輪趣向作。5回転します。互いに同一性能の王駒で王手をかけ続けるというテーマです。同一性能だから、王手は自動的に逆王手になるはずと思えますが、絆馬脚を利用するとそんな不可能が可能になる、という発見。

不可逆的な一方通行の回転コースがある。この発明がまず凄いところ。一方通行なので一度に一つのことしか行えないのだ。このコースを5回転することになるが、意味付けは明快だ。

各サイクルのスタートは65馬（または85馬）で手順中に目印として/を付けた。

1回転目は、57馬を妨害している46とを除去。

2回転目は、57馬と入って86歩を取らせる。86歩は97馬と取らせた後85馬を妨害している邪魔駒。

3回転目は、97歩を除去。

4回転目は、95歩と打って99飛を移動する。95同飛不成の理由は直後の86馬が逆王手で指せなくなるのを防止するため（先手の馬もロイヤル駒！）。99飛が移動したことで、始めて最終目的の59香が入手できる。

5回転目は、いよいよ59香（成香）を取る。

下図は115手目の59馬と香を取った手に対して97馬と逃げた局面（116手目）。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						歩			一
			桂	馬				歩	二
									三
		香					桂		四
飛	歩	歩							五
								桂	六
玉	歩			歩					七
			歩				歩		八
				馬					九

持駒 香

ここからは急転直下の詰みとなる。最終手も99香と離して打ったりすると、絆馬脚にならず89玉と逃げられて失敗する。手順は全手順完全限定になっているというもの凄さ。

ところで、40手目Aより、48香と絆馬脚で受ける手がある。以下58歩 65玉以下一回転してから、... 17玉、25王、29玉、17王迄の早詰指摘があったそうだが、最終手以降18銀

などという抵抗があり詰んでいない。馬王には合駒が利くのだった。

本題は同一性能の王駒で王手を掛け続けるという摩訶不思議な詰将棋で、アイデアの突飛さと、作品の完成度が高レベルでバランスされている。出口信男を代表する傑作の一つと言わざるを得ない。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						歩			一
			桂	馬				歩	二
									三
		香					桂		四
飛	歩	歩							五
			馬					桂	六
玉	歩			歩					七
香			歩				歩		八
									九

持駒 なし

第4章

天竺詰

出口信男（左真樹）の登場

《天竺詰のルール》

王将は王手を掛けられると本来の動きを失い、王手を掛けている駒の動きになる。王手を掛けている駒が複数ある場合は、それらの駒すべての動きを併せ持つ。先手の王将も同じ条件に従う。他は通常の詰将棋のルールと同じ。鏡詰という名称もある。

ちなみにチェスで天竺ルールにあたるのは Transmuted Kings と言い、後手玉のみ性能が変化するという条件がつくのを Transmuted King と区別する。

王将が色々な駒の動き方に変化するので、変化に富み華やかな感じを受ける。飛角の王手に対しては遠くに逃げることのできるなど大駒に強く、逆に桂香歩に弱い。特に香や歩の王手に対して玉がかわす手はない。ただし、打歩詰は禁手なので注意が必要。

ルールの発案者は飯田岳一氏。氏の持論の通り明快で分かりやすいルール。天竺詰という名称は門脇芳桂氏が名付けた。安南や対面など他の変身系ルールと比べると性能変化が玉のみというのは作る方にとってだけでなく、鑑賞する側にとっても分かりやすい面がある。

なぜ天竺詰などという変わった名称がついたのか真相は分からない。飛車や角で王手をされた王将が遠くに逃げてしまう様子が、筋斗雲に乗った孫悟空のようだという門脇氏の解説があったような、、、。あくまで想像だが安南詰の前例が大きいのではないだろうか。変則ルールに異国の古称を流用するのがお約束だったのかもしれない。

筆者は安南詰も天竺詰も付き合いが長く、体に馴染んでしまったので特に違和感はない。読者の方々の感想が聞きたいものです。

4-1番 天竺ばか詰 3手詰 修正図。

Y-1 (カピタン13号、1977-11)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
		角				歩			三
									四
						王			五
									六
		角				王			七
									八
						歩			九

持駒 なし

本作が出口信男の作品番号第1番である。ただし上の図は改良図で公開されるのは今回が初めて。

詰手順：44角、同飛成、46角生迄3手。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
						歩			三
					歩				四
						王			五
					角				六
						王			七
									八
									九

持駒 なし

最終手で46角成とすると玉=馬となり34や25に逃げられる。それを防ぐ不成の意味は分かりやすい。しかし上の図は一見して詰んでいるように見えない。46角の王手を防ぐ手がありそうに見えるからだ。現在35玉は角の性

能だが、王手を回避出来るような手は次の2通り。

1. 17玉と逃げる手。

33飛車が37王に直射して先手の王に飛車の王手がかかる。天竺ルールによって37王=飛となって17玉に逆王手が掛かってしまう。

2. 46同龍と取る手。

37王に龍の王手がかかる。天竺ルールによって37王=龍となって35玉に逆王手が掛かってしまう。

以上いずれの応手も王手を回避したように見えて、別の王手がかかってしまい失敗となる。

結局王手を回避することは出来ずこのままで詰みというロジック。詰手順2手目の同飛成を同飛不成とすると、2の手順で46同飛が王手にならず王手回避が出来てしまう。従って2手目は成らなければならない。協力詰で後手方の成は多くの場合妙手である。

出口信男氏は天竺詰の草創期に、逆王手を利用したこの法則問題でデビューした。たった3手の協力詰だが初めて目にするこのロジックは新鮮で、解答者は賛辞を惜しまなかった。

ただ発表図は最終手で合駒が可能な図だった。当時は伝統詰将棋の無駄合概念が援用されていたため、無駄合として問題にはならなかったが、後年「協力詰系統では合駒はすべて有効」とルールが明確化されたこともあり、作者は後に合駒の余地がないように改良した。本図はその改良図である。

詰パラ269号(1978-7)で、フェアリー担当の門脇芳桂氏が「大型新人が一人誕生。変則専門?だが期待できる人。来月登場予定。」と書いている。実際は271号で左真樹として詰パラ初登場となった。

出口信男の作品番号1番は先程紹介した4-1の天竺協力詰3手なのだが、読者数やPNの問題もあり詰将棋ファンに作者の名前を刻みつけるきっかけは詰パラ271号掲載の5作とみなしても良いだろう。

門脇芳桂/今月は最近本欄に大量投稿のあった左真樹氏の特集号とする。今月は天竺だけだが、色々の投稿が来ており期待できそうな人。

出口氏は多くの場合、一度にまとめてたくさん投稿するらしい。実際にどの作が同時に投稿されたのかは興味深い。

4-2番 天竺詰 77手詰 修正図。
Y-2 (詰パラ271号、1978-9)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
									二
									三
							王	料	四
							金	料	五
							金	料	六
							金	料	七
							金		八
							歩	と	九

持駒 歩16

詰手順：12歩、同玉、13歩、同玉、14金、イ12玉、13金、11玉、12金、同玉、13歩、同玉、A25桂、同全、14歩、同玉、15金、ロ13玉、14金、12玉、13金、同玉、14歩、同玉、26桂、同全、15歩、同玉、16金、ハ14玉、15金、13玉、14金、同玉、15歩、同玉、27桂、同全、16歩、同玉、17金、ニ15玉、16金、14玉、15金、同玉、16歩、同玉、28桂、同全、17歩、同玉、28と、16玉、17と、15玉、16と、14玉、15と、13玉、14と、12玉、13と、同玉、14歩、同玉、15歩、同玉、16歩、同玉、

17歩、同玉、18歩、同玉、19歩、同玉、
28銀迄77手。

変化：

イ同玉は15金、同玉（同金は26桂以下作意、
13玉は14歩、同全、同金以下26桂迄）、
16金、同玉、27金、15玉、16金、
同玉、28桂迄。

ロ同玉は、16金、同玉、27金、15玉、
16歩、同全、同金以下28桂迄。

ハ同玉は、17金、同全、28桂以下作意通り。
他は早い。

ニ同玉は、18歩、同全、同と、同玉、
19歩以下。

紛れ：Aで14歩、同全、25桂、同全、
14歩、同玉、15金以下進めるのは明らかに
歩の消費が多いので、最後歩が足りなくなり
詰まない。歩の数はギリギリに出来てい
る。

Y-2～Y-4の3題は解付きで発表されたため、
その3題については解答者の感想はない。

本題は成銀を釣り上げながら一筋の桂をは
がす繰り返し趣向。金の王手を取らずに玉が
下がるのは歩を使わせる目的。手順中14金
のように金がすり込んだときに、同玉と取る
変化があるため単調さを補っている。詰める
方にしてみると玉を1筋に留めておく必要
があるわけだ。シンプルな配置から意外な
長手数で、最後は銀吊しのミニ煙。

本図は1979-1に発表された改良図で、元
図は序に龍捨がある4手長い81手詰だっ
たのを整理して金桂歩の三種類の駒を全
部使用する小駒図になった。元図が不完
全だったというわけではない。

4-3番 天竺詰 11手詰。

Y-3（詰パラ271号、1978-9）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								桂	一
									二
									三
							歩	玉	四
									五
					銀				六
									七
									八
									九

持駒 角金2桂

詰手順：A14金、イ同玉、36角、ロ23玉、
14金、22玉、13金！、ハ32玉、
22金、同玉、14桂迄11手。

変化：イで24玉＝金だから33には動けない。
25玉は、36角、同玉（16玉は27金迄）、
37金迄。

ロで同玉は36金迄！。

25に合駒を打つと何であっても、
26桂、同玉、27金迄。

41玉と跳んで逃げると、42金、同玉、54桂
迄。

32玉は44桂、同玉（24玉は14金迄）、
54金迄。

ハで同玉は25桂迄。同桂は14桂迄。

紛れ：A25金、同玉（23玉は15桂迄）、
36角、16玉で詰まない。

実戦型とも言えそうな端正な美形。初手か
ら25金、同玉、36角、同玉、37金迄の読みは、
36角に16玉とかわされて詰まない。正解は
14金、同玉と遠ざけてから36角と打つ。

14玉と移動させてから36角と打つのは、
合駒の余地ができる上に14玉＝角なので遠く
41まで逃げられるようで、心理的にやり難
い。

ところが実際に36角と打って見ると案外玉が狭いことに気づく。36角の王手に対して天竺ルールにより同玉が可能だが、37金迄の詰。合駒は何であっても26桂から27金で詰む。遠くまで逃げようとしても36角がよく効いているので、仕方なく玉方は23玉と抵抗するが、14金から13金の再活用が絶妙手。

打った直後の14金が桂打の場所を塞ぐ邪魔駒になっている。これをすぐに13金と捨てる。どちらでとつても桂吊しの1手詰だからしぶとく32玉とよろけるが、22金のすり込みが最後の決め手。どう応じてても桂打までの一手詰となる。

詰棋校とか表紙に出したくなるような正統派の短編。こういうのを見ると出口氏が伝統詰将棋で育った方なのだと感深くする。

4-4番 天竺詰 59手詰。

Y-4 (詰パラ271号、1978-9)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀	桂	桂		歩						一
王			金	歩						二
銀	歩		桂		歩					三
		ス		金		歩				四
			ス		馬		歩			五
				ス		金				六
					ス			ス		七
						ス		馬		八
							桂	金	角	九

持駒 歩4

詰手順：81馬、同玉、71金、イ同玉、63桂、同玉、53金、同玉、45桂、同玉、35金、同玉、27桂打、同と、同桂、同玉、28歩、同と、同金、26玉、17銀、35玉、36歩、同玉、37歩、同と、同金、35玉、26銀、44玉、45歩、同玉、46歩、同と、同金、44玉、35銀、53玉、54歩、同玉、

55歩、同と、同金、53玉、44銀、62玉、63歩、同玉、64歩、同と、同金、62玉、53銀生、71玉、72歩、同玉、73金、71玉、62銀生迄59手。

変化：イで92玉は、91角成、同玉、92歩、同玉、81銀迄。

一往復の斜趣向詰。桂金コンビで追い上げるところは天竺詰ならではのスピード感があり、伝統詰将棋では味わえない感覚が確かにある。

復路は予想通りと金をはがしながらの凧金だが、金だけではうまく行かず銀の補助動作が入る。金銀の性能の違いが趣向手順に昇華しているのが良い。17銀のところを27銀と打つと打歩詰になってしまうので、控えて打つわけだ。幕切れも鮮やか。

4-5番 天竺詰 45手詰。

Y-5 (詰パラ271号、1978-9)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							歩	歩	王	一
						と		歩	ス	二
				と	歩	と				三
			と	歩	ス					四
		と	歩							五
	と									六
										七
		角								八
王		角	ス							九

持駒 なし

詰手順：21歩成、同玉、22歩、同と、31と、イ11玉、22と、同玉、32と、同玉、42歩成、22玉、32と、同玉、33歩、同玉、44と、ロ32玉、33と、同玉、43と、同玉、53歩成、33玉、43と、同玉、44歩、同玉、54と、同玉、55歩、同玉、65と、同玉、66歩、同玉、76と、同玉、77歩、同玉、87と、78玉、88と、79玉、89と迄45手。

変化：

イで同玉は、42歩成、21玉、22と、同玉、32と以下作意通りで早い。

ロで同玉は、43と、同玉、53歩成以下作意通りで早い。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九
王	と	玉	ス						

持駒 なし

玉2枚角2枚と歩18枚だけというあまり見たことの無い使用駒趣向がまず目を引く。

序がややこしいが、筋に入れば玉がどんどん引き寄せられ最後は必要だった2枚の角も消えて、玉2枚、と金が2枚のきれいな一の字の詰上り。中盤と金寄の王手に対して、斜め下に逃げられないという天竺ルールを最大限に活かした趣向手順が見事。最後は玉=金なのでこれで詰みなのだ。

筆者の想像だが中盤の追い上げ手順が本作の元で、それに序盤と収束を整える過程で使用駒趣向が付け加わったと推測する。99王と点対称配置の11玉も意図的だろう。いや、詰上りが超絶だからやはりここから逆算したのだろうか。いずれにしても天竺詰の名作に推したい。氏は後にこの趣向手順を組み込んだ煙詰を発表している。

4-6番 天竺詰 99手詰。

Y-6 (詰パラ271号、1978-9)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		馬							一
								香	二
	香	ス	ス			ス	ス		三
	香	金	ス				香		四
桂	香	銀	ス			金	香		五
桂	香	金	ス		ス		と	ス	六
桂	香	歩		ス		ス	ス	玉	七
桂	香		金	飛		香			八
	馬	香				龍	王		九

持駒 なし

詰手順：27と、イ同と寄、24金、ロ71玉、83桂生、同と（中間1図、6手経過）

変化：イでは同玉、同と寄、同と上の3通りの応手がある。同玉は28歩と打てるので早い。しかし2枚のと金のどちらで取るのが正しいかはこの段階では分からない。ここは宿題にして先を進める。

ロで26歩のように合駒すると19香、18と、同香迄。合駒がない。

本作に先行する天竺煙詰の試みは下記の2局がある。

1. 飯田岳一、詰パラ1975-7、79手、「新世界」、発表時早詰修正図あり。
2. 泰永三二郎、詰パラ1977-6、95手、持駒あり、発表時早詰修正図あり（未発表）。

天竺煙詰としては上の2局に続く第3号局、発表時完全作としては初。双玉煙詰はこれ以外には同じ作者の双玉小駒煙詰が1局あるだけ。

持駒香の威力で玉を大ジャンプさせるのはフェアリーならでは筋で、局面を大きく転換出来て便利。

銀を入手した次図で72歩は二歩で打てない。72香と打てば同玉と取る一手だが香は温存したい。となると72銀くらいしか手がないが、同玉と取ってくれるのだろうか。

中間1図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		王							一
								香	二
	ス		ス			ス	ス		三
	香	金	ス				金		四
	香	銀	ス				香		五
桂	香	金	ス		ス			ス	六
桂	香	歩		ス			ス		七
桂	香		金	飛		香			八
	馬	香				龍	王		九

持駒 銀香歩

中間1図より、
72銀、ハ同玉、84桂、同と、73銀、二同と、同金、同玉、85桂、同と、74銀打、ホ同と、同銀、へ同玉、86桂、同と、75香、同と、同金、同玉、76香、同と、同歩、同と、同香、同玉、77金、75玉、76金、74玉、75金、73玉、74金、72玉、73金、71玉、72金、同玉、73歩、同玉、74歩、同玉、75歩、同玉、76歩、同玉、77歩、同玉
(中間2図、54手経過)

変化：ハ82玉は83金迄。

ハ62玉は63銀成、同と、同金、同玉、64歩、同と、同銀、甲72玉、84桂、64玉(84同玉は85金迄、同とは73香迄)
65歩、同と、同金、同玉、66歩、同玉、67歩、同と、同金、65玉、66香迄。

甲で74玉は75香、同銀、同金迄。

また甲で同玉は、65歩以下。

ニ61玉は、62歩以下6筋を追い上げてハの変化と同様に詰む。

ホ62玉は、今までと同様6筋を追い上げて詰む。

へ64玉は、65銀、55玉(同とは同金、同玉、66歩、同玉、67歩以下) 66金、同玉、67歩以下。

桂跳びで玉方と金を連れながら7筋を追い上げる第一趣向は、王手駒が銀なので同玉以外の変化を読まされることになる。7筋は歩が打てないが6筋は打てるのがポイントで、変化は割り切れている。結局玉は77まで釣り出されることになる。

中間2図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
								香	二
						ス	ス		三
							金		四
							香		五
				ス				ス	六
	香	王		ス			ス		七
	香			飛		香			八
	馬					龍	王		九

持駒 歩

中間2図より、

88馬、ト同歩成、78歩、同と、同飛、67玉、68歩、同と、同飛、チ37玉、38飛、同と、同龍、26玉、27歩、同と、同龍、35玉、36歩、同と、同龍、24玉、25龍、13玉、14歩、同と、同龍、22玉、23歩、同と、同龍、11玉、12龍、リ同玉、13歩、同玉、14歩、同玉、15歩、同玉、16歩、同玉、17歩、同玉、18香迄99手。

変化：トで95玉は96歩、同玉、97香迄。

ト86玉は、97馬以下(87馬は31玉で捕まらない)。また67玉は68歩以下作意通り追って、36歩のところを25龍、37玉、38香迄。

チ47玉は、48歩、同と、同飛、37玉、38飛、同と、同龍、26玉、27香迄。

2手目イの変化で同と上と取ると、作意同様に進んでチのところで37玉が出来ず早詰となる。よって本手順2手目の宿題は同と寄が正解と分かる。

り12龍の王手に対して、11玉＝龍だから91玉などと逃走するのもありだが、92香迄。

88馬で香を持駒にして以降その持駒の香が陰の主役となる。紐のついていない飛車の王手を取ることが出来ず、と金の陰に隠れながら玉が7段目をスライドするのが第二趣向。

玉が右下隅に戻って来てはじめて序盤2手目の正しい応手が判明する。潜伏期間が長い。

飛車を切ったからは単騎の龍がジグザグに玉を追い落とす第三趣向となる。常にと取ると早いので玉は駒の陰を逃げ回る。11まで逃げてついに捕まり、最後は還元玉で締めくくる。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
								王	七
								香	八
							王		九

持駒なし

40枚の煙詰と言うだけでも凄いことだが、3つの趣向手順、2手目の応手選択、還元玉など見どころが多い作。初期配置も清潔感があり美しい。

大作家の華々しい初登場は過去何度もあり、誰しも推しを何例か思い浮かべることだろう。出口信男（左真樹）の登場も確実にその1エピソードにあげられる。

第5章

対面詰

《対面詰のルール》

互いの駒が対面（接触）すると性能が入れ替わる。打歩詰は禁止。二歩は移動して二歩になるのも禁止。ただし、王手と二歩との兼ね合いについて「効き二歩有効」と「効き二歩無効」の二説が併存状態である。その他は通常の詰将棋のルールと同じ。英名 face to face。

前回の天竺ルールと異なり、王将だけでなく盤上のすべての駒に変身の可能性があり油断がならない。普段は地味な駒が変身して盤上を飛び回る手順が描けるなど、安南ルールと並んでフェアリールールの中では人気が高い。ただ表記と異なる性能で駒が動き、その上性能が目まぐるしく変化するのは、人間にとって負担が大きいく感じる。もちろんそこがルールの魅力でもある。

多くのフェアリールールがPC検討できるようになり、フェアリー詰将棋の作図に取り組む環境がなくなって整っている現在、対面ルールはもちろんのこと他のルールも含めてより多くの作家がトライすることを期待します。

ここでルールの名称について述べておかなければならない。

このルールの旧称は「対鮮詰」である。出口信男氏は対鮮詰として今回紹介する作品の多くををを発表した。

その後ルール名の改称問題が持ち上がって、「対鮮詰」は「対面詰」と呼ばれるようになった。これによってルール名に関する違和感が減り、ルールの本質がより直感的に伝わるようになったのは一つの進歩と言える。

本稿では、作品ごとのデータは発表時のままとし、筆者の文章では対面詰として表記する。巻末の作品リストは対面詰として統一する。

5-1番 対鮮詰 7手詰。

Y-54 (カピタン18号、1980-6)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王	將				一
				將					二
			角	科					三
			龍						四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 金香

詰手順：61金、イ同銀、42香、ロ同銀、62龍、ハ同銀、52角生迄7手。

変化：イで同玉は62龍跳の王手を同玉とは取れない。91玉と逃走しても92香迄。

ロで同桂（53桂＝龍）も可能なように見えるが、54龍が復活して王手になるので不可。

ハで同玉は63角の潜在力でその瞬間逆王手が掛かり禁手。

紛れ：初手42香は同銀（同桂は61金、同玉、52龍以下）61金、41玉で逃れ。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王					一
			將	角	將				二
			科						三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

作品構成としては伝統詰将棋そのもの。
54龍は現在桂馬の性能なので、51玉は42には逃げ出せない。しかし、53桂が龍の守備力を持っているのが問題。手順前後に注意して守備の二枚の銀を操り、角一枚で仕留める。詰上り十字架。

5-2番 対鮮詰 13手詰。
Y-55 (カピタン18号、1980-6)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			香	玉					一
				銀					二
			銀	銀					三
				馬					四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛角香

詰手順：31飛、イ同玉、32馬、ロ同玉、
33角、ハ41玉、42角生、52玉、
53香、同桂、51角成、同玉、52桂迄13手。

変化：

イで44馬=桂だから52玉とはかわせない。

ロで13玉は14香迄。香は最強の持駒。

ハで同玉とは出来ず（玉=角だから！）、

41玉以外は頭香迄。

紛れ：初手11飛などと遠くから打つと、43桂（=馬）の働きで21歩と合駒されてアウト。

31飛から32馬と捨てて無仕掛にする。香を持っているのがミソで生角の対面王手が強い。42桂をむしり取ってからは、再度の無仕掛をへて逆Tの詰上り。易しいが素晴らしい短

編。1番と2番は対面詰への誘い水として作図されたものでしょう。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				玉					一
				桂					二
			銀	銀	銀				三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

5-3番 対鮮ばか詰 13手詰。修正図。
Y-82 (カピタン24号、1981-6)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
				玉					三
									四
						桂			五
									六
						桂	桂		七
					桂				八
									九

持駒 なし

詰手順：46桂、53玉、54桂、45玉、
57桂、56飛、37桂、36飛、57桂、56飛、
37桂、44玉、45桂迄13手。

本作は見ての通り四桂図式。初手の桂跳びは絶対だが、その46桂が邪魔ですぐに45玉とは出来ない。一旦53玉と迂回させられる序奏は秀逸。

5手目の57桂に56飛の対駒で受ける。対面系で飛車の対駒が定石手順として知られるようになったのは後のこと。ここから桂馬と飛車が横に往復する手順が意味不明ではないか。

タネ明かしをすると、何と初形の36桂が邪魔駒なのだった！36桂が無ければ、8手目ですぐに44玉と下がれて収束に直結する。意外や意外本作の主題は邪魔駒消去なのだ。

本作の作図過程は全くの想像なのだが、対面ルールの四桂図式からスタートしその過程で36桂消去のアイデアが天から降りてきたのではないか。またその消去の仕方が対駒として発生した飛車に趣向的に取らせるというのも斬新。最初の3手と最後の3手が呼応する構成も見事。本作は発表時一路右に寄っていたため、余詰が生じた。本修正図はカピタン49号（1993-6）のもの。

5-4番 対鮮ばか自殺詰 10手詰。
Y-169（詰パラ368号、1986-10）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
王									九

持駒 金2

詰手順：89金、88角、98金打、89玉、88金、同玉、33角、32銀、22角成、21桂迄10手。

対面ルールに限らずばか自殺詰（協力白玉詰）の開発ラッシュ時期に出口信男氏はリーディングプレイヤーの一人だった。氏の作品の

初期配置は大体美しいが中でも本作は超絶レベル。手順も練り上げられていて、姉妹作（11王、19玉、持駒金、12手詰）との相似性も興味深い。

発表当時FL担当の看空先生が「最終4手からの逆算と思いますが、持駒を金2枚にしてしまうと天才的逆算です。」と評している。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							飛	王	一
						馬			二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
	王								九

持駒 なし

持駒金2枚からスタートするのもそうですが、玉を点对称の11と99に配置している。だから本作の作図過程は逆算ではないかもしれない。どちらにしても凄みを感じる作。本作は完全作だが、発表時誤解による別詰が紹介されている。どちらも不成立なのだが、興味のある方はどこが間違いなのか考えてください。

誤解1：98金、89玉、99金引！98角、88金行、87角打、79金引、同玉、88金、21角成迄10手。

誤解2：89金、88角、98金打、89玉、88金、同玉、89角！、33玉！、23角成、22角迄10手。

しばし考えよ。筆者もしばらく苦戦した。

誤解1は最終手が反則手（87角＝金）。
 誤解2は7手目が反則手（逆王手！）。

5-5番 対面詰 39手詰。

Y-282 (将77号、1993-7)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						糸	科		一
						と	ス		二
						と	ス		三
							ス		四
							ス		五
						ス	ス	角	六
								王	七
									八
							龍	角	九

持駒 なし

詰手順：27角、同と右、28角、16玉、
 27角、15玉、26角、14玉、25角、13玉、
 24角、12玉、23角生、11玉、
 12角生、イ同と、21龍、同玉、
 31と、ロ11玉、21と、同玉、22歩、同と、
 同と、同玉、23歩、同玉、24歩、同玉、
 25歩、同玉、26歩、同玉、27歩、同玉、
 28歩、同玉、29桂迄39手。

変化：イで11玉＝角だから同玉とは出来ない。

ロで同玉は32桂迄。

生角がずいずいと上がっていく面白さ。作者はこういう繰り返し手順を見つけ出し、図化するのが本当に得意です。

縦追い後右上隅で簡単に詰みそうだが、21桂と31歩が絶妙な配置で手数伸びる。21に後手の桂馬があるため22のと金を取っても王手にならないとは困った。仕方なく角と龍を捨てて局面を打開する。対面や背面はあつけなく頓死することもあるが、意外な抵抗力も秘めている。特に一段目の桂対は頑強

な受けなので注意されたい。最後はミニ煙で締める。対面の煙詰は攻め方1枚で詰み上りませす。面白い。

5-6番 対鮮ばか詰 121手詰。

Y-177 (カピタン35号、1987-1)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
	糸	糸		糸		糸			三
					王		歩		四
							ス		五
		糸		糸	角	糸	歩	糸	六
							香		七
						歩		科	八
									九

持駒 なし

詰手順：35角、45玉、46角、54玉、
 55角、65玉、66角、74玉、75角、96玉、
 97角、78玉、79角、67玉、68角、58玉、
 59角、47玉、48角、38玉、39角、47玉、
 48角、58玉、59角、67玉、68角、78玉、
 79角、96玉、97角、74玉、75角、65玉、
 66角、54玉、55角、45玉、46角、34玉、
 35歩、同と、同角、45玉、46角、54玉、
 55角、65玉、66角、74玉、75角、96玉、
 97角、78玉、79角、67玉、68角、58玉、
 59角、47玉、48角、38玉、39角、27玉、
 28角、38玉、39角、47玉、48角、58玉、
 59角、67玉、68角、78玉、79角、96玉、
 97角、74玉、75角、65玉、66角、54玉、
 55角、45玉、46角、34玉、35角、25玉、
 26角、14玉、15角、25玉、26角、34玉、
 35角、45玉、46角、54玉、55角、65玉、
 66角、74玉、75角、96玉、97角、78玉、
 79角、67玉、68角、58玉、59角、47玉、
 48角、38玉、39角、27玉、19歩、37玉、
 28角、26玉、27歩迄121手。

玉と角が行ったり来たりする知恵の輪趣向。その意味付けを書き出すと、

34玉→38玉：3筋の二歩を解消するために
38歩を玉に取らせる。

38玉→34玉：26歩（=と）を斜めに移動して
捨てる。

34玉→27玉：27香を玉に取らせる。

27玉→14玉：1筋の二歩を解消するために
14歩を玉に取らせる。

14玉→27玉：19歩と打って奇妙な収束へ。

最終的に19歩と打って収束に入るのだが、
そのためには14歩が邪魔。14歩を消去するた
めには26歩と27香が邪魔。26歩を消去するた
めには38歩が邪魔。というロジック。

そこで、最初に38歩を消去するが、その時
ついでに27香を消去したくなる。しかしそう
は問屋が卸さない。現在26歩=との性能なの
で26歩をそのままにしては27玉とはできない
仕掛けになっている。このようにロジックは
明快だが、それを成立させる配置が14歩、25
と、26歩、27香、38歩のたった5枚だけなの
が驚異的だ。どうしてこう巧くできるのか。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
	歩	歩	歩	歩					三
									四
									五
		歩	歩	歩	王	歩			六
						歩			七
						角	歩		八
									九

持駒 なし

そして仕上げがこの奇妙な収束。先打跳歩
詰の奇想があるからこそ趣向手順が生きる。
奇跡のような作。こんな簡素な配置で片道5
回の知恵の輪を構成した作者に拍手！

フェアリー詰将棋で煙詰を作るという試み
は意外に古い。花沢正純氏の自殺煙詰（1972-
11、詰パラ読者サロン！）が最初のものであ
る。その後散発的に挑戦者が現れるという状
態が続いているが、ルールのバリエーション
の広さ並びに質量とも出口信男氏が突出して
いる。

対面ルールの煙詰は以下の3局がある。

1号局：橋本哲 対面煙詰（全駒）

87手 1980-4 不完全

2号局：出口信男 対面煙詰（小駒全駒）

95手 1991-5 不完全

3号局：出口信男 対面煙詰（全駒）

89手 1997-11 完全

橋本哲氏の第1号局は対面ルールでの煙詰
の可能性を示した。残念ながら序盤で変化不
詰作意早詰があった。ちなみにその指摘をし
たのは出口信男氏だった。

5-7番 対面詰 95手詰。変長。

Y-228 (将47号、1991-5)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王									一
	歩	歩							二
	歩	と					と	と	三
金	金	桂				と		と	四
銀		金			と	と	歩		五
金		銀		と	と	歩		と	六
銀	歩	歩		と	歩	歩		桂	七
		銀	と	香		金	金		八
									九

持駒 なし

作意手順：81歩成、同玉、72桂成、イ71歩、同圭、ロ91玉、81圭、同玉、82歩、同桂、同と、同玉、83歩、同香、同金、同玉、84香、同香、同銀、同玉、85香、同香、同銀、同玉、86香、同金、同銀、ハ同玉、87銀、ニ77玉、（中間1図、30手経過）

変化：イで91玉は82圭、同桂（81飛対は92金迄）、同と、同玉。この同一局面に本手順より4手早く到達する。71歩の意味は82での精算を遅らせる手数伸ばしである。またイで71飛は82歩、同桂、同と迄。ロで同玉は72金迄。ハで74玉は75金、73玉、74桂迄。ニで同玉は88歩、同玉、89桂迄

本作は不完全作だが、見どころが多く対面ルールの面白さを満喫できる作なので詳しく紹介します。

手順は序盤からいきなり71歩対で手数伸ばしとは驚く。そこを通り抜けて、83歩以下奇妙な香はがしの第一趣向。銀と香がサンドイッチになっているのがミソ。

中間1図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
							ス	ス	三
						ス		ス	四
					ス	ス	歩		五
				ス	ス	歩		ス	六
	銀	玉		ス	歩	科		桂	七
			ス	香		金	金		八
									九

持駒 金桂歩

中間1図より、78歩、同と、同銀、66玉、67歩、同と、A同香、同と、同銀、55玉、56歩打、同と、

B同歩、同と、同銀、ホ44玉、45歩打、同と、同歩、同と、同銀、へ33玉、34歩、同と、同銀、ト22玉、23金、同と、C同銀成、同玉（中間2図、60手経過。）

変化：ホで同玉は57歩、同玉、58歩、同玉、59桂迄。

へで同玉は46金、44玉、45桂迄。

へで35玉は46金、25玉、26桂迄。

トで同玉は35桂迄。

紛れ：Aで57と＝香だから、67香、同との2手を省略していきなり67銀とする手がある。本手順と比べると持駒が1歩少ないため、収束で歩が不足する。B以降も同様手順があるがこちらは二歩を解消するため、斜めの歩を消しておかなければならないことは分かりやすい。

この斜め追い落としが本局の第二趣向。大規模な駒交換で煙詰にピッタリの趣向手順だが、単なる駒消しではない。後手方の内側のと金列は現在歩（または香）の性能になっているのに注意。紛れ手順Aを参照してほしいが、67香は歩を入手するため、56歩上などは二歩を解消することが目的。

見事な趣向手順でみるみる駒は消えて玉は右上隅に追われる。

中間2図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
							玉		三
								ス	四
								歩	五
								ス	六
						科		桂	七
						金	金		八
									九

持駒 桂歩5

中間2図より、

24桂、チ同と、同歩、同玉、25歩、同玉、
26桂、同と、同金、24玉、25金、23玉、
24金、22玉、23金、21玉、22金、同玉、
23歩、同玉、24歩、同玉、25歩、同玉、
26歩、同玉、（中間3図、86手経過。）

変化：チで35玉とかわすと26金、甲34玉、
35金、33玉、34金、同玉、35歩、同玉、
36歩、同玉、37金、同玉、38歩、同玉、
39桂迄

甲で45玉は46歩、同玉、37金、36歩対、
47歩、同玉、48歩、同玉、49桂迄。

24桂が変化を読みたくない解答者にとって
いやらしい王手です。その後手数伸ばしのため
玉は21まで逃げ、そろそろ大団円が近い最
終盤。

中間3図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
							王		六
						科			七
							金		八
									九

持駒 歩2

中間3図より、

37金、リ25玉、26金、同玉、27歩、同玉、
28歩、同玉、29桂迄95手。

変化：リで同玉は、38歩、同玉、39桂迄。

リで15玉は16桂迄。

リで16玉は17歩、同玉、18歩、同玉19桂迄

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
							王		八
							桂		九

持駒 なし

内容豊富な詰上り2枚の煙詰が完成、、、。

ところが変化リで金の頭に対駒する手が
あった！

斜めに利く駒は王手を回避できず無意味な
ので、候補は飛桂香歩の四種類に限られる。
桂香歩は27歩、同玉、28歩、同玉、29桂迄の
ように対駒を無視して詰んでしまう。ところが
飛車の対駒のときだけ27歩が打歩詰！と
なって打てないのだ。

36飛対の局面

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
							王		六
							金		七
									八
									九

持駒 桂歩2

ここで36飛 (=金) だから27歩に対して同飛と斜めに取りの手がありそうに見える。

ところが36飛車が動いてしまうと37金が金として復活してしまうので、自ら王手になる手となり禁手。やはり27歩は打歩詰だ。36飛の発見者は菊田裕司氏。

さて、36飛に対してすぐに同金と取ったらどうか。同玉や16玉、17玉、27玉は簡単。15玉は16歩、同玉、26飛、25歩、同金以下。

そこで再度の対駒が最善となる。飛金は不可。角銀以外は27歩、同玉、28歩、同玉、29桂迄。対駒を無視できる。

銀対は27金引!、25玉 (同玉と取ると28歩、同玉、29桂迄)、26飛、同銀、同金、同玉、27歩以下。

ところが角対だと頭が丸いため、銀対の手順中の26同金が出来なくなりこれ以上手が続かない。以上を整理すると、問題の局面で36飛対、同金、35角対!の連続対駒でどうやら詰まない。

それでは本局が不詰作かと言うと、そうはならないのが詰将棋の面白いところ。36飛と対駒された局面で、それを上回る絶妙手がある。

36飛対の局面 (再掲)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
						飛	王		六
						金			七
									八
									九

持駒 桂歩2

ここで、

27金!、25玉 (同玉と取ると28歩、同玉、29桂迄)、36金のように一旦27に遠回りしてから飛車を取るのがうまい。後手玉の位置を一段下げておくのがその効果。

対して、

- ・ 15玉は16歩、同玉、26飛、25歩、同金、17玉、18桂迄。
- ・ 24玉は26飛!、25合 (合駒せずに玉が動く頭桂を打って即詰む)、同金、23玉、24桂迄。
- ・ 35対駒の場合、角金銀は王手を解除できず無効。飛対は26飛、15玉、16桂迄。桂香歩の対駒は26飛、同玉、27歩、同玉、28歩、同玉、29桂迄。

というわけで不詰は免れる。しかし長手数の上煙らない、というのが結論となる。

本作は、序盤の71歩対の手数伸ばしで度肝を抜き、対面ルールの特徴を生かした左辺の香はがしが独特。斜めの趣向手順がただの駒交換ではない深みがあり、見どころが多く対面詰の面白さに溢れている。出口信男氏実力発揮の一局だっただけに最後の最後で煙らなかったのは残念なこと。詰将棋って難しい。

作者はこの小駒煙の一失の雪辱を次作で果たす。

5-8番 対面詰 89手詰、
Y-345 (詰パラ500号、1997-11)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	歩	歩	歩	王		角		香	一
と	桂	角				歩			二
歩	銀			桂	歩		入		三
銀				歩	桂	香		歩	四
			歩		香			香	五
馬	と	歩		香		香	歩	歩	六
銀	歩		入					歩	七
入	馬			馬					八
								飛	九

持駒 なし

詰手順：43桂生、62玉、61桂成、イ同玉、
71角成、同玉、81桂成、ロ同飛、
同と、ハ同玉、A91飛、同玉、
92銀成、同玉、93銀成、91玉、92全、同玉、
93歩、同玉、94歩、同玉、95と、93玉、
94と、92玉、93と、91玉、92と、同玉、
93歩、同玉、94歩、同玉、95歩、同玉、
(中間1図、36手経過)

変化：イで73玉は74銀生、84玉、
75角成、94玉、85と、同香、同馬迄。
ロで61玉は51桂成、同玉、52と、同玉、
53歩生迄。
ロで同玉は91と、同玉 (71玉は53角成、
52桂、61飛迄) 92銀成、同玉、
93銀成、91玉、61飛、81桂 (81歩や81銀
は64角成で、63対駒は同飛があって詰
む。)、同飛、同玉、82全、同玉、
83桂、94玉、95と、93玉、94と、92玉、
93と、同玉、94歩、同玉、95歩、同玉、
96銀、同玉、97歩、同と、同角成、同玉、
98歩、同玉、99香迄。
ハで61玉は71飛、62玉、72飛成、71桂、
同と迄。

ハで62玉は72飛、71桂、同と、63玉、
64歩迄。

紛れ：Aで82飛は同歩

序盤が対面特有の手筋の応酬で中々頭に入
ってこない。左上隅の応酬はここでは書き
きれない難しい変化が色々あり大変だ。

中間1図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						角		香	一
						歩			二
					桂		入		三
				歩		香		歩	四
王			歩		香			香	五
馬		歩		香		香	歩	歩	六
銀	歩		入					歩	七
入	馬			馬					八
								飛	九

持駒 なし

中間1図より

96銀、同玉、97香、同と、同角生、ニ87玉、
88角、76玉、77歩、同と、同角、ホ65玉、
66歩、同金、同角、ヘ54玉、55金、同金、
同角、ト43玉、44金、同金、同角、チ32玉、
33金、同と、同角生、21玉
(中間2図、64手経過)

変化：ニで41玉は31角成、52玉、
53歩成 (生) 迄。
ホで67玉は68歩、同杏、同角、94玉、95香迄。
ヘで56玉は57金以下。
トで45玉は46金、同金、同角、67玉、
68金以下
チで34玉は35金、同金、同角、56玉、
57金、同杏、同角、67玉、68金迄。
チで16玉は17飛、同玉、18香、同玉、19桂迄。

97角生から生角の威力で、玉に取られることなく追い落とす斜趣向に入る。19飛が影の主演である。金で金をはがしつつ持駒香の威力で右上隅に追い込んでいく。

今まで変化手順を一手に抑えていた19飛を17飛と活用し、最後は中央5筋で詰上げる鮮やかさ。作者の執念が実った。素晴らしい。本作は詰パラ500号記念のFLで出題された。

中間2図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王	駒	一
									二
						角			三
								歩	四
								香	五
						歩	歩	歩	六
								桂	七
			金						八
								飛	九

持駒 香歩

中間2図より

11角成、同玉、12銀、同玉、13香、同玉、14香、同玉、15歩、同玉、16歩、同玉、17飛、26玉、27歩、同金、同飛、56玉、57金、同杏、同飛、同玉、58香、同玉、59桂迄

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
				王					八
				桂					九

持駒 なし

第6章

天竺詰（2）

《天竺詰のルール》

王将は王手を掛けられると本来の動きを失い、王手を掛けている駒の動きになる。王手を掛けている駒が複数ある場合は、それらの駒すべての動きを併せ持つ。先手の王将も同じ条件に従う。他は通常の詰将棋のルールと同じ。鏡詰という名称もある。

天竺詰は出口氏にとってホームグラウンドとも言えるルールなので発表作が多い。

6-1番 天竺詰 17手詰。

Y-131 (カピタン30号、1982-12)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
								銀	四
								王	五
									六
							ス		七
							飛		八
									九

持駒 角金桂

詰手順：25金、16玉、26金、同と、
25角、49玉、58角、16玉、25銀、同と、
同角、49玉、58角、16玉、17歩、同玉、
29桂迄17手。

作者／素材に過ぎないようです。
花沢／天竺詰ルールの例題図？それにしても序
の3手の力強さにはまいった。

この簡素形から意表の玉ジャンプ2回が出現
する。発表時「この作者にしては、、、」と
不満な感想もあったようだが、筆者は簡素＋
軽趣向のこのまとめ方は好みです。

6-2番 天竺詰 19手詰。

Y-226 (将46号、1991-3)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			飛						一
									二
							銀	歩	三
							王		四
角					飛		桂		五
							香		六
								桂	七
									八
					桂		桂		九

持駒 なし

詰手順：44銀成、24玉、34全、イ15玉、
51角生、26玉、15角生、同玉、
11飛生、同玉、22歩成、同玉、33全、21玉、
13桂生、33玉、25桂、45玉、37桂右迄
19手。

変化：イで同玉は33桂成以下、14玉は13桂成
以下。

51角生と11飛生に対する合駒はすべて同生と
取れば良い。

天竺詰ならではの四桂詰。この詰上りはイ
ンパクト絶大。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
								桂	二
									三
									四
					王		桂		五
									六
						桂			七
									八
					桂				九

持駒 なし

詰パラ305号のフェアリーランドで左真樹天竺詰個展があった。その結果稿が308号に載っている。

筒見香平（担当者）／今月の4局とも2年前の投稿で、左氏初期の頃の作と思われます。全題完全なのはさすがです。難解だったのか解答者9名とはひどかった。

あぶり出し曲詰4題の個展。最初の3題は気の利いた短編あぶり出しというべき作だが、最後の4番が壮絶というしかない長編難解作。そのせいで解答者が少なかったと思われる。その中から2題を紹介する。

6-3番 天竺詰 15手詰。

Y-90（詰パラ305号、1981-7）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
玉			と						一
				玉					二
		龍		香					三
				金					四
角	金		香						五
									六
					金				七
									八
									九

持駒 飛

詰手順：93龍、イ61玉、62角成、ロ同金、51飛、同玉、53龍、ハ同金、43桂、同金、同金、ニ55玉、56金打、54玉、65金寄迄15手。

変化：イで92合駒は73角生、82合、同角迄。

また同玉は84金、92玉、93飛、82玉、83金、81玉、92飛成、61玉、72金迄。

ロで同玉は53金、同金、74桂迄。

ハで61玉は62龍、同玉、74桂迄。またそれ以外の応手はすべて桂打迄。

ニで54飛合は52金打、同飛、同金迄。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
					金				二
				玉					三
			金						四
				金					五
					金				六
									七
									八
									九

持駒 なし

手の付け方が難しいが53の桂を狙って攻める。初手はやり難い感じの93龍。取ると早いので逃げる。ここで62角成が局面打開の名手で、51飛捨から53龍と無理やり桂を入手し詰み形に持って行く構想。

とは言え、天竺詰ならではの四金のこの不思議な詰上がりが最大の狙いだろう。これらは出口信男の大事な一面である稚気を示している。

6-4番 天竺詰 49手詰。

Y-91（詰パラ305号、1981-7）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			玉					角	一
									二
			と			と			三
		歩		と	と			歩	四
					銀				五
	桂	銀	桂	銀				銀	六
		香				金	金		七
						飛	歩	香	八
			香	角	飛				九

持駒 なし

詰手順：62と、同玉、53と右、イ61玉、
62と、同玉、63と、ロ61玉、62と、同玉、
54桂、69玉（中間図,12手経過）

変化：イで72玉は73歩生（成でも同じ）、
同玉、85銀、75歩（金合は同香、同玉、
76金迄。他合は歩合と同手順）64と、72玉
（83玉、74と、93玉、94銀、82玉、
83と、81玉、82と、同玉、74桂右迄）
62と、83玉、74と、93玉、94銀、82玉、
83と、81玉、72と寄、91玉、82と迄。
ロで同玉は54桂、66合（64合、同香、同玉、
65銀左、53玉、44銀迄）同香、同玉、
67銀左、57玉、47金迄。
ロで69玉は作意通りで早い。

中間図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									角
						と			
		歩		桂					歩
					銀				
	桂	銀		銀					銀
		香				金	金		
						飛	歩	香	
			玉	角	飛				

持駒なし

中間図より

48角、ハ61玉、62桂成、同玉、
73歩成、ニ61玉、62と、同玉、74桂、同玉、
67銀、77玉、59角、ホ99玉、
23と、ヘ11玉、12と、同玉、13歩生、同玉、
25銀、ト18玉、17金、同玉、27金、18玉、
17金、同玉、26角、同玉、27歩、同玉、
36銀左、38玉、47銀左、49玉、58銀左迄
49手。

ハで49玉は39飛、48玉、38金、58玉、
47銀迄。

ハで63玉は73歩成、53玉（同玉は67銀以下
作意通り）75角、71玉、62桂成以下

ハで64玉は55銀！同玉（53玉は44銀直迄）
46金、同玉、36金、47玉、37飛！迄。

ハで68玉が問題の変化。

57角、77玉（同玉は47金迄）78飛！97玉
（同玉は67銀右迄）99飛！同玉（98合、
同飛行、57玉、47金迄）66角、同玉、
67銀左、57玉、47金迄。

ニで同玉は67銀、77玉以下作意通り。

ホで68歩合は同角、88玉、23と、11玉
（97玉、98歩、同玉、99飛迄）12と、同玉、
13歩生迄。

ホで68金合は同角、88玉、78金、98玉、
99飛、同玉、77角、88合、同角迄。

ヘで合駒はどの位置でもすべて同角生以下。

トで15歩合は同香、同玉、16金迄。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							銀		
							銀		
					銀				
				銀					
				玉					

持駒なし

本局は詰上がりが超絶な四銀詰。玉が61と
69を往復し99から11へ大ジャンプする。手数
も長く、特に序中盤の変化が複雑怪奇だ。で
きるだけ詳しく書いたのので、多くの方に味
わってもらえれば幸せ。当時の正解者は飯島
士朗、大西宏明、馬場雅典の3氏だけだった。

44とは11角の筋をふさぐ邪魔駒、54とは桂跳の邪魔駒。というわけで、序盤は邪魔なと金を捌き捨てて11角と69香の筋を通すのだが、うかつに王手すると大海に逃がすことになり、細心の注意が必要。

54桂の両王手に69玉と最初のジャンプ。これが中間図の局面。ここでどうするのか。

正解の48角が変化多岐で指し難い一手だ。特に68玉とかわす変化は詰みそうで詰まず、作者の腕力を示す。変化手順中57角の両王手から78飛～99飛の絶妙手を発見出来た方は幸せだ。初形に配置されている38飛と49飛は収束手順で必要な駒だが、この変化で大活躍するためただ収束のための取られる駒でなくなった。

48角には一旦61に戻る。再度左下に引っ張り込み、77玉に対して59角と元の位置に戻すのも指し難い。対して99玉が本手順だが、68の焦点に捨合する手がある（変化ホ）が、68歩合は後に98歩と打てて早い。

その98歩のところを持駒が歩でなく金ならば、98金と打つことになり96玉と下がる手が生じる。そのため68歩合でなく68金合とする手も考えられる（玉方金先金歩！）が、78金打のように別の詰め方が生じるなど割り切れている。

天竺詰では攻め方の駒が強いとそれに応じて玉の行動範囲が増し、攻め方にとっては不自由なことになりがち。そのため安い駒ではなく高い駒を合駒にすることは合理的な選択となり得る。

11玉と最後のジャンプをしてからはほとんど変化もなく、粛々と収束に向かう。銀を続けて引き付け、詰上げてアッと驚く四金詰ではないか。

ところで、担当者の2年前の投稿云々は重要証言です。発表の2年前と言うと1979年だから、氏の創作ペースが最も高かった時期（年

間30作のペースで発表）にあたる。本作は出口信男氏初期の傑作。

なおここで紹介したY-90（四金詰）とY-91（四銀詰）は一緒に出題されたが、手数も違うし重量感が異なりペアとは言い難い。Y-91とペアになるべき四金詰は、Y-132（カピタン30号、1982-12のG2、63手詰）の方が相応しいが今回は割愛する。

6-5番 天竺詰 95手詰。

Y-52（カピタン18号、1980-6）

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		馬	香	玉						一
		香	玉	玉	玉	玉				二
		歩						龍	角	三
	と	ス	ス	ス	ス	ス		ス		四
	銀			桂	桂	桂		香	歩	五
							と			六
	銀	銀	銀	銀				歩	金	七
	金					ス	香			八
			歩	歩	歩	桂		金		九

持駒なし

詰手順：71馬、イ同玉、82歩成、ロ同玉、83歩、同と、同と、81玉、72と、ハ同玉、73香、同と、同桂成、71玉、62圭、ニ同玉、63香、同と、同桂成、61玉、52圭、同玉、53香、同と、同桂成、51玉、42圭、同玉、43歩、同と（中間1図、30手経過）

変化：

イ51玉は62馬、同玉（41玉、21龍、同玉、22香迄）、63香、同と、同桂成、61玉、72圭、同玉（51玉、62圭、41玉、21龍、同玉、22香迄）、82歩成、同玉（72玉＝金だから61玉とは下がれない）、83歩、同と、同と、81玉、82香迄。
ロ61玉は72と、同玉（51玉は、62と、同玉、63香、同と、同桂成、61玉、62香迄）、

73香、同と、同桂成、71玉、62圭、同玉、63香以下作意順で早い。

ハ91玉（92玉）は82と、同玉、83香迄。
ニ81玉（82玉）は72と以下香打迄。

香を取りその取った香でと金をはがし、成った桂馬で次の香を取る。5,6,7筋が二歩禁で歩が打てないため、と金をはがすには香が必要なのだ。

中間1図では同龍の一手に思えるが、同玉と取られると王手は続くが48とや38金などがもぞもぞ動き出し、果たして捕まるのだろうか。それなら31角生か？など迷路に入り込む。

中間1図

										一
						玉				二
						ス		龍	角	三
								ス		四
驥								歩	歩	五
							と			六
銀	銀	銀	銀					歩	金	七
金						ス	玉			八
		歩	歩	歩	桂			金		九

持駒 香歩4

中間1図より

43同龍、ホ12玉、22角成、へ同玉、13龍、ト同玉、14香、同と、同歩、同玉、15歩、同玉、25と、チ同龍、16歩、同龍、同金、14玉、15金、13玉、14金、12玉、13金、11玉、12金、同玉、13歩、同玉、14歩、同玉、15歩、同玉、16歩、同玉、17歩、同玉（中間2図、66手経過）

変化：ホ92玉は93歩、同龍、同龍、12玉、22飛、11玉、12香迄。

ホで43同玉が問題の変化手順だ。詳しく書こう。

44歩、同玉、45歩、同龍、同と、同玉、55飛、甲47玉、56銀、36玉、37歩、同金、45銀、47玉、57飛、乙45玉、37桂、57玉、58香、同と、同歩、同玉、59歩、同玉、68銀、48玉、49歩、同玉、59金迄。

甲41玉は42歩、同玉、43歩、同玉、44歩、同玉、45香迄。

甲46玉は24角、同玉、25飛、同玉、26歩迄。
乙46玉は47歩、同と（同金は同飛、同玉（同とは56金迄）、57金迄）、56飛、45玉、57桂、同と、46香迄。

へ67玉は68歩迄。

へ34玉は、44馬、67玉、68歩迄。

ト92玉は93歩、同龍、同龍、22玉（同玉、94歩以下）、13龍、同玉、14香、同と、同歩、同玉、15歩、同玉、16飛迄。
チ同玉は26歩迄。

中間1図での正解手は43龍。最も普通の応手同玉は簡単に詰まず複雑でいやらしい。飛銀桂のコンビで金を入手してから、2度に渡る九段目の歩打がトドメになる。

よって12玉とかわすのが本手順となる。持駒香の威力で22角成から13龍と無理やり1筋に引っ張り込む。

龍を入手した後、嫌がる玉を歩で釣り上げて中間2図に至る。

中間2図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
銀	銀	銀	銀				歩	王	七
金					ス	王			八
		歩	歩	歩	桂		金		九

持駒 飛

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
王	金							飛	九

持駒 なし

中間2図より

A19飛、リ27玉、38金、ヌ同玉、29金、49玉、58銀、同と、39金、59玉、68銀、同と、49金、69玉、78銀、同と、59金、79玉、88銀、同と、69金、89玉、88金、ル同玉、89歩、同玉、79金、99玉、89金迄95手。

変化：リ18合は同金、16玉、17金以下11玉、12金迄。

ヌ同とは17金、28玉、18金迄。

ヌ26玉は25金、同玉（36玉、37金迄）、37桂迄。

ル99玉は89金、同玉、79金、99玉、89金迄歩余る。

紛れ：A19飛は当然限定打。つい18飛とくっつけて打ちたくなる所。

19飛に合駒すると同金で早いから27玉とかわす。29金の王手に47玉と下がれないのが辛い。ここから銀捨金押の送り趣向でと金をお供にした玉を左下に追い詰めて終局となる。

加藤徹（担当者）／過去の煙詰がタテ型の趣向で駒を消しているのに対し、本局はヨコ趣向を用いているのが特徴。特に後半の趣向は単純だが駒交換でないので新鮮である。

氏の天竺煙詰2号局である。加藤徹氏の解説通り本作の新機軸は天竺煙詰では初めての横追い趣向で、上下で二種類出てくる。横追い手順の開発で天竺煙の展望が一気に広がった。

作図上の要になっているのは、九段目に並んだ59,69,79の3枚の歩。終盤の銀捨て&と金移動を絡めた横追い趣向に不可欠の駒だ。ところがここに3枚の歩があることで、序盤の横追い趣向が成立する仕掛けになっている。

6-6番 天竺詰 97手詰。

Y-53 (カピタン18号、1980-6)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	料		玉							
二	龍			歩	歩	歩	歩	歩	歩	
三		香		香				香		
四				香				香		
五	桂		玉	香				香		
六		歩					桂	銀		
七		玉	香	香	香	香		玉	料	
八		玉	香	香	香	香	香			
九		馬	香				飛	馬	香	

持駒 なし

詰手順：83桂生、同桂、72歩、同銀、61歩成、同銀、同香成、同玉、51歩成、イ同玉、41歩成、ロ同玉、31歩成、ハ同玉、21歩成、ニ同玉、11歩成、ホ同玉 (中間1図、18手経過)

変化：イで71玉は62銀迄。ロで61玉は52銀迄。ハで51玉は42銀迄。ニで41玉は31と、同玉、22銀迄。ホで31玉は22銀迄。

序盤歩の成捨てで横に送るのは持駒銀の威力の賜物で、スピード感がある。

中間1図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一									玉	
二	龍									
三		料						香		
四								香		
五			玉	香				香		
六		歩					桂	銀		
七		玉	香	香	香	香		玉	料	
八		玉	香	香	香	香	香			
九		馬	香				飛	馬	香	

持駒 銀

中間1図より

17香、へ同と、12銀、同銀、同龍、同玉、24桂、同玉、25銀、ト同玉、26銀、チ同玉、18桂、同と、27歩、同玉、18馬、37玉 (中間2図、36手経過)

変化：へで14合駒は、同香、同銀 (同玉、15銀迄) 12銀迄。

へ12合駒は、22銀迄。問題は天竺ルールならではの16への合駒だ。

へ16歩合は、同香、同玉、17歩、同と、同銀、同玉 (27玉、19桂迄) 28銀、同香、同馬、53玉 (35玉、27桂迄) 52龍!、33玉 (同玉、44桂打迄) 55馬、34玉、44馬、52玉、53香迄。

ト15玉は、16歩、同と、同銀、同玉、17歩、同玉、18香迄。

チ16玉は、17銀、同玉、18香迄。

チ36玉は、37歩、同金、同銀、同玉、38飛、47玉 (27A玉) 37金迄。

17香の走りに本手順は同とだが、16歩合とする天竺流の抵抗がある (変化へ)。これは馬の王手に玉が跳んで逃げようという魂胆だが、龍と馬と36桂のコンビネーションで華麗に捕まる。

中間2図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一										
二										
三		料								
四										
五			玉	銀						
六		歩								
七		玉	香	香	香	香	玉			
八		玉	香	香	香	香	香		馬	
九		馬	香				飛			

持駒 香歩

中間2図より

28馬、36玉、37歩、同金、同馬、同玉、
28金、47玉、38金、46玉、47歩、同金、
同金、同玉、38金、57玉、48金、56玉、
57歩、同金、同金、同玉、48金、67玉、
58金、66玉、67歩、同金、同金、同玉、
58金、77玉、68金、76玉、77歩、同と、
同金、同玉、78香、同と、同馬、55玉
(中間3図、78手経過)

持駒香の威力で金の並びをはがしていく。
気持ち良い手順だ。

中間3図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
	香								三
									四
		ス	香	玉					五
	歩								六
									七
		馬							八
						飛			九

持駒 香歩3

中間3図より

56歩、同銀、同馬、リ91玉、92歩、同玉、
83馬、同玉、84銀、又同玉、85香、同と、
同歩、同玉、86歩、同玉、87歩、同玉、
99桂迄97手。

変化：リ73玉は74歩、同と、同馬、同玉、
85銀、65玉、66歩、同玉、67歩、同玉、
79桂迄。
82玉は83馬、同玉以下本手順より一步多い理
屈だが、そのため95桂、同玉、96歩、同玉、
97歩、同玉、98銀、同玉、99香迄の詰みが
生じる。歩の数がギリギリになっている。

リ64玉は55馬、同玉 (74玉、63銀!、同玉、
64香迄) 56歩、同玉、57歩、同玉、58銀、
同玉、59香迄。
又74玉は75銀、同玉、76歩、同玉、
77歩、同玉、89桂迄。

煙詰と予想がついているだけに収束で局面
が広がって不安になる。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
桂							飛		九

持駒 なし

加藤徹 (担当者) / 本局も煙詰。歩の連続成
捨てに始まり、下辺に引き寄せてからはメ
インの金歩はがしの移動趣向。ヒモなしの
金で追えるのが天竺のいいところ (持香の
威力)。収束は55玉~91玉とジャンプ。再
び引き寄せて桂打迄。盤が狭く見える力強
く華麗な煙詰であった。

西園 / 16歩合の変化 (へ) で苦しみました。

すばらしい煙詰です。

飯島 / ポイントの多い作。

出口信男の天竺煙詰3号局。金歩はがしから
収束への流れは正算と思われるが、なめらか
に移行しているのに驚く。序盤で残した83桂
を回収して最後の99桂になるところなど、序
終の対応も上手くついている。それにしても
収束近くでこれだけ玉移動が入るなんて天竺
ならでは。詰上りも天竺流で面白い。

第7章

いれかわり詰

オール交換駒

攻得駒

今回は駒取りのときに通常と異なる現象が起こるタイプのフェアリーを3種類取り上げる。

《いれかわりルールの詰将棋》

出口信男氏はカピタン44号（1990-5）で「ふりかわり将棋の変形」と題して3つの新ルールを提案している。

- 1.せめかわり将棋：駒を取った時、取りに行った自駒Xは捕獲した敵駒Yと同種の駒に変身する。Yの方は変身しない。
- 2.うけかわり将棋：駒を取った時、捕獲された敵駒Yは取りに行った自駒Xと同種の駒に変身する。Xの方は変身しない。
- 3.いれかわり将棋：駒を取った時、取りに行った自駒Xと捕獲した敵駒Yの駒種が入れ替る。

ルールの細則として以下

- *変身は同時動作。
- *生駒と成駒は別種として扱う。成駒は駒台に乗った時点で生駒に戻る。王将も変身の対象になるが、王駒（ロイヤル）であることは変化しない。
- *これらの将棋では、王将と同じ性能を持ったロイヤルではない駒が登場することがある。そのロイヤルではない王が持駒のとき、他の駒同様打つことができる。
- *同じ筋に同じ向きの歩が複数生じるような指手は、二歩で禁手とする。
- *行きどころのない駒が生じるような指手は禁手。

この幻のルールがなんと最近Propara99号で再登場した。元々作品例が無かったせめかわり詰の新作が発表されたのだ。32年ぶりの登場は素晴らしいことと思う。

これらのルールの特徴だが、性能が変化するのは駒ごとのため駒の総数は変化しない。せめかわりルールとうけかわりルールの場合、駒種ごとの枚数が変化し標準駒数と異なる場合が多くなる。

そのため通常の駒一式では遊び難い。またどの駒がロイヤル駒なのかひと目で分かるような工夫も必要。多面体（何面体？）の駒を作るのも非現実的なので、PC利用が必須かもしれない。ただそんなアプリは存在しない、、、。

例題1 いれかわりばか自殺詰 4手詰。

Y-194（カピタン44号、1990-5）

2枚の銀はともにロイヤル駒。55銀にあたりをかけながら、51銀王を詰める。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				銀					一
									二
									三
									四
				銀					五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛

詰手順：52飛、44銀、53飛成、同銀→龍迄4手。

手順表記が難しいが、ここでは発表時の方式で変身を→で表すことにする。53飛成を同銀と取ると銀王から龍王に変身するので、51の銀王に王手がかかる。その王手を外す手はないので、これで詰み。ただ初手は56飛などもあり打場所は非限定。詰上がりは次図。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				銀					一
									二
				飛					三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

7-1番 いれかわりばか自殺詰 4手詰。
Y-195 (カピタン44号、1990-5)
*51銀、55銀はともにロイヤル駒。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				銀					一
									二
									三
									四
				飛					五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛2

詰手順：56飛、同銀→飛、52飛、同飛迄4手。

例題との差異がポイント。例題と同じ手順では最後52飛の合駒が可能になり、まだ詰んでいない。そのため初手56飛と捨てる。56は可成地点ではないため、例題と異なり生飛車で詰める必要があり、次の52飛が限定打となる仕掛け。シンプルだが質は高い。本作がこのシリーズの元か？

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				銀					一
				飛					二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

7-2番 いれかわりばか自殺詰 4手詰。
Y-196 (カピタン44号、1990-5)
*51銀、55銀はともにロイヤル駒。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				銀					一
									二
									三
									四
				飛					五
									六
									七
									八
									九

持駒 角2

詰手順：44角、同銀→角、62角、33角迄4手。

初めてこの手順を見た時は、手の意味がスーッと入っては来なかったのを記憶している。4手で詰めるロジックが明確。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				銀					一
			角						二
						馬			三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒なし

7-3番 いれかわりばか詰 5手詰。

Y-198 (カピタン44号、1990-5)

*36馬がロイヤル駒。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
						馬			五
							皇		六
							桂		七
									八
						香	馬		九

持駒なし

詰手順：25桂、37玉合！、同香→玉、18馬、19香迄5手。

本題は単玉作で玉合の珍手筋が主題。盤面に後手玉が見えず、先手の駒台は空っぽ。従って後手の駒台に玉（ロイヤルでない玉の性能の駒）が乗っていると考えられる。

最終手に対して、29飛や18馬王で取ると9段目の生香に変身するため、行きどころのない駒となり禁手。

この詰上がりのため一枚で36,27,28の3箇所全部に利かせる2手目の合駒が必要で、その条件を満たせるのが37玉合だけなのだ。付け加えて、初手の25への跳ね違いは大事な一手で、飛車を取ると最後逃路になってしまう。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
									一	
									二	
									三	
									四	
						馬		桂	五	
									六	
							王		七	
								皇	八	
								馬	香	九

持駒なし

*37にいるのは玉の性能のロイヤルではない駒なのだが、先手の駒なので慣例で王の表記にした。

7-4番 いれかわり詰、119手詰。

Y-199 (カピタン44号、1990-5)

9	8	7	6	5	4	3	2	1			
									と	一	
			馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	二	
		桂	歩	桂	歩	桂	歩	桂	歩	三	
										四	
										五	
										六	
										七	
						馬		馬		八	
						香		香		香	九

持駒 歩6

*13とがロイヤル駒。本題は協力詰ではなく対抗系)

詰手順：

12と→金、同と→金、11桂成、13金、
 12圭、14金、13圭、15金、14圭、16金、
 15圭、17金、16圭、同金→圭、
 17歩、15圭、16歩、14圭、15歩、13圭、
 14歩、12圭、13歩生、11圭、
 12歩生、21圭、32歩→金、同圭→金、
 31桂成、33金、32圭、34金、33圭、35金、
 34圭、36金、35圭、37金、
 36圭、同金→圭、37歩、35圭、
 36歩、34圭、35歩、33圭、34歩、32圭、
 33歩生、31圭、32歩生、41圭、
 52歩→金、同圭→金、51桂成、53金、
 52圭、54金、53圭、55金、54圭、56金、
 55圭、57金、56圭、同金→圭、
 57歩、55圭、56歩、54圭、55歩、53圭、
 54歩、52圭、53歩生、51圭、
 52歩生、61圭、72歩→金、同圭→金、
 71桂成、73金、72圭、74金、73圭、75金、
 74圭、76金、75圭、77金、
 76圭、同金→圭、77歩、75圭、
 76歩、74圭、75歩、73圭、74歩、72圭、
 73歩生、71圭、72歩生、61圭、
 62香→歩、同圭→歩、63歩、同歩、
 64歩、同歩、65歩、同歩、66歩、同歩、
 67歩、同歩、68歩、同歩、69香迄119手。

詰上がり

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										一
			歩		歩	歩	歩	歩		二
										三
										四
										五
										六
										七
			歩	歩	歩		歩		歩	八
		香		香		香		香		九

持駒なし

二歩禁が手品の種の繰り返し趣向。歩を成ってしまうと取られるが、生歩だから取れない仕掛けなのだ。成桂をすぐ取らず逃げ回るのは手数伸ばし。筋をまたぐところはとても自然に出来ている。最後7筋でバックして69香を取れずに大団円となる。

《交換駒規則の詰将棋》

コーカン駒：駒取りの場合、取られた駒が取った方の駒台に乗るのは通常と同じだが、取った駒も盤上から消えて取られた方（敵方）の駒台に乗る。

オール交換駒：すべての駒がコーカン駒の詰将棋。

*このルールでは、玉が敵駒を取ることはできない。従って王手を外す手が玉の駒取り以外無ければ詰みとなる。

例題2 オール交換駒 15手詰。

Y-206 (カピタン46号、1990-7)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										一
										二
										三
										四
					銀					五
						銀				六
							馬			七
									馬	八
					龍	龍	飛	飛	王	九

持駒 銀

詰手順：28銀、同全、28銀、同馬、
 28角、同馬、28角、同金、29金、同金、
 29金、同龍、29飛、同龍、29飛迄15手。

この詰手順は初見では意味不明だろう。取りに行く駒が相手の駒台に移動する。金を先手に渡すと29金の手順に早く入ることが出来る。従って延命のため金で取るのを遅らせたのだ。狙いは分かりやすく、駒がみるみる消えて行くのは爽快。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
								飛	八
							王		九

持駒なし

7-5番 オール交換駒 39手詰。

Y-207 (カピタン46号、1990-7)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王		一
							王		二
							王		三
	銀	銀	銀	銀					四
								王	五
									六
					金				七
									八
									九

持駒なし

詰手順：26金、イ24王、A25金、33王、34金、ロ同金、34金、ハ32玉、33金、ニ同金、33金、同銀、33銀、43玉、44銀成、52玉、53全、同銀、53銀、63玉、64銀成、ホ72玉、73全、同銀、

73銀、へ63玉、64銀成、62玉、63全、同銀、63銀、53玉、54銀成、42玉、43全、31玉、32全、同金、32金迄39手。変化：イで14玉は25金、13玉、14金、同金、14金、12玉、13金、同金、13金、11玉、12金、同金、12金迄。変化はあるが同じ筋で詰む。

ロで32玉 (42玉) は43金、31玉、42金迄。

ハで42玉は43金、31玉、42金迄。

ニで同銀は33銀、43玉 (同金は33金以下。

23玉は24銀成、32玉、33全、同金、33金以下) 44銀成、52玉、53全、同銀、

53銀、63玉、64銀成、へ72玉、

73全、同銀、73銀、63玉、64銀成、62玉、

63全、同銀、63銀、53玉、54銀成、42玉、

43全、31玉、42全迄35手。

ホで62玉は63全、同銀、63銀、73玉、

74銀成、72玉、73全、同銀、73銀、83玉、

84銀成、72玉、73全以下2手早く詰む。

へで83玉は84銀成、82玉、83全、同銀、

83銀、73玉、74銀成、62玉、63全以下。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						王			一
						金			二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒なし

金銀図式でどれだけ手数が延ばせるか。ニで同金のところ同銀とすると、21金と22金が壁で残るので早く詰む、など逃げ方が微妙だが完全に割り切れているのは驚き。

7-6番 オール交換駒 121手詰。
Y-208 (カピタン46号、1990-7)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	ス	皇		ス	皇		ス	皇	一
飛	香	香	香	香	香	香	香	皇	二
	玉	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	三
								飛	四
							ス	皇	五
		桂	桂			桂	桂		六
									七
									八
									九

持駒 なし

詰手順：

84飛、同と、84歩、73玉、83歩成、同歩、
74歩、イ83玉、73歩成、口同と、
84歩、73玉、83歩成、63玉、73と、同歩、
64歩、ハ73玉、63歩成、ニ同と、
74歩、63玉、73歩成、53玉、63と、同歩、
54歩、63玉、53歩成、同と、64歩、53玉、
63歩成、43玉、53と、同歩、44歩、53玉、
43歩成、同と、54歩、43玉、
53歩成、33玉、43と、同歩、34歩、43玉、
33歩成、同と、44歩、33玉、
43歩成、23玉、33と、同歩、24歩、33玉、
23歩成、同と、34歩、23玉、
33歩成、13玉、23と (中間図、65手経過)

変化：イで同とは、74歩、63玉 (83玉は
73歩成、同歩、84歩、73玉、83歩成、
63玉、73同香で71香がすぐに消えて早
い)、73歩成で作意に戻り6手短い。
口で同歩は、84歩、73玉、83歩成迄。
ハで同とは、64歩、73玉 (63玉は63歩成、
同歩で4手短い) 63歩成、同歩、
74歩、63玉、73歩成、53玉、63と迄
ニで83玉は73と、同香、84香、73玉、
83香成、63玉、73杏迄。

後手側としては、3段目のと金は逃路を塞ぐ
壁駒なので早く処理したい。途中から角で取
る手が可能になり、どこで取るのか取らない
のかが非常に悩ましい。

中間図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	ス	皇		ス	皇		ス	皇	一
飛							香	皇	二
							と	玉	三
									四
							ス	皇	五
		桂	桂			桂	桂		六
									七
									八
									九

持駒 なし

中間図より

ホ同角、A24角、へ同角、B24角、同と、
14歩、23玉、13歩成、ト同香、
24香、33玉、23香成、43玉、33杏、53玉、
43杏、63玉、53杏、73玉、63杏、83玉、
73杏、同香、84香、73玉、83香成、63玉、
73杏、53玉、63杏、43玉、53杏、33玉、
43杏、23玉、33杏、13玉、23杏、同歩、
14歩、23玉、13歩成、同香、24香、33玉、
23香成、43玉、33杏、53玉、43杏、63玉、
53杏、73玉、63杏、83玉、73杏迄121手。

変化：ホで同歩は、13玉型で早く詰む。
トで33玉は、戻って来た時に先に22歩が消え
る関係で11香が消え残ったまま早く詰む。
紛れ：AやBで35角などと離して打つと移動合
されて困る。このルールでは駒取りをする
と相手に駒が行ってしまうので、出来るだ
け相手に駒取りさせるのが作戦となる。

角と香が盤面に配置されているのが、問題を複雑化させている。それらはいずれ先手の持駒になるので、どの順番で先手に角と香を渡すのかがややこしい問題。

角が持駒になると簡単に方向転換出来るため、71香または22歩が先に消えている状態で角を手放すと早く詰むことになる。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	ス			ス			ス		一
飛									二
	王	香							三
									四
									五
		桂	桂			桂	桂		六
									七
									八
									九

持駒 なし

使用駒が5番と真逆で、手順はと金と歩のダブルはがし趣向の作。逃げ方がかなりややこしいが本作も完全に割り切れているようだ。

結論から言うと22歩と71香が後手の生命線で、出来るだけ残すのが最善の延命策。駒が消える正しい順序は、41角～15角～25と～12香～73香～22歩～11香のように限定されているわけですごいことだ。

《攻得ルール》

・駒取りが生じた時、取った駒と取られた駒は同時に盤上から消え、取った側の駒台に乗る。

*玉は敵駒を取れないものとする。

*詰将棋では通常王手義務があるため、駒取りで王手を掛けると盤上から王手を掛けている駒が消えてしまい、王手ではなくなるので注意が必要（例外はある）。

*作者の書き方ではこのルールが適用されるのが攻得駒で、すべての駒が攻得駒となるのが攻得詰のようだ。同じ号で出口氏は攻得ルールと対になる受得ルールも発表している。

7-7番 攻得詰 115手詰。

Y-174 (カピタン35号、1987-1)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
					桂				二
				歩	桂	飛			三
		香	飛	ス	ス	ス	桂		四
			銀	銀	銀	銀		香	五
金								桂	六
金		皇					皇	金	七
皇	香	歩	歩	歩	歩	歩	香	ス	八
	金		王						九

持駒 歩7

詰手順：79金、59玉、69金、49玉、59金、39玉、49金、29玉、39金、19玉、A29金、同と、18金、29玉、19金、39玉、29金、49玉、39金、59玉、49金、69玉、59金、79玉、69金、89玉、79金、99玉、89金、同馬、98金、89玉、99金、79玉、89金、69玉、79金、59玉、69金、49玉、59金、39玉、49金、29玉、39金、18玉、

29金、17玉、18金、26玉、27金
 (中間1図、51手経過)

Aで18金と18とを取りつつ王手とすると、その瞬間18金が先手の駒台に乗ってしまうので、王手が解消されてしまう。つまり通常の駒を取りながらの王手は王手にはならない!

中間1図直前の指手は、18金で27の歩を取る手。これは駒取りなので、取った27金は先手の駒台に移動する。ところが先手に28香があるので、この香で王手が掛かるのだ。

ルールを生かした奇想天外な手順。

中間1図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 金歩8

中間1図より

イ27歩、B17金、ロ25玉、26歩、ハ36玉、37歩、46玉、47歩、56玉、57歩、66玉、67歩、ニ76玉、86金、同馬
 (中間2図、66手経過)

変化：イで28桂成は27金、25玉、26歩、同銀、26金迄。

36玉は37金で詰み。

27金合は26金と取ろうという意図だが実際にとるとその瞬間に消えてしまい、王手回避が出来ていないので意味がない(ハの変化参照)。

角合は、作意どおりに進めて、終盤73香成のところで52角以下早詰。ただしもっと早く詰める順があるかもしれない。乞うご研究。

ロで36玉は37歩以下作意通り進めて一往復後、46歩、35玉、26金迄。この26金を妨害するため事前に26歩を打たせておく理屈。

ハで同銀は26金迄。イで27金合の場合でも26同金とは取れない。他合の場合は26金に玉が駒取りをするしかなく詰み。

ニで同馬は67歩、75玉、85金、76玉、86金迄。また75玉は85金、76玉、75金迄。

紛れ：Bで37金の方から打つと17玉で27金は王手にならず、18歩は打歩詰となり押す手がない。

中間2図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 歩7

中間2図より

77歩、75玉、76歩、同銀、76歩、65玉、66歩、同銀、66歩、55玉、56歩、同銀、56歩、45玉、46歩、同銀、46歩、35玉、36歩、同桂、36歩、24玉、25歩、ホ同と
 (中間3図、90手経過)

変化：ホで23玉は13香成、32玉、22杏、41玉、51桂成迄。

中間3図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
					科				二
				歩	桂	歩			三
		香	歩	歩	歩	歩	王		四
									五
		歩	歩	歩	歩	歩		科	六
							歩	金	七
	香						香		八
									九

持駒 歩2

中間3図より

C27金、へ25金、14金、34玉、24金、同金、
35歩、同と、35歩、44玉、45歩、同と、
45歩、54玉、55歩、63玉、73香成、52玉、
51桂成、43玉、44歩、同飛、44歩、32玉、
22香成迄115手。

紛れ：Cで普通に27香は王手にならない。金
の方で27歩を取るのだが変わった王手。

変化：へ26合（または27合）は25金、23玉、
13香成、32玉、22杏、41玉、51桂成迄。
また金合以外は24金を同金と取れずそのまま詰み。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王					一
					科	王	杏		二
		杏		歩		歩			三
					歩				四
				歩		歩		香	五
		歩	歩					科	六
									七
	香								八
									九

持駒 なし

主題は連歩突き出し。

ルール上一旦取られた後打ち直すので
ちょっと違うが、フェアリー版の槍ぶすまの
意図があったのではないか。中間2図からの横
送りの往復が作図の出発点で、序盤9段目の一
往復半は序奏として後から付け加えられたと
言うのが私の推理だがどうだろうか。

中間1図の応手イが考えどころで、変化がす
ぐには詰まず読みが必要である。後手方の2枚
の飛車は趣向手順を成立させる壁駒だが意外
な防御力もあり、収束の手順を限定させてい
る。

なお本作は作者の希望で解付の例題として
発表された。希少ルールなため目立たない
が、出口信男しか生み出せない詰将棋で傑作
と言わざるを得ない。

第8章

協力詰

今回のテーマは協力詰（ばか詰）です。意外かもしれませんが、出口氏の発表作中最多ルールは協力詰です。解くもよし、鑑賞するもよし。

協力詰（ばか詰）のルール：先手後手協力して後手玉を詰める。指定手数で詰めれば良い。打歩詰、二歩、行きどころのない駒、王手放置などは普通ルール同様禁手。すかし詰は詰みと認めない。

8-1番 ばか詰 11手詰。

Y-16 (詰パラ、1978-12)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

詰手順：48銀、68玉、59銀、77玉、66銀、76玉、65銀直、66玉、55銀、57玉、58銀引迄11手。

四銀図式としては第5号局。これ単独でも大発見だが、2番の四金図式とのペアであることが価値を高めている。正解者が21名中たったの3名（内一名は作者）で、誤解者にも好評だったというオチがついている。

ただ、当時は手数ノーヒントで出題されていたのだった。協力詰が出題時手数明示に変化する一つのきっかけになった作と記憶している。正直詰め難い味があるが、作者としては難解性は意図していないと思う。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

8-2番 ばか詰 11手詰。

Y-27 (詰パラ、1979-6)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

詰手順：58金、49玉、59金、38玉、37金、28玉、27金、38玉、49金、47玉、57金（寄／引）迄11手。

四金図式第2号局。一つのアイデアを単発で終わらせず、駒種を変更したりルールを変更したりなど、徹底的に展開する氏の姿勢が現れている。最終手非限定は残念だが、如何ともし難い。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
				金					六
				金	玉		金		七
									八
					金				九

持駒 なし

8-3番 ばか詰 17手詰。
Y-35 (詰パラ、1980-3)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
				金					四
				金					五
				金					六
				金					七
									八
				玉					九

持駒 なし

詰手順：58金、49玉、59金、38玉、
49金、47玉、46金、37玉、36金、47玉、
37金、57玉、58金、66玉、65金、56玉、
55金引迄17手。

四金図式第4号局。現在でも四金図式の最長
手数記録を誇る。この形で最長手数かつ完全
限定とは奇跡のようだ。時代を考えると人力
で正算式の作図に違いなく、本図を得るため
に作者はどれだけの時間を費やしたのだろう
か。努力の結晶。

ちなみに協力詰四金図式で19手以上の完全
作は知られていない。四銀図式の方は最長手
数完全作は19手。無防備でなければ21手。た
だしあくまで筆者調べで、本当にそれ以上の
手数の完全作が存在しないのかは不明であ
る。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
				金	金				六
					玉				七
							金		八
					金				九

持駒 なし

8-4番 ばか詰 81手詰。
Y-29 (詰パラ、1979-8)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							皇	と	一
歩	銀			歩	歩	駒	歩	玉	二
桂		王					皇	と	三
							歩	歩	四
と	桂						歩	と	五
歩	駒						歩	入	六
玉	駒							金	七
	歩					歩	香	金	八
	香	歩	歩	歩	歩			金	九

持駒 なし

詰手順：96と、98玉、97と、99玉、
98と、89玉、99と、79玉、89と、69玉、
79と、59玉、69と、49玉、59と、39玉、
29金、同玉、19金、同玉、18金、同玉、
19歩、17玉、18歩、同桂成、16と、同玉、
17歩、15玉、16歩、同桂、14と、同玉、

15歩、13玉、12と、同玉、13金、同玉、
 14歩、12玉、13歩成、11玉、22と、同香、
 12歩、21玉、11歩成、31玉、21と、41玉、
 31と、51玉、41と、61玉、71銀成、同玉、
 81桂成、同玉、91歩成、71玉、81と、同玉、
 93桂生、91玉、81桂成、92玉、
 82圭、93玉、83圭、94玉、84圭、95玉、
 85圭、96玉、86圭、97玉、98銀、同銀成、
 87圭迄81手。

協力詰周辺巡りの第3号局。解くのは楽ちん
 だが、作るのは簡単ではない。特に左上の直
 角ターンが超絶うまくできている。当然のよ
 うに還元玉の上、最後の最後に捨駒が出るの
 も印象を良くしている。右辺の桂跳びの繰り
 返しなどリズムもよく完成品と言える。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						と			一
				歩	歩	桂	歩		二
		王					歩		三
									四
							歩		五
								歩	六
王	圭								七
歩	歩					歩	香	歩	八
				と					九

持駒 なし

本作以前の協力詰の周辺巡りは次の2局があ
 る。

第1号：森茂氏（詰パラ、1972-12）。

第2号：有吉弘敏氏（詰パラ、1976-10）早
 詰。

次作はカピタンのコラムで「ばか詰周辺巡
 り2題」として図面のみ紹介された。明かさ
 れている通り元ネタがあり、新作として発表
 するのを遠慮されたようだ。

8-5番 ばか詰 173手詰。

Y-49（カピタン、1980-6）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				と			歩		一
歩	歩	歩	歩	桂	歩	歩	歩		二
	歩	歩		歩			歩		三
	歩						歩		四
歩	歩	金	桂					歩	五
と	香	桂					歩	と	六
	銀	銀	銀			王	銀		七
	香	歩	歩	歩			香	歩	八
					王		金	歩	九

持駒 なし

詰手順：39金、59玉、...99玉、89金、同玉、
 98銀、同玉、97と、99玉、98と、...19玉、
 29と、同玉、18銀、同玉、17と、19玉、
 18と、...97玉、98と、96玉、87と、A同桂、
 97歩、95玉、...93玉、94歩、同玉、
 84金、95玉、94金、96玉、...17玉、
 18金、16玉、27金、同桂生、
 17歩、15玉、...12玉、13歩成、11玉、
 22と、同金、12歩、21玉、11歩成、31玉、
 41と、同玉、53桂生、51玉、
 41桂成、61玉、...91玉、81圭、同龍、
 92歩、同玉、84桂、93玉、
 92桂成、94玉、...14玉、15圭、13玉、
 25桂迄173手。

同時発表のY-48は65手詰（ノンストップ）
 の完全作。もう1題が本題。コラムに作図の
 きっかけが書かれている。

協力詰の周辺巡りに挑戦してあと一步だっ
 た国戸美香作（詰パラ1975-8）がある。これ
 を改作した有吉弘敏作（詰パラ1975-11）を
 さらに改作して長手数化したとのこと。この
 ことからこれらを作ったのは1975～1976頃
 のことと推察できる。

手順構成がおおらかな感じを受けることもあり、8-4番より創作時期が古いのではないだろうか。出口氏の創作初期の作？として貴重と考え、取り上げた。本作は周辺すべてを回り、かつ踏み出しはない。手順中非限定なのはAの87同桂の成生のみ。

8-6番 ばか詰 49手詰。
Y-63 (詰パラ、1980-8)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						角			一
						角	銀		二
							銀		三
							歩	金	四
							香	金	五
							香	金	六
							香	金	七
							香		八
						王		王	九

持駒 なし

詰手順：18金、同玉、17金、同玉、16金、同玉、15金、同玉、14銀成、16玉、15全、同玉、14角成、同玉、13銀成、15玉、14全、同玉、13角成、同玉、23歩成、14玉、13と、同玉、23香成、14玉、13杏、同玉、23香成、14玉、13杏、同玉、23香成、14玉、24杏、15玉、25杏、16玉、26杏、17玉、27杏、18玉、28杏、19玉、29杏迄49手。

手数は長いが一本道、一筆書きのような作。角が二枚もあるのに捨てるしかない。邪魔駒を次々に捨てて最後は還元玉ミニ煙。協力詰の全駒煙は多分不可能でしょう。協力詰で何枚消せるのかは時々話題に上ります。

8-7番 ばか詰 13手詰。

Y-143 (詰パラ、1984-8)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
				王					五
									六
			金	金	金				七
									八
			歩	歩	歩				九

持駒 なし

詰手順：66金右、45玉、56金右、54玉、65金右、45玉、55金寄、46玉、56金上、47玉、46金、57玉、56金引迄13手。

本作には元ネタがある。参考図として上げた中出慶一氏の7手詰 (詰パラ、1976-10)。作者は異なるが二作ペアとして存在価値あり。

参考図 ばか詰 7手詰。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
				王					五
									六
			銀	銀	銀				七
									八
			歩	歩	歩				九

持駒 なし

詰手順：66銀右、45玉、56銀右、46玉、55銀左、57玉、58歩迄7手。

8-8番 ばか詰 25手詰。

Y-293 (詰パラ、1993-12)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
							銀		三
						銀			四
科			と	進					五
金	歩	科	歩						六
金	香	王							七
									八
桂		王	桂						九

持駒 飛金香

詰手順：17飛、27銀、同飛、37銀、
同飛、47銀、同飛、57銀、
同飛、同飛生、67金、同飛生、
68銀、同飛生、88銀、同飛生、
87金、同飛生、88銀、同飛生、
68銀、同飛生、67金、同飛生、
78香迄25手。

オーロラである。協力詰で四銀連合をやってみようというアイデアを実現させた。

要するに78香の詰を邪魔している87金を除去したいが、迂闊に取ると87同桂成では何をやっているか分からないし、かといって同桂生は逆王手。そこで55飛を連れて来て同飛と取らせる。このままだと角筋が通っているので、飛車には67までバックしてもらって、めでたく78香が可能になる。

逆王手が掛からないように飛の移動は常に不成で行わなければならない。この飛車の移動に4枚の銀が必要になるというロジック。双玉は偉大。

8-9番 ばか詰 29手詰。

Y-295 (詰パラ、1995-3)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						香	科	科	二
						科	香	龍	三
						歩	銀	王	四
						香	香	銀	五
						飛	銀	王	六
									七
									八
									九

持駒 金3桂歩2

詰手順：25銀、同桂、26桂、同角、
15歩、同角上、24金、同龍、13金、同玉、
14歩、同龍、24金、同歩、23金、同玉、
33歩成、同歩、同香成、13玉、23杏、同龍、
14歩、同龍、33飛生、23龍、同飛生、14玉、
13飛打迄29手。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
							科	科	二
							飛	飛	三
							香	王	四
							科	銀	五
							銀	王	六
									七
									八
									九

持駒 なし

スライディングブロックパズルのようだ。王手が続くように適切な隙間を開ける前半は暗算に最適。収束が工夫のしどころで最後盛り上がる。暗算では気付き難いが詰めてみれば

あっと驚く密集形ではないか。そうか、石垣
→石垣の趣向だったのか。

8-10番 ばか詰 61手詰。

Y-298 (詰パラ、1995-11)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
					皇	歩	歩	歩	六
					皇	ス	角	王	七
					歩	歩	桂		八
					ス	角	歩	歩	九

持駒 なし

詰手順：28角、27玉、17飛、28玉、
27飛、18玉、17飛、28玉、18飛、39玉、
38飛、同玉、39金、27玉、38金、17玉、
27金、18玉、17金、28玉、27金、38玉、
37金、28玉、27金、38玉、39歩、同圭、
37金、28玉、38金、29玉、39金、18玉、
29金、27玉、39桂、同と、18金、37玉、
27金、38玉、37金、28玉、38金、29玉、
39金、18玉、29金、27玉、18金、37玉、
27金、38玉、37金、28玉、29歩、17玉、
27金、18玉、28金迄61手。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
					皇	歩	歩	歩	六
					皇				七
					歩		金	王	八
							歩	歩	九

持駒 なし

狭いところを微妙な駒繰りで手を繋ぐ。く
るくると金で追い回しながら駒をはがす。

調子に乗って19成桂をはがしてしまうと手
数が伸びる。19成桂を逆用して詰めるのがう
まい。

8-11番 ばか詰 15手詰。

Y-326 (詰パラ、1996-3)

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
							飛	歩	王	一
							桂	歩	飛	二
							王	桂	歩	三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 角角桂

詰手順：21歩成、同玉、22歩、同飛、
12角、同玉、24桂、11玉、12桂成、同飛、
22角、21玉、31角成、11玉、21飛迄15手。

こんな狭い玉なのに紛れが多く存外詰め難
い。

- ・21歩成、同飛、22角、同飛寄、12歩、同玉、
24桂. . .
- ・21歩成、同玉、22歩、同飛、12角、同玉、
24桂、21玉、32桂成、12玉. . .

手順中24桂から12桂成の呼吸が詰将棋。
33王一枚ですべての余詰を防いでいる。

8-12番 ばか詰 9手詰。

Y-330 (詰パラ、1996-9)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
				馬					四
									五
				王					六
									七
				角					八
									九

持駒 桂4

詰手順：47角、46玉、58桂、45玉、
57桂、44玉、56桂、55玉、67桂迄9手。

担当者 (筒井浩実) / 頭の丸い駒だけなのに
55で捕まえてしまうのは驚きです。しかも
それが持駒趣向とあぶり出しと言う形で表
現されているのは二重の驚きです。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
				馬					四
				王					五
				桂					六
			桂	桂	角				七
				桂					八
									九

持駒 なし

8-13番 ばか詰 9手詰。

Y-342 (詰パラ、1997-7)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
				飛					二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 銀歩2

詰手順：22銀、同玉、23歩、32玉、
33歩、21玉、32歩成、11玉、
22歩成迄9手。

西村詩 / この初形でこの意外性、傑作と思
う。

52飛車の防御力が強く、9手で詰めるのは苦
労する。序の2手が鮮烈だ。

8-14番 ばか詰 23手詰。

Y-352 (詰パラ、1998-1)

9	8	7	6	5	4	3	2	1			
									一		
									二		
									三		
									四		
									五		
									六		
									七		
									八		
	ス	歩	歩	歩	歩	歩	歩	王	ス	と	九

持駒 歩

詰手順：29と、49玉、39と、59玉、
49と、69玉、59と、79玉、69と、89玉、

79と、98玉、89と、87玉、88歩、77玉、78と、86玉、77と、97玉、98歩、同と、87と迄23手。

考えるのは収束だけだが、うまく限定されている。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
王	と								七
ス	歩								八
									九

持駒 なし

- 1 65飛、同玉、45飛、55飛合、同飛、64玉、54飛打迄。
- 2 54飛左、66玉、64飛、65馬、同飛、56玉、47角迄。
- 3 54飛右、46玉、44飛、45金合、同飛、56玉、55金迄。
- 4 54飛右、46玉、66飛、56銀合、同飛寄、45玉、34銀迄。
- 5 54飛左、66玉、46飛、56桂合、同飛寄、65玉、77桂迄。

- 1：飛合、
- 2：角（馬移動）合、
- 3：金合、
- 4：銀合、
- 5：桂合

同じ舞台から同じ7手詰で、5種類の合駒が出現する5通りの解がある。出口信男氏が現代的な手順構成に挑戦した作。

8-15番 協力詰 7手詰、5解。

Y-424 (Propara, 2019-10)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
		馬	歩						三
			飛		飛				四
		金		王		馬			五
									六
				歩					七
									八
									九

持駒 なし

角合のみ打合でないところが惜しい。香合と歩合を加えて7解に揃えたいところだが、達成した作はあるのだろうか。歩合限定が難しい。

チェスプロブレムの世界では複数解問題はごく普通のこととされている。全体で一つのテーマを表現するという意図。

本図の場合は同じ舞台から5通りの異なる合駒が出現する。

第9章

安北詰

マキシ詰

まず安北詰から。

《安北詰のルール》

味方同士の駒が縦に繋がった時、安南詰と逆に下の駒が上の駒の性能に変化する。打歩詰は禁止。二歩は移動して二歩になるのも禁止。

安北詰とは奇妙な名称です。このルールの旧名称は逆鮮詰と言いそもそも意味が分からない。その上似た名称の逆対鮮詰(=現在の背面詰)と言うのがあって紛らわしく、困っていた。

ここに名案が登場。地図上では北が上、南が下になっている連想から安南と上下逆のルールは安北がいいのではないか。

これは確かに連想が効いて覚えやすい。その上同類ルールの安東、安西がセットで誕生するというおまけも付く。

対面、背面、安北の名称はその後定着しました。

9-1番 安北詰 11手詰。

Y-234 (将50号、1991-8)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
				馬					三
			馬	王	馬				四
				馬	王	馬			五
				馬	王	馬			六
				馬					七
									八
									九

持駒 金銀

詰手順：55銀、イ同玉、A66馬、ロ同龍、46馬、同香、45金、同銀、44銀、同金、54金迄11手。

変化：イで同歩引は44馬、同金、53金迄。イで同歩寄は二歩。

イで同銀は44馬、同金(同玉、同銀とも指せない。63玉は62金迄) 53金迄11手。

ロで同歩は65金、同銀、44馬、同金、64銀迄。

紛れ：Aで46馬は、同龍、66馬、同歩、65金、同銀、64銀、同金、54金を同香と取られる。本手順では二歩のため54同歩とは取れない。

詰上り

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
				馬	金	馬			四
				馬	王	馬			五
				馬	王	馬			六
									七
									八
									九

持駒 なし

初形対称形で詰上り石垣の立体曲詰。これで詰みと言われても駒の利きを確認するのさえ一苦労だ。手順前後の綾が見所。ちなみに今回の安北詰3題は手数順に並べたので、発表順ではない。発表時2番と3番は逆鮮詰、1番のみ安北詰として出題されている。安北詰の名称が使われるようになったのは1990年頃のことと推定出来るようである。

安北詰は規則的には安南詰と対等なのだが、実際にやってみると安南詰より勘違いを誘発し易い気がする。単に慣れが原因なのだろうか。不思議です。

9-2番 逆鮮詰 (安北詰) 25手詰。
Y-151 (カピタン32号、1985-11)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王					一
		科	科	歩					二
				王					三
角			銀					角	四
飛	銀	金	歩	金	金	金	銀	飛	五
	歩	歩				桂	歩		六
									七
									八
									九

持駒 なし

詰手順：42王、63玉、53王、74玉、
63王、84玉、74王、93玉、83王、71玉、
82王、63玉、73王、54玉、63王、44玉、
53王、34玉、43王、24玉、34王、13玉、
23玉、31玉、22王迄25手。

ほぼ左右対称の配置だが、32桂ではなく
32歩になっているところが手品の種。狙いは
分かり易く、何と全詰手順が玉だけという珍
品作なのだ。

9-3番 逆鮮詰 (安北詰) 37手詰。
Y-203 (カピタン45号、1990-6)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
と	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		二
								歩	三
			龍				歩	王	四
									五
								歩	六
								入	七
								桂	八
									九

持駒 香

詰手順：23歩成、同玉、25香、33玉、
24龍、43玉、45香、53玉、44龍、63玉、
65香、73玉、64龍、83玉、93と、同玉、
95香、83玉、94龍、73玉、75香、63玉、
74龍、53玉、55香、43玉、54龍、33玉、
35香、23玉、34龍、13玉、15香!、同歩、
14龍!、同玉、26桂迄37手。

安北ルールを完璧に生かした趣向手順が明
快そのもので、その上鮮やか過ぎる収束が驚
異的だ。記憶されるべき作。

《マキシ詰のルール》

後手は可能な指手の中で最も距離の長い手を
指さなければならない。最長距離の指手が
複数ある場合は、その中のどれを選ぶかは
後手の自由。他は普通の詰将棋と同じ。

指手の距離は次のように定める。

将棋盤の一つ一つのマス目を一辺の長さが1
の正方形とする。移動元のマス目の中心か
ら、移動先のマス目の中心までの距離を物差
しで測り、それを指手の距離と定める。斜の
距離はピタゴラスの定理で計算する。駒を打
つ手の距離は1とする。

例題 マキシ詰 9手詰。

Y-41 (詰パラ、1980-5)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
					飛			角	二
					飛				三
					角				四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 銀2桂2

詰手順：23桂、同飛、21角成、同飛、12銀、同飛、22銀、同角、23桂迄9手。

ルール説明用に作られたと思われる飛角図式。協力詰ではないのに、協力詰のように後手の指手をコントロールできる。易しい作だがもちろん手順前後を許さない。

9-4番 マキシ詰 23手詰。
Y-11 (詰パラ、1978-11)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
金	金								七
馬	金	香							八
馬									九
銀	玉	銀							

持駒なし

詰手順：98銀、同玉、97金引、89玉、78銀打、同金、同銀、同玉、68金、89玉、88金、イ同玉、78金、ロ97玉、87金引、98玉、A89銀、同玉、79金、98玉、88金引、99玉、89金(引/寄)迄。

変化：イ79玉は、69金、88玉、87金引、99玉、88銀、89玉、79金迄。
ロ99玉は、88銀、89玉、79金迄。

紛れ：A99銀は、89玉、88金引、99玉で逃れ。

作者のマキシ詰の発表作としては第一号。金銀図式は普通ルールを含めても少ないのではないか。1： $\sqrt{2}$ を利用した細かい手順の綾が見どころの作。Aで99銀と打っても取る手はなく89玉が絶対なので、89銀と捨てなけれ

ば詰まないのは不思議な感じ。最終手非限定。

9-5番 マキシ詰 51手詰 修正図
Y-14 (詰パラ、1979-2)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
と									三
ス		ス		ス		ス	飛		四
と	歩	と	歩	と	歩	と	歩		五
		香		香		香		香	六
	飛	香		香		香			七
玉	ス		ス		ス		ス	歩	八
		金		金		金		金	九

持駒なし

詰手順：97飛、同玉、88金、同桂成、98歩、86玉、96と、77玉、68金、同桂成、78歩、66玉、76と、57玉、48金、同桂成、58歩、46玉、56と、37玉、28金、同桂成、38歩、26玉、36と、15玉
(中間図、26手経過)

中間図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
と									三
ス		ス		ス		ス	飛		四
	歩		歩		歩		歩	玉	五
と		と		と		と			六
									七
歩	玉	歩	玉	歩	玉	歩	玉	歩	八
									九

持駒なし

中間図より

25と、同と、14飛、26玉、27歩、35玉、45と、同と、34飛、46玉、47歩、55玉、

65と、同と、54飛、66玉、67歩、75玉、
85と、同と、74飛、86玉、87歩、95玉、
94飛迄。

1：√2：√5を利用した楽しい横一往復趣向。行きも帰りも歩打で送る。マキシルールの長編は多くの場合1：√2を利用することになり、軽快な追い趣向なりやすい。

9-6番 マキシ詰 13手詰。
Y-42 (詰パラ、1980-5)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			皇						一
			龍						二
		銀	科		王				三
									四
		龍			歩				五
		金		桂	金				六
						金			七
									八
									九

持駒 桂2香

詰手順：44歩、イ54玉、45金、同龍、
A46桂、同馬、55香、同桂、66桂、同飛、
65金、同香、64銀成迄13手。

変化：イで34玉は36香、35龍、同金、23玉、
21飛、22飛、同飛成、14玉、24龍迄2手早い。

イで32玉は36香、35龍、同香、甲41玉、
32香成、同飛、31飛、52玉、32飛生、
41玉、31飛打迄同手数駒余り。

甲で23玉は21飛、22飛、同飛成、14玉、
13飛迄2手早い。

甲で21玉は23飛、22飛、32香成、同玉、
22飛成、41玉、31飛迄駒余り。

イで52玉は62銀成、41玉、21飛、32玉、
22飛成、41玉、52全迄早い。

詰上り

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
			全	王	歩				四
			皇	科	龍				五
			龍	桂	金				六
									七
									八
									九

持駒 なし

初手44歩の突き出しに対して広そうな方に逃げる手が心配だが、マキシルールにより意外に簡単に捕まる。54玉とした後37馬が動き出すと厄介なので、一旦46桂を打っておくのが肝心。ここを突破すれば、順に駒をさばいて作者得意の石垣が出現する。

9-7番 マキシ詰 15手詰。
Y-86 (詰パラ、1981-6)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						飛			一
			科			科			二
		飛	馬	科					三
				科	ス	皇			四
			歩		銀				五
			科		王				六
									七
									八
									九

持駒 なし

詰手順：64馬、イ55と、同馬、同玉、
44銀、同桂、56歩、同角、35飛成、45桂、
46龍、同桂、53飛成、54桂、64龍迄15手。

変化：イで55打合は長さが1の手だから、マキシ詰では√2の手を指さざるを得ない。
 イで57玉は77飛成、48玉、68龍、39玉、28馬、49玉、38馬迄。
 イで35玉は44銀、同桂、34飛成、26玉、25龍、17玉、28馬迄。

詰上り

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
			龍	科	科				四
			歩	王	科				五
			歩	角	科				六
									七
									八
									九

持駒 なし

本題も石垣。初手絶対ながらその応手がマキシらしい移動合。中盤以降四枚の桂をポンポンと跳ねさせるリズム感を味わうべき作。

9-8番 マキシ詰 61手詰。
 Y-162 (詰パラ、1986-9)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							香	科	一
							科		二
								科	三
							科		四
								歩	五
						と			六
						歩	王		七
						香	歩	香	八
						金	香	銀	九

持駒 歩4

詰手順：37と、16玉、27と、イ25玉、26歩打、15玉、16歩打、同桂、同と、24玉、25歩、同桂、同と、13玉、14歩打、同桂、同と、22玉、23歩打、同桂、同と、11玉、12歩打、同金、同と、同玉
 (中間1図、26手経過)

変化：イで同玉は28金、16玉、17金、25玉、26歩、15玉、16歩、同桂、同金、24玉以下桂金を全部剥がして、11で詰む。

中間1図：26手目12同玉の局面

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
								王	二
									三
									四
									五
									六
									七
						香	歩	香	八
						金	香	銀	九

持駒 金桂4

中間1図より

24桂、ロ23玉、15桂、14玉、26桂、25玉、17桂、16玉、27金、同玉、18銀、ハ同玉、29金、ニ同玉、39金打、18玉、28金、同玉
 (中間2図、44手経過)

変化：ロで21玉は12金迄。

ハで16玉は27銀、同玉、28金、16玉、27金打、15玉、16金、24玉、25金、13玉、14金、22玉、23金、11玉、12歩、21玉、32香成迄6手早く詰む。

ニで27玉は28金、16玉、27金打以下。

中間2図：44手目28同玉の局面

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
							桂		四
								桂	五
							桂		六
								桂	七
						香	王		八
									九

持駒 金歩

中間2図より

29金、17玉、18金、26玉、27金、15玉、
16金、24玉、25金、13玉、14金、22玉、
23金、11玉、12歩、21玉、32香成迄61手。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王		一
						杏		歩	二
							金		三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

作者／一応例題用のつもり。7年くらい前の作ですが、44手目から60手迄の手順が238号の上田氏作と同一のため未発表。しかしもう時効と思い出頭しました。大目に見てネ。

最初の片道で玉方の4枚の桂をはがしながら追い落とす。中間1図から桂を連打しつつ追上げる。右下隅で折衝のあと金で追い落と

し、さきほど打った桂が全て消える。菱形の詰上りというおまけもついて気持ちの良い趣向作です。

作者の言葉にある上田氏の作とは次の参考図。マキシ詰の場合、紐なしの金で頭から抑えて鋸状に追い落とすのは全体で一つの手筋とってよいかと思う。

参考図：上田吉一、マキシ詰、41手詰。
詰パラ238号,1975-11

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					馬	銀	王		一
					馬		歩		二
							王		三
					馬				四
									五
									六
								王	七
									八
									九

持駒 香

詰手順：32銀生、同玉、39香、23玉、
22馬、14玉、13馬、25玉、24馬、16玉、
15馬、27玉、26馬、18玉、17馬、29玉、
28馬、同玉、29金、17玉、18金、26玉、
27金、15玉、16金、24玉、25金、13玉、
14金、22玉、23金、11玉、12歩、21玉、
31香成、同銀、11歩成、同玉、13香、21玉、
12香成迄41手。

マキシ詰最初期の傑作。序盤に変化が集中しているが、いずれの変化もマキシルールにより捕まっている。

馬による追い上げ、金による追い落としの一往復もの。39香を最初から配置するのでなく、序盤で組み込むのが当然ながら見事です。

9-9番 マキシ詰 35手詰。
Y-71 (詰パラ、1980-12)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
								王	二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 銀3歩4

詰手順：13銀、イ21玉、22銀生、12玉、
13銀打、23玉、24銀成、32玉、
33銀生、43玉、44銀成 (中間図)

変化：イで23玉は24銀成、32玉、
33全、41玉、42銀、52玉、53銀成、61玉、
62歩、72玉、73銀、81玉、82歩以下。

2手目23玉とするのは上記のように早いので、狭い方の21に逃げるのが本手順。ここで22銀と打ってしまうと駒不足になるため、22銀生と再活用するが12玉と千日手模様の出だしとは皮肉。

ここで2枚目の銀を打ち24銀成で上部を抑える。22銀を再活用し44銀成とした11手目の局面が問題。

マキシ詰ルールにより同玉はなく、32玉と52玉の二択を迫られる。先手の持駒の銀が1枚なので、広い方に逃げたい気持ちもある。どちらの変化もすぐには詰まないの、イヤラシイ。

中間図：11手目44銀成まで

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
					王				三
					全	全			四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 銀歩4

中間図より

ロ32玉、33全右、41玉、42歩、52玉、
53全、61玉、62銀、72玉、73銀生、83玉、
84銀成、72玉、73歩、81玉、82歩、92玉、
93歩、91玉、92歩生、82玉、83全、71玉、
72全迄35手。

変化：ロで52玉と広い方に逃げると
53全、61玉、A62歩、72玉、73銀、81玉、
82歩、92玉、93歩、83玉、84銀成、72玉、
73歩、71玉、61歩成！、82玉、
83全、91玉、92全迄31手。

A62歩から61歩成がうまい手で82玉を強制することが出来る。この手順があるため一見狭い32の方に逃げて42歩と一枚使わせるのが本手順になる。

本手順の61玉に対して62歩とすると、収束で歩が一枚不足し詰まない。歩の枚数が微妙に出来ている。

筆者はロの変化中Aの62歩に当初気づかなかった。62歩のところで62銀と打つと後述するように39手かかり、これが正解手順ではないかとの疑念を持っていた。実際はAで上記62歩以下31手で詰む手順があるので、私が見つけた手順は変別解だったことになる。

蛇足ながら華麗な(?)変別手順を書いておく。

A62銀、72玉、73銀生、83玉、84銀成、72玉、62全、81玉、82歩、92玉、93歩、91玉、92歩生、82玉、83歩、81玉、91歩成、同玉、82歩成、同玉、83全、91玉、92歩、81玉、72全右迄39手。

発表は同時ではなかったが次の煙詰とペアとなる作。裸玉の方は解付きで発表された。

変化手順と本手順とが絡み合っ手順には微妙な綾がある。持駒の銀が3枚というのがポイントで、マキシルールとは言え将棋盤の端から端までを3枚の銀で抑えるのには工夫が必要なのだ。基本的に2段目、3段目は銀生で4段目は銀成という考え方となる。

最後駒が足りないように思えるが、マキシ流の歩生の妙手が出て御用となる。

作者は持駒の種類と枚数を調整しながら正算式で作図したに違はなく、完全作として完成できたのは努力の賜物と感銘を受けざるを得ない。

9-10番 マキシ詰 137手詰。

Y-44 (詰パラ、1980-5)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	ス	ス	ス	ス			歩	と	一
馬	香	香	香	香		と		と	二
歩	と	と	と	と		と	桂	と	三
	龍	馬			桂	と	桂		四
			銀			と	桂		五
						と	金	馬	六
馬			銀	王	銀	ス	馬		七
							馬		八
									九

持駒なし

詰手順：56銀上、イ38玉、47銀、ロ同龍、88龍、49玉、79龍、ハ38玉、68龍、ニ49玉、59龍、38玉、48龍、29玉、59龍、49龍、同龍、18玉、19飛、同馬、同龍、同玉、28角、同金、同銀、同玉 (中間1図、26手経過)

変化：イ58玉は、67銀、同龍、88龍、69玉(78龍、同龍、47玉、48龍迄。)、79龍、58玉、59龍、47玉、48龍迄。ロ最長移動距離の手は、同龍に決まる。ハ58玉は59龍、67玉、57龍以下龍が取れ、左辺ですぐに詰む。ニで29玉は59龍、49龍、同龍、18玉以下4手早い。

2手目58玉はイの変化のように早詰なので、38玉と逃げるのは限定。それでも47に龍を呼んで、奇妙な龍鋸でその龍を無理やり取る。右下隅で駒交換の後29金と据え、もう一度駒交換。

マキシ詰では金で頭から抑えるのは常套手段だ。但し、斜めの逃げ道を空けておくのが肝要。そうすれば紐付きでない金で追い落とせる。

中間1図：26手目28同玉の局面

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	ス	ス	ス				歩	と	一
馬	香	香	香	香		と		と	二
歩	と	と	と	と		と	桂	と	三
		馬			桂	と	桂		四
			銀			と	桂		五
						と	金	馬	六
							ス		七
							王		八
									九

持駒金

中間1図より

29金、17玉、27金、同金、18歩、同金、
同金、同玉、19金、27玉、28金、16玉、
26と、同玉、27金、15玉、14と、同玉、
13桂成、15玉、14圭、同玉、25と、同玉、
26金、14玉、13と、同玉、12桂成、14玉、
13圭、同玉、24と、同玉、25金、13玉、
12と、同玉、11桂成、ホ13玉、12圭、同玉
(中間2図、68手経過)

変化：ホで同玉は、21と、同玉、32桂成、12
玉、22圭、13玉、23圭迄。

凝った攻め駒をほぐすような1サイクル10手
の繰り返し趣向によって、19に打った金がず
いずいと上がっていく。

さて、中間2図の局面では手拍子で23ととす
ると詰まない。

中間2図：68手目12同玉の局面

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	馬	ス	ス	ス				歩		
二	香	香	香	香			と		王	
三	歩	と	と	と			と			
四			馬			桂				
五				銀				金		
六										
七										
八										
九										

持駒 なし

中間2図より

22と寄、同歩、23と！、同玉、24金、12玉、
13金、21玉、32桂成、同玉、22金、41玉
(中間3図、80手経過)

22とから23との呼吸がいい感じ。縦追いから
横追いに切り替わる右上隅のターンがあまり
にも自然だ。どうしてこううまくいくの
だろう。

中間3図：80手目41玉の局面

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	馬	ス	ス	ス		王				
二	香	香	香	香				金		
三	歩	と	と	と						
四			馬							
五				銀						
六										
七										
八										
九										

持駒 歩

中間3図より

51香成、へ同と、42歩、同と、同と、同玉、
32金、51玉、61香成、同と、52歩、同と、
同と、同玉、42金、61玉、71香成、同と、
62歩、同と、同と、同玉、52金、71玉、
81香成、同銀、72歩、同銀、同と、同玉、
62金、ト81玉 (中間4図、112手経過)

変化：

へ同玉は、52歩、同と、同と迄。
ト83玉は、74銀、同玉、75金、83玉、
84金、92玉、93金、81玉、72銀迄。

打歩詰にならぬよう後手方のと金を近づけて
から精算する8手一組の手順で横に追う。序
盤の19金が旅路の果てに左上隅迄来た。さ
あいよいよ収束。65銀がうまく消えるか心
配になるが…。

中間4図：112手目81玉の局面

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	王								一
			金						二
歩									三
		王							四
			銀						五
									六
									七
									八
									九

持駒 銀

中間4図より

72銀、92玉、83銀成、同玉、74銀、同玉、75金、83玉、84金、92玉、93金、81玉、82歩、同角、同金、同玉、64角、93玉、75角、82玉、72金、91玉、64角、92玉、82角成迄137手。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
王	馬	金							二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

大西宏明／趣向中や収束の紐なし戦法が良い。詰上がり一文字の見事な煙。

飯島士朗／難解かつ華麗。A

福井敏幸／序盤の龍鋸、右上隅の転回、収束すばらしい。A

担当者（加藤徹）／龍鋸と2つの追い趣向を見事に融合させたマキシ煙の傑作。フェアリーファンでない人もぜひ並べてみてほしい。

マキシルールに慣れないと最後の64角以下の9手詰さえ気づき難い。煙詰とは言え、縦追い横追いは別々にストックしておいた手順で、それらを巧みにドッキングさせたと見る。氏の煙詰は大規模趣向手順を中心に構成されているのが特徴である。

なお、マキシ煙詰第一号の栄誉は9-10と同時発表の、服部敦氏の「佐保姫」と分かち合った。

参考図 服部敦、マキシ詰「佐保姫」、119手詰。（詰パラ、1980-5）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王	馬		ス	ス	ス	ス	王		一
王	ス	杏	と						二
王	ス	杏	と	と	と	と	圭	圭	三
王	ス	杏					歩		四
ス	ス	杏							五
王	ス	馬	料						六
王									七
	銀	銀	馬						八
と	飛	と	銀						九

持駒 なし

詰手順：97銀、同と、86飛打、同角、同飛、同と、87角、同角、同銀、同玉、78角、同桂成、同銀、96玉、88桂、同と、87銀、同玉、88と右、96玉、97歩以下119手。

第10章

安南詰

最悪詰

まず安南詰から。

《安南詰のルール》

味方同士の駒が縦に繋がった時、上の駒が下の駒の性能に変化する。二歩と打歩詰はその時の歩の性能と無関係で禁止。

安南詰はフェアリー詰将棋の中では歴史が長く1950年代から作られ（もっと古いものがあるかもしれない）、現在でも愛好者が絶えない。

必然的に作例も多く、複合ルールを含めて現在まで千作以上が発表されている。大まかに言って安南ルール特有の珍手筋を生かした短編作に人気が集中する傾向で、中編構想作やリピート趣向の長編の作例は少なく開発が進んでいるとは言えない。しかし中には加藤徹氏の寿限無に安南ルールをかけあわせて手数3万手以上に伸ばした吉田直嗣氏の注目すべき作があるなど油断ができない。

他のフェアリールールには見られない際立った特徴に次の2つがある。

1. 協力詰や協力白玉詰でないものつまり対抗形（かしこ詰）の率が高いことで、発表作のざっと半分は対抗形である。
2. 安南詰のみを発表する専業作家（？）がいることも他のルールではあまり見ることが出来ない。その代表として主に鋭い妙手型の短編を得意とした小西寛氏をあげておく。

佐藤達也氏がまとめた「小西寛安南詰全集」はフェアリー詰将棋ファンには大事な作品集と言える。

なお佐藤氏は出口信男研究家としても重要な方で、この「出口信男の世界」作成にあたっては氏がまとめられた資料に大変お世話になっている。感謝しています。

10-1番 安南ばか詰 5手詰。

Y-15 (詰パラ、1978-11)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
					角	王	飛	銀	七
									八
						王			九

持駒 金銀

詰手順：26銀、同銀生、36金、同飛生、28王迄5手。

安南詰のセオリーは、玉を桂香歩などの弱い駒の上に乗せることである。その逆手をとって、大駒である飛車の上に乗せて王将自身で詰めるというアイデアが秀逸。その意外性を際立たせるために初形配置が工夫されている。

10-2番 安南ばか詰 11手詰。

Y-31 (詰パラ、1979-10)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
					王				三
				歩					四
				王					五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

詰手順：55王、42玉、43歩生、32玉、44王、
31玉、32歩生、21玉、33王、11玉、
22歩成迄11手。

飛角香が先手方がないため合駒を入手できない。そのため初形の王将と歩だけで詰めることになるわけだが、それには盤の端を利用するしかない。ところが先手王の初期配置が45にあり、このままではとても詰むとは思えない。ではどうするか、という問題。

安南では味方の駒の効きを変化させることが出来るので、開き王手以外でも先手の王が移動できる特性があった。王移動と歩不成のコンビで45王が55～44～33と趣向的に繰り返す手順が面白く、見事に雪隠に追い詰めることができる。

10-3番 安南詰 53手詰。

Y-81 (カピタン、1981-6)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		科	科	科	科		王			一
	歩	と	と	と	と	と		と		二
		歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
			歩				ス	逃	逃	四
									ス	五
										六
						角		飛		七
										八
										九

持駒 なし

詰手順：A41と、同玉、51と、イ同玉、
61と、同玉、71と、同玉、81と、同玉、
91歩成、ロ71玉、B72桂、61玉、
62桂、51玉、52桂、41玉、42桂、31玉、
21と、同玉、24飛、同と引、31飛、同玉、
14角、ハ同と、41桂成、二同玉、
51桂成、同玉、61桂成、同玉、
71桂成、ホ51玉、61圭、へ同玉、
84角、51玉、72歩成、41玉、

51角成、同玉、62歩成、41玉、
52歩成、31玉、42歩成、21玉、
32歩成、11玉、22歩成迄53手。

変化：イで31玉は32桂迄。桂は現在歩の性能だが、打歩詰ではない。以下も桂取りに対して逃げると桂の連打で詰むようになっている。

ロで同玉は74角、92玉、82歩成、93玉、
83角成迄。

ハで21玉は22歩成迄。

ニで21玉は31圭、同玉（11玉は12角迄）、
54角、21玉、42歩成、11玉、
21角成、同玉、32歩成、11玉、22歩成迄。
以下も51と71への桂成捨てに対して逃げると同様手順で詰む。

ホで同玉は54角、61玉、62歩成迄。

へで41玉は64角以下早い。

紛れ：Aで21と、同玉、24飛、同と引、
31飛、同玉、14角、同と、41と、同玉、
51と、31玉、54角、53桂、42歩成、同玉、
32歩成、51玉、61と、52玉、
62歩成、同桂、同と、53玉で逃れ。
Bで84桂は82玉、64桂は62玉で逃れ。

安南詰では50手を越えるリピート趣向は協力系を含めても10数作しかない。本作は古典詰将棋で見かける四桂追い戻し詰。ところが看寿もびっくりの横型というのが面白い。

構成は四桂入手～四桂配置～四桂成捨の一往復半。3段目の歩の並びがと金を皆歩の働きにしてしまう強力？な仕掛けで不自由極まりない。作図的には15とがうまい配置で、無いと早めに44角が生じて詰んでしまう。

10-4番 安南詰 69手詰。

Y-324 (将、1996-1)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							将	王	一
							歩		二
									三
								王	四
									五
					将				六
				歩		王			七
				香			香		八
						王			九

持駒 飛歩6

詰手順：15歩、イ同玉、16歩、同玉、17歩、同玉、18歩、同玉、29飛、17玉、18歩、16玉、19飛、17歩、同歩、15玉、18飛、16歩、同歩、14玉、17飛、15歩、同歩、13玉、16飛、14歩、同歩、口同飛、同飛、同玉、15歩、同玉、16歩、同玉、17歩、同玉、18歩、同玉、29飛、17玉、18歩、16玉、19飛、17歩、同歩、15玉、18飛、16歩、同歩、14玉、17飛、15歩、同歩、13玉、16飛、14歩、同歩、同金、同飛、同玉、15歩、同玉、16歩、同玉、17歩、同玉、18歩、同玉、29金迄69手。

変化：イで13玉は12飛迄。

口で同金は同飛、同玉、15歩、同玉、16歩、同玉、17歩、同玉、18歩、同玉、29金迄。

序盤の歩打に取らずに下がる手は、歩の下から飛車を打って趣向手順に短絡する。飛車の働きをしている歩を捨合をすることによって歩の働きに戻すという奇妙な捨合を鍵としてリピート趣向が成立している。

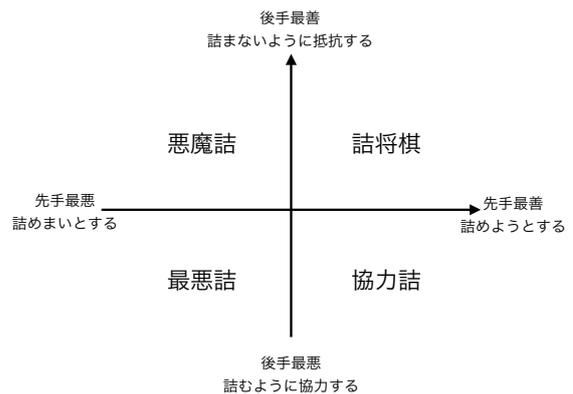
これを2回繰り返すのが作者の力。後手方は58金を先手に渡したくないため、一回目の14歩に対して同飛と取る。しかし二回目には仕方なく金を渡す羽目になり右下で詰む。

ここからは最悪詰である。

《最悪詰のルール》

先手は後手玉を詰めないことを目的とする。詰みが不可避の場合は最も手数が長くなる手を選ぶ。それに対して後手は詰むように応手する。互いに通常の詰将棋と真逆の最悪な着手をするため最悪詰と名付けられた。先手には王手の義務があり、後手は王手を放置してはいけない。

初めてだとちょっと分かりにくいルールだ。後手玉を詰めるという目的に対する方針の違い（最善と最悪）を先手と後手の双方に適用すると、次の2×2のマトリックスができる。



(先手、後手) について (最善、最善)、(最善、最悪)、(最悪、最善)、(最悪、最悪) の4つの区分けが出来る。通常の呼び方に倣えば順に、普通詰将棋、協力詰 (ばか詰)、悪魔詰、最悪詰である。

と頭では分かっても、先手が後手玉を詰めようとしな、というのが中々頭に入っていない。こんな時は簡単なものでいいから自分で作図してみるのがルール理解の王道である。

落語で「素人は詰まないように攻め、受方は詰む方に逃げる。」というのがある。将棋の下手な社長さんの最悪な指し手を、部下が絶妙な応手を連発して結局詰まされて、「社長

お強い！」と接待しているというのが、最悪詰のイメージとしてよいのかもしれない。

また最悪詰の説明として次のようなものも提案されている。先手後手とも普通の詰将棋と同様の方針で先手は後手玉を詰めようとし、後手はそれに抵抗する。ただし先手が動かせるのは後手の駒のみとし、後手は先手の駒のみ動かせるとする。

これも面白い考え方。とにかくまずは実例からどうぞ。

例題 最悪詰 7手詰。

Y-116 (カピタン、1982-12)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
							銀		六
								ス	七
							歩	王	八
							ス		九

持駒 金4

詰手順：19金、同と、29金、同歩成、28金、同と上、17金迄7手。

このルールでは先手が詰めようとしなないのだからとても詰まないように思う。

しかし王手義務が大きな制約になる。本例題は解くのは易しいが、先手に詰めさせるために駒の配置が計算され尽くされているのが分かる。

一般的に最悪詰では先手の指し手に選択の余地があると、破綻しやすい。

なお変化と紛れの概念が通常の詰将棋と逆転するため、先手の指し手のバリエーション

を変化、後手の指し手のバリエーションを紛れと表記する。

スタートはルールに慣れていただくために短手数 of 合駒連作から紹介します。

10-5番 最悪詰 5手詰。

Y-404 (詰パラ、2000-8)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										一
										二
										三
										四
										五
						馬				六
						馬				七
							王	歩		八
									王	九

持駒 なし

詰手順：37馬、28金、同馬、同角生、29金迄5手。

金合。初手46馬と角を取ると、28合に対して王手を続けるには同馬しかなく3手で詰んでしまう。従って先手としては失敗。2手目飛合は最後18に逃げる余地が出来る。他合は王手が不可能なのでダメ。

10-6番 最悪詰 5手詰。

Y-409 (詰パラ、2000-11)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
							角		五
									六
						王			七
				銀				王	八
									九

持駒 なし

詰手順：36角、27桂、同角、17玉、29桂迄5手。

桂合。頭に利く駒は5手目18から打つ手があり同飛でダメ。角合は28角があつてダメ。

10-7番 最悪詰 5手詰。

Y-410 (詰パラ、2000-11)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
							角	香	六
									七
						王			八
								王	九

持駒 なし

詰手順：37角、28香、同角、18玉、19香迄5手。

香合。飛角金銀は16銀の利きに打つてダメ。桂は打つ場所がなく、歩は打歩詰。

10-8番 最悪詰 5手詰。

Y-411 (詰パラ、2000-11)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
							角		六
								王	七
							銀		八
								王	九

持駒 なし

詰手順：37角、28銀、同角、29玉、18銀迄5手。

銀合。飛金合は39から打たれてダメ。角は品切れ、桂香歩は王手が出来ない。

10-9番 最悪詰 5手詰。

Y-412 (詰パラ、2000-11)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
							角		六
							香		七
						王			八
								王	九

持駒 なし

詰手順：37角、28角、同角、18玉、29角迄5手。

角合。飛金銀香歩は19から打たれてダメ。桂は王手が出来ない。

10-10番 最悪詰 7手詰。

Y-415 (詰パラ、2001-9)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
								歩	六
						王		王	七
				角					八
									九

持駒 なし

詰手順：39角、28飛、同角、18玉、17飛、29玉、19飛迄7手。

飛合。金合は17金と打たれるとどう応じてもダメ。他合は全然ダメ。5手目に19から打つと5手詰なので、17から打って2手伸ばすのがささやかな抵抗。

10-11番 最悪詰 25手詰。

Y-413 (詰パラ、2000-11)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
							飛		四
									五
							歩		六
							王		七
				角	歩		歩		八
				歩			王		九

持駒 銀4

詰手順：イ18銀、39玉、34飛、35金、同飛、36金、ロ同飛、37金、ハ同飛、38金、

ニ同飛、同飛生、ホ48銀、同飛生、へ38金、同飛生、48銀、同飛生、38金、同飛生、48銀、同飛生、38金、同飛生、29金迄25手。

変化：イ38銀や47角は19玉とされると王手は14飛しかなく18桂成同飛で詰み。ロハ逆王手だから同飛と取る一手。ニ同飛以外の王手は29金だけ。それでは詰んでいるので、同飛が絶対。ホへ他の王手は29金だけ。

四金連合が主題だがその意味を調べよう。

最初の35金のみ逆王手ではないので先手は他の指し手が選択出来る理屈だが、皮肉なことにその時点では金の手駒がないので、王手を続けるためには同飛が絶対である。

2~3回目の金合は逆王手なので、同飛以外の手は選択できない。4回目の38金は38が塞がっているので、他の手は29金しかない。それでは詰んでしまうので29金でなく同飛が手数伸ばしの正しい応手。

続いて持駒の銀を消化する繰り返しに入る。持駒の銀がなくなると仕方なく29金の王手を指さざるをえなくなる。金合を一枚でも省略すると金の枚数が不足し最後29金が打てず逃れる。

以上のようにシンプルな原理で四金連合を実現している。

10-12番 最悪詰 63手詰。

Y-323 (将、1996-1)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
							と	と	二
							と	香	三
								歩	四
								王	五
								桂	六
						桂		王	七
									八
									九

持駒 金2銀4桂2歩5

詰手順：イ26金、14玉、15金上、同玉、14金、同玉、24と、15玉、14と、同玉、15歩、同玉、「26銀、14玉、25銀上、15玉、24銀上、14玉、23銀生、15玉、14銀成、同玉、15歩、同玉」×4、27桂、14玉、26桂迄63手。

変化：

イ27桂は収束手順。これを打ちたくないから、上記繰り返しが成立している。また23とが残っている状態で24銀や26銀を早まると消去手順が短く済む。

以上のように持駒の銀を一枚消去するのに12手かかり、その時に歩が1枚ずつ必要である。これを4回繰り返すのが手順の骨子。その舞台を準備するのに12手かかる。その合計が60手ということになり、手数伸ばしが尽きたところで仕方なく最後の27桂以下の3手詰に追い込まれる。

10-13番 最悪詰 91手詰。

Y-134 (カピタン、1982-12)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	と	と							一
		歩	歩	歩	歩	歩	香	歩	二
王		と	と	と			歩	王	三
	歩					と	と	桂	四
銀	飛		金				桂	桂	五
銀	香				と	と	と		六
銀	香	金	金					桂	七
	銀	香	龍						八
角		馬	金						九

持駒 なし

詰手順：94銀、A同玉、95銀、93玉、94銀、B同玉、95飛、同玉、96銀、C同玉、97銀、95玉、96銀、D同玉、97馬、E同玉、88角、同玉、79龍、同玉、69金、同玉、68金、同玉、67金、同玉
(中間1図、26手経過)

紛れ：Aで92玉は、91と、同玉、82と、同玉、83歩成、91玉、92と、同玉、83飛成、91玉、92龍、同玉、83香成、91玉、92杏、同玉、83香成、91玉、92杏、同玉、93銀成、91玉、92全、同玉で王手がかからず失敗する。

B,C,D,Eで同玉と取らないと、Aの紛れに準じて王手のかからない局面になり失敗する。

攻め方はとにかく駒を捨てていき、王手が途切れるのを狙う。

それに対して受け方は、攻め方の選択権を奪いながら細い攻めを続けさせる。奇妙な攻防と言うべき。

中間1図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		と	と							一
			歩	歩	歩	歩	歩	香	歩	二
			と	と	と			歩	王	三
		歩					と	と	桂	四
				金				桂	桂	五
		香				と	と	と		六
		香		王					桂	七
			香							八
										九

持駒 なし

中間1図より

66金、F同玉、56と、同玉、46と、同玉、36と、同玉、35と、同玉、34と、同玉、33桂成、同玉（中間2図、40手経過）

紛れ：筆者も経験したことだが、ルールに慣れないうちはFで68玉とされるとどうなるか心配になったりする、、、。

最悪詰では変化と紛れが通常と逆になるので、その感覚についていくのが最大の難関かもしれない。

中間2図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		と	と							一
			歩	歩	歩	歩	歩	香	歩	二
			と	と	と		王	歩	王	三
		歩							桂	四
									桂	五
		香								六
		香							桂	七
			香							八
										九

持駒 なし

中間2図より

イ25桂、34玉、33桂成、同玉、43と、同玉、53と、同玉、63と、同玉、73香成、同玉、83歩成、63玉、73と、同玉、83香成（中間3図、57手経過）

変化：イで43とは同玉以下17桂がそのまま残り、4手短くなる。先手はなるべく手数が長くなるように王手を選択するので、25桂が正解となる。

中間3図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		と	と							一
			歩	歩	歩	歩	歩	香	歩	二
		杏	王					歩	王	三
									桂	四
									桂	五
										六
		香								七
										八
										九

持駒 なし

中間3図より

G63玉、73杏、同玉、83香成、同玉、82と、同玉、81と、同玉、71歩成、同玉、61歩成、同玉、51歩成、同玉、41歩成、同玉、31歩成、同玉、21香成、同玉（中間4図、78手経過）

紛れ：Gでうっかり74玉と逃げると84杏と変化されて、王手のかからない局面に誘導され失敗する。

中間4図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王		一
								歩	二
							歩	王	三
								桂	四
								桂	五
									六
									七
									八
									九

持駒なし

中間4図より

ロ22歩生、31玉、ハ21歩成、同玉、11歩成、同玉、23桂生、21玉、ニ31桂成、11玉、21圭、同玉、22桂成迄91手。

変化：ロで22歩成と22桂成は1手詰。11歩成は同玉とされ、次の王手は22歩成か22桂成しかなくいずれであっても即詰になってしまう。

ハで23桂生は32玉、31桂成、同玉、21歩成、同玉、11歩成、同玉、22桂成迄2手早い。

ニで11桂成は同玉 22桂成迄2手早い。

詰上がり

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王		一
							圭		二
								王	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒なし

発表時、実際に解いた解答者の感想と服部敦氏の解説が素晴らしいので、ほぼそのまま再録させていただく。

橋本／最悪詰の感覚に慣れるには時間がかかりそう。

担当者（服部敦）／最悪詰では攻め方は王手のかからない曲面を作るために駒をどんどんムダ遣いする。逆に玉方は王手が途切れないよう注意しながら逃げ回る。そして、最終的には「即詰にする手以外の王手がかげられない」状態に攻め方を追い込んでしまおうとする。このような応酬の結果、どうしても即詰が避けられぬ場合は攻め方は少しでも手数を伸ばそうとし、逆に玉方は少しでも早く詰めてもらおうとする。最悪詰を理解するためにはこの因果関係を理解することが大切なことであり、同時になかなか困難なことでもある。特に作る側にとっては。

担当者／この作品、解くのは至極簡単だ。攻め方の捨駒全部にすべて「同玉」と応じて王手が途切れぬ為、「煙詰」が狙いであることが早い段階で判明するからだ。注意しなければならない部分は、17桂を使って4手手数をかせぐ所と収束だけだ。40枚の駒を3枚に減らすのにももの5分とかからなかっただろうと予想がつく。だが、この作は決して凡作ではない。

山田／最悪詰は馴染みの薄いルールだが、煙詰が予想できるので比較的すらすら進められた。考えるところは攻め方着手の選択余地のできる収束部分だけだが、解くのと作るのは大違い。完全作をものすのは難しいだろうということは、おぼろげながらも分かる。相変わらずすごい作者である。

担当者／技術的にも相当な困難があったと思う。生半可な配置では9筋からいきなり上辺に入る早詰順が防げないからだ。だが、本

作の値打ちを言い表すには次の一言で十分であろう。着想こそ最も尊いものだ。

飯島／ルールそのものが無防備煙の為にあるかのような印象を与える。出口氏の創作力はスゴイのひとつ。

担当者／たしかにこの作を見れば、「最悪ルール」が煙にピッタリのものであることがよく分かる。だが、この作が出現するまではそんな事誰も思ってもみなかったのだ。

まさに至言。最悪詰ルールと煙詰を結びつけるアイデアとそれを実現させる技術と努力。そのすべてが素晴らしい。

さて中間4図からの13手詰が本作の出発点かと思う。作者はここから全駒煙にまで成長(逆算)させたのだろう。

玉の軌跡は左上辺から始まって、下辺から中段をぐるっと回って左上辺に帰ってくる。その後右上隅で細かい収束となる。

出口信男の代表作のひとつ。

付録 1

天竺詰

双方ミニばか詰

せめかわり詰

付録1

付録1はonlineミーティングで取り上げたが原稿化していなかったものと、レクチャー後作品発表されたせめかわり詰を収録します。

《天竺詰のルール》

王将は王手を掛けられると本来の動きを失い、王手を掛けている駒の動きになる。王手を掛けている駒が複数ある場合は、それらの駒すべての動きを併せ持つ。先手の王将も同じ条件に従う。他は通常の詰将棋のルールと同じ。鏡詰という名称もある。

11-1番 天竺詰 15手詰。

Y-25 (詰パラ279号、1979-5)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	銀	王	銀						一
飛	歩								二
		王							三
角									四
桂		王	銀						五
香									六
	銀	銀	王						七
									八
									九

持駒なし

詰手順：64銀、同飛生、72銀右成、63玉、93飛生、同玉、83桂成、同桂、同角生、96角生、92銀成、83玉、73全、同玉、65桂迄15手。

変化：イで同飛成は73玉に王手がかかるので禁手。

ロで73合駒は同飛生で詰み。83合駒は同飛生で同桂とは取れない(75王=桂となり、逆王手がかかる)ので無効。

ハで同角成は85桂で同馬と取れない(75王=馬となり、逆王手がかかる)ので、このままで詰み。

ニで94玉は86桂迄。

紛れ：Aでいきなり93飛はその瞬間に73玉=飛となり、逆王手がかかるので禁手。また64銀を省略して本手順を進めると、最終手65桂が打てない。ここで64銀としても同飛とは取ってくれず、62玉とされて逃れる。

Bでやはり93飛は禁手。72角成は、51玉と引かれて逃れ。

Cで93飛成は54玉などとされ逃れ。斜めに逃さないために不成限定。

Dで同角成は93玉=馬となり、逆王手がかかるので禁手。

Eで85桂は96角生の効果で、同角生と取れるので逃れ。

15手詰の短編でなんと、双方飛角不成という一作。意味付けは、

- ・後手飛不成：成ると逆王手が掛かる。
- ・先手飛不成：成ると斜めに逃げられる。
- ・先手角不成：成ると逆王手が掛かる。
- ・後手角不成：成ると1手で詰む。

思いつくものを色々やってみよう、と言う意欲あふれる創作初期の印象が強い。

双方ミニ詰のルールは後手のみの制約であった最短距離手順義務を先手にも適用したルール。

《双方ミニ詰のルール》

- 1.先手後手とも可能な指し手の中で最も距離の短い手を指さなければならない。最短距離の指し手が複数ある場合は、その中のどれを選ぶかは自由。
- 2.他は普通の詰将棋と同じ。

指し手の距離は次のように定める。

将棋盤の一つ一つのマス目を一辺の長さが1の正方形とする。指し手の駒の移動元のマス目の中心から、移動先のマス目の中心までの距離を物差しで測る。それを指し手の距離と定める。斜めの距離はピタゴラスの定理で計算する。

安南や対面などフェアリー詰将棋の多くのルールは先手後手に関わらず適用されるようになっているが、なぜかマキシ詰とミニ詰は後手のみの制約になっている。ヘンといえはヘンなんです、なぜかそうになっています。

11-2番 双方ミニばか詰 49手詰。

Y-322 (カピタン30号、1982-12)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
		金				金			八
				玉					九

持駒 金

通常ミニやマキシは後手のみの制約ですが、本題は先手方もミニの手を選ばなければならぬのです。

詰手順：58金、49玉、48金右、39玉、38金、29玉、28金、39玉、29金、49玉、48金、A59玉、58金、同玉、68金、48玉、39金、47玉、38金、46玉、37金、56玉、67金、55玉、66金、45玉、36金、44玉、35金、54玉、65金、53玉、64金、43玉、34金、42玉、33金、52玉、63金、51玉、62金、41玉、52金、31玉、42金寄、21玉、32金寄、11玉、22金寄迄49手。

3枚の金の内1枚を8段目で捨てて2枚の金で趣向的に追い落とす手順は見やすい。ただ2枚の金で収束するためには33金（または73金）を据えなければいけないのだが、2段ずつ上がるため、逆算すると37金（または77金）の形が必要と分かる。

しかし双方ミニの条件は意外にキビシク、なかなかその形が作れない。解決の鍵は序盤にある。

48金に対してうっかり同玉と取ると、39金47玉 38金 57玉 68金 56玉のように進めざるを得ず、以下38金～36金～34金のように進み33金形が作れず、収束に入れぬ。48金には一旦59玉と我慢して58金、同玉とするのが正解。ほんのちょっとした手順の緩なのだが、よく出来ている。形が美しく趣向手順のリズム感にちょっとした謎解きが入って、これ以上何を望むのだろう。

作者としては、四金図式を作ろうとした作りそこないで、あまり自信のない作だったらしい。花沢さんが面白いと言ってくださったので、投稿したとの言葉をいただいています。結果的に「将」が休刊になってしまい、解答発表がなかったためあまり知る人がいない作になってしまった。私はとても好きな作です。

オマケの話

参考 出口信男 攻方ミニばか詰 13手詰。

Y-224 (将43号,1991-1)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
						金			三
		金							四
				玉					五
						金			六
									七
			金						八
									九

持駒 なし

詰手順：67金、55玉、54金、45玉、
44金、35玉、34金、45玉、36金、54玉、
44金、55玉、45金引迄13手。

私が詰パラFLの担当を引き受けた時に初選
題の一つとして自作の四銀図式（次図）を出
題しました。

安永玲 協力詰、9手詰

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
					銀				四
		銀							五
				玉					六
						銀			七
			銀						八
									九

持駒 なし

その結果稿で、「銀を金に替えた四金図式
13手詰を考えたが、乱れが多くボツにし
た. . . 」と書いた。

出口氏が過去発表したように、同配置の四
銀図式と四金図式が揃えば、「映える」と考
えて事前に調べたところまでは良かったが、
13手の詰が複数解見つかったため、完全作で
はないとして発表を諦めたという趣旨だっ
た。ところが、出口信男氏はこの記述を見逃
さなかったのだ。以下は私の想像。

氏はその図を調べ直して、最短11手の詰が
あり筆者が勘違いをしていることを発見し
た。最終手こそ2通りあるがどうやら完全作ら
しい。ところが、これを自作として発表する
わけには行かないと考えた。そのためルール
変更という大技で別ルール作として将に発表
した。

私自身は当時詰将棋から足を洗って冬眠中
だった。約30年後復帰して、気になっていた

四金図式を調べ直したところようやく自分の
勘違いに気づいた。本作が11手詰の準完全作
（ただし最終手二通り）であることを発見し
た。まったく間の抜けた話です。

その後既にどなたかが発表しているかもし
れないと、調べたところ出口氏のルール違い
の本図（攻方ミニばか詰13手詰）を知った次
第。

以上は私自身が当事者となり少し気が引け
ますが、出口信男さんの人となりを示すエピ
ソードとしてここに紹介する。

さて、プロパラ会がスタートして以降出口
氏の新作が発表された。元の連載には間に合
わなかったものをここで取り上げる。

《せめかわり詰》

せめかわり将棋：駒を取った時、取りに
行った自駒Xは捕獲した敵駒Yと同種の駒に変
身する。Yの方は変身しない。

第7章の「入れかわり詰」に書いた通り、本
ルールの初出はカピタン44号（1990-5）。

だが、その時せめかわり詰についてはルー
ルのみの記述だった。作品が30年以上たって
登場したのはめでたいこと。

ルールの補足として

- * ロイヤル駒という役割は駒取りでは変化し
ない。
- * 同じ筋に同じ向きの歩が複数生じるような
指手は、二歩で禁手とする。
- * 行きどころのない駒が生じるような指手は
禁手。

駒交換のときに取った方の駒が性能変換す
るわけで、駒の枚数つまり駒の総数は変わら
ない。

例題1 せめかわり詰 25手詰。
Y-443 (ProPara99号、2022-7)

持駒 香歩35

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									香
									皇

持駒 香

*12香がロイヤル駒で詰める対象。

詰手順：

A19香、イ13香、同香生、同香、
19香、14香、同香、同香、19香、15香、
同香、同香、19香、16香、同香、同香、
19香、17香、同香、同香、19香、18香、
同香、同香、19香迄25手。

紛れ：Aで18香などと打つと同香とされて
指す手がなくなる。

詰上がり

持駒：香歩35

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									香
									皇
									香

持駒 なし

図で19同香ととるしかないが、行き所のない駒になって禁手だからこれで詰み。

手順中攻め方は香で王手をするしかないが、常に同香と取れない19から打つ必要がある限定打。

※せめかわり詰の図では後手の持駒表示が必須である。例題1の図面は香と歩のみしか存在しないので奇異な感じを受けるが、駒の総数を数えると39枚で12香がロイヤル駒。ということは、単玉の各駒が取ったり取られたりを繰り返すうちに香と歩ばかりになったと考えることができる。

例題2 せめかわり詰 15手詰。

Y-444 (ProPara99号、2022-7)

持駒：桂歩31

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									皇

持駒 香5歩

*12香がロイヤル駒で詰める対象。

受け方の駒台に桂があることに注意。前題と同じように19香と打つと13桂合とされて同香と取っても王手にならない。生駒の桂を取ったら生駒の桂に変わるルール。

詰手順：

A13香、同香、14香、同香、15香、同香、
16香、同香、B17歩、同香→歩、
19香、イ18香、同香、同歩→香、19香迄
15手。

変化：イで18歩合は二歩。桂合は行き所のない駒で禁手。

紛れ：Aで離して打つと桂合されて困る。

B以前に歩を打ってしまうと、17に打つ駒は香のはずとなり、17にいるロイヤル駒は香のはず。従って19香に対して、18歩合が可能になり打歩詰が避けられない。

例題1と異なり、今度は直打しなければならない。そしてたった一枚の歩をどこで使うのか。よくできています。例題にはもったいない。素晴らしい。

11-3番 せめかわり詰、75手詰。

Y-445 (ProPara99号、2022-7)

持駒：歩7

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬		馬		馬		馬		王	一
		卒		卒		卒			二
									三
歩								歩	四
									五
				馬					六
									七
									八
									九

持駒 飛18歩4

*11玉と14歩がロイヤル駒。本題は駒の総数が40枚の双玉詰将棋になっています

詰手順：21飛、同玉→飛、22歩、同角→歩、31飛、同飛、41飛、同飛、42歩、同角→歩、51飛、同飛、61飛、同飛、62歩、同角→歩、71飛、同飛、81飛、同飛、82歩、同角→歩、91飛、同飛 (中間1図、24手経過)

変化：歩のたたきに同玉→歩は、尻から飛を打てば詰み。逃げても持駒に飛がたくさんあるので簡単。

仕方なく部下である角が犠牲になって同角と取るが歩に変身してしまう。

その後飛を離して打つと歩合されて困るので常に直打する。奇妙な繰り返し手順で91まで連れて来た。

中間1図

持駒：飛8歩11

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
飛									一
	歩	卒	歩	卒	歩	卒	歩		二
									三
歩								歩	四
									五
				馬					六
									七
									八
									九

持駒 飛10

*91飛と14歩がロイヤル駒。

中間1図より

A92飛、イ同角→飛、71飛、81飛合、同飛、同飛、71飛、同飛、51飛、61飛合、同飛、同飛、51飛、同飛、31飛、41飛合、同飛、同飛、31飛、同飛、11飛、21飛合、同飛、同飛、11飛、同飛、(中間2図、50手経過)

変化：イで11飛とされると逆王手になるが、13飛、12合、31飛以下81まで送って91飛迄。

イで同飛は93飛迄

紛れ：Aで93飛と離して打つと92歩合とされる。同飛→歩は二歩の禁手だから、同飛とは取れない。そのため71飛以下作意順で追うしかないが、56角が生き残っているので、右上でうまく行かない。

中間2図

持駒：飛13歩11

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									飛	一
飛	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		二
										三
歩									歩	四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 飛5

*11飛と14歩がロイヤル駒。

中間2図より

12飛、91飛、71飛、81飛合、同飛、同飛、71飛、同飛、51飛、61飛合、同飛、同飛、51飛、同飛、31飛、41飛合、同飛、同飛、31飛、同飛、11飛、21飛合、同飛、同飛、11飛打迄75手。

詰上がり

持駒：飛16歩11

	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
									飛	飛	一
飛	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	飛	二
											三
歩										歩	四
											五
											六
											七
											八
											九

持駒 なし

*21飛と14歩がロイヤル駒。

横送りのときに直打ばかりだと飛の枚数が足りなくなる。玉方の持駒が飛と歩だけなのを見越して、歩合できない場所では飛合が絶対となることを利用して飛合を強要し、飛の枚数を節約出来るのだった。

また、中間1図で92飛と直打して56角を移動しておくのも大事。いずれにしても横二往復の繰り返しを楽しい一題。

11-4番 せめかわり詰、83手詰。(修正図)

Y-446 (ProPara99号、2022-7)

持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	と	と	と	と	と	と	と	と	と	一
								王		二
	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	歩		三
	と			と			と	駒		四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 金歩17

*23玉がロイヤル駒。本題は駒の総数が39枚の単玉詰将棋になっている。

詰手順：22金、33玉、32と引、43玉、42と引、53玉、52と引、63玉、62と引、73玉、72と引、83玉、82と引、93玉、(中間1図、14手経過)

と金が18枚、歩が18枚という前代未聞の初期設定だが、いわゆる非標準駒数の詰将棋というわけではない。

きちんと駒の総数が39枚になっていることから、駒を取ったり取られたりを繰り返してこの局面になったと言うストーリーがあることを、作者ははっきり意識しているはず。

中間1図

持駒：なし

									と	と	一
		と	と	と	と	と	と	と	金		二
王											三
	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	歩		四
		と						と	駒		五
											六
											七
											八
											九

持駒 歩17

中間1図より

94歩、同と→歩、92と、イ同玉→と、
93歩（中間2図、19手経過）
変化：イで83玉はすぐに84歩が打てる。

中間2図、93歩と王手した局面

持駒：歩2

									と	と	一
ス		と	と	と	と	と	と	金			二
歩											三
歩		ス	ス	ス	ス	ス	ス	歩			四
	と			と				と	駒		五
											六
											七
											八
											九

持駒 歩15

*92とがロイヤル駒。

既に受け方94歩があるので、上図で同とは二歩になり取れない王手。ここが本題の肝。

かと言って、91とと下がっても92歩生の追撃があり、詰んでしまうので83とのかわしは

必然となる。2枚の歩を打ちと金を1枚捨てる、一サイクル6手で右辺に送って行く。

中間2図より

83と、84歩、同と寄→歩、82と、同と、
83歩、73と、74歩、同と寄→歩、
72と、同と、73歩、63と、
64歩、同と寄→歩、62と、同と、
63歩、53と、54歩、同と寄→歩、
52と、同と、53歩、43と、
44歩、同と寄→歩、42と、同と、
43歩、33と、34歩、同と寄→歩、
32金、同と→金、33歩、23金、
(中間3図、56手経過)

中間3図

持駒：歩14

										と	と	一
												二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩			三
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩			四
	と			と					と	駒		五
												六
												七
												八
												九

持駒 歩3

*23金がロイヤル駒。

中間3図より

24歩、同銀→歩、22と、同金→と、
23歩、13と、12と、同と、13歩
(中間4図、65手経過)

ついに完成した歩の万里長城。

中間4図

持駒：歩17

										一
									ス	二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	四
	と			と				と		五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

*12とがロイヤル駒。

中間4図より

11と、12歩生、21と、22歩生、31と、
32歩生、41と、42歩生、51と、
52歩生、61と、62歩生、71と、
72歩生、81と、82歩生、91と、
92歩生迄83手。

詰上がり

持駒：歩17

ス										一
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	二
										三
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	四
	と			と				と		五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

最後どちらの歩を取っても二歩が防げないので、これで詰み。

太刀岡／二歩禁で取れなくなるのが楽しい。

各筋に玉方の生歩を生じさせてその筋の歩打を同玉と取れなくする作戦。そのため各筋に2枚ずつ歩を打つ必要がある。一往復して双方の生歩の隊列が出来、そのため最後の片道の連続歩生が成立する。この一往復半の横追い趣向は文句なしに面白い。

重量感のある手順というより、軽快な繰り返し趣向。これぞ出口信男の世界、と言いたい。

本作発表図は2手長い85手詰だったが、不詰が発生したため頭2手をカットして修正された。

このルールは飛車が10枚とかの設定が簡単に(?)できるが、いざ解くときには盤駒を持ち出しても特定の駒が足らなくなる。

かと言って頭の中で解くには駒数のカウントが混乱してくるのが難点。PCの利用が必須かと思われるのだが、そのような便利なアプリケーションは無い、、、。

付録2

作品リスト

出口信男作品リスト

番号	修正	世界		作者名	掲載誌	掲載号	ルール	手数	完不完	Cindex	Sindex	Pindex	備考
1				出口信男	カピタン	1977-11	天竺ばか話	3	完全				
2				左真樹	詰バラ	1978-09	天竺詰	81	完全				
3		4	3	左真樹	詰バラ	1978-09	天竺詰	11	完全				
4		4	4	左真樹	詰バラ	1978-09	天竺詰	59	完全				
5		4	5	左真樹	詰バラ	1978-09	天竺詰	45	完全				
6		4	6	左真樹	詰バラ	1978-09	天竺詰	99	完全				煙詰 (双玉)
7				左真樹	詰バラ	1978-10	ばか話	11	余詰				
8				左真樹	詰バラ	1978-11	天竺詰	41	完全				
9				左真樹	詰バラ	1978-11	安南ばか話	5	完全				
10				左真樹	詰バラ	1978-11	安南ばか話	3	完全				
11		9	5	左真樹	詰バラ	1978-11	マキシ詰	23	完全				
12				左真樹	詰バラ	1978-11	ばか自殺詰	10	余詰				
13				左真樹	詰バラ	1978-11	天竺詰	11	完全				
14				左真樹	詰バラ	1978-11	マキシ詰	51	余詰				
15		10	1	左真樹	詰バラ	1978-11	安南ばか話	5	完全				
16		8	1	左真樹	詰バラ	1978-12	ばか話	11	完全				
17				左真樹	詰バラ	1979-01	ばか話	7	完全				
18				左真樹	詰バラ	1979-01	ばか話	11	余詰				
19				左真樹	詰バラ	1979-02	天竺詰	17	完全				
20				左真樹	詰バラ	1979-02	ばか自殺詰	36	早詰				
21				左真樹	詰バラ	1979-02	天竺詰	21	完全				
22				左真樹	詰バラ	1979-03	ばか話	9	完全				
23				左真樹	詰バラ	1979-04	ばか自殺詰	94	早詰				煙詰
24				左真樹	詰バラ	1979-05	天竺詰	27	完全				
25		11	1	左真樹	詰バラ	1979-05	天竺詰	15	完全				
26				左真樹	詰バラ	1979-05	天竺詰	71	早詰				
27		8	2	左真樹	詰バラ	1979-06	ばか話	11	完全				
28				左真樹	詰バラ	1979-08	ばか話	17	完全				
29		8	4	左真樹	詰バラ	1979-08	ばか話	81	完全				
30				左真樹	詰バラ	1979-09	ばか話	11	完全				
31		10	2	左真樹	詰バラ	1979-10	安南ばか話	11	完全				
32				左真樹	詰バラ	1979-11	ばか自殺詰	8	完全				
33				左真樹	詰バラ	1979-11	ばか自殺詰	10	完全				
34				左真樹	詰バラ	1980-02	天竺詰	55	完全				
35		8	3	左真樹	詰バラ	1980-03	ばか話	17	完全				
36				左真樹	詰バラ	1980-04	ばか自殺詰	8	完全				
37				左真樹	詰バラ	1980-04	ばか自殺詰	8	完全				
38				左真樹	詰バラ	1980-04	ばか自殺詰	10	余詰				
39				左真樹	詰バラ	1980-04	ばか自殺詰	8	余詰				
40				出口信男	カピタン	1980-04	ばか自殺詰	8	完全				
41		9	4	左真樹	詰バラ	1980-05	マキシ詰	9	完全				
42		9	7	左真樹	詰バラ	1980-05	マキシ詰	13	完全				
43				左真樹	詰バラ	1980-05	マキシばか話	51	完全				
44		9	11	左真樹	詰バラ	1980-05	マキシ詰	137	完全				煙詰
45				左真樹	詰バラ	1980-06	安南ばか話	5	余詰				
46				左真樹	詰バラ	1980-06	安南ばか話	5	余詰				
47				左真樹	詰バラ	1980-06	ばか自殺詰	6	完全				
48				出口信男	カピタン	1980-06	ばか話	65	完全				
49		8	5	出口信男	カピタン	1980-06	ばか話	173	完全				
50				出口信男	カピタン	1980-06	ばか自殺詰	10	余詰				
51				出口信男	カピタン	1980-06	ばか自殺詰	12	完全				
52		6	5	出口信男	カピタン	1980-06	天竺詰	95	完全				煙詰
53		6	6	出口信男	カピタン	1980-06	天竺詰	97	完全				煙詰

番号	修正	世界		作者名	掲載誌	掲載号	ルール	手数	完不完	Cindex	Sindex	Pindex	備考
54		5	1	出口信男	カピタン	1980-06	対面詰	7	完全				
55		5	2	出口信男	カピタン	1980-06	対面詰	13	完全				
56				出口信男	カピタン	1980-06	背面詰	31	完全				
57				出口信男	カピタン	1980-06	詰禽将棋	11	完全				
58				出口信男	カピタン	1980-06	詰禽将棋	25	完全				
59				出口信男	カピタン	1980-06	禽ばか詰	9	完全				
60				出口信男	カピタン	1980-06	禽ばか詰	13	完全				
61				出口信男	カピタン	1980-06	禽ばか詰	19	完全				
62				出口信男	カピタン	1980-06	禽ばか詰	21	完全				
63		8	6	左真樹	詰バラ	1980-08	ばか詰	49	完全				
64				出口信男	カピタン	1980-08	禽ばか詰	15	完全				
65				左真樹	詰バラ	1980-10	天竺詰	101	完全				煙詰 (双玉小駒)
66				左真樹	詰バラ	1980-11	天竺詰	51	非限定				
67				左真樹	詰バラ	1980-11	天竺詰	59	完全				
68				左真樹	詰バラ	1980-11	天竺詰	67	完全				
69				左真樹	詰バラ	1980-11	天竺詰	95	完全				煙詰
70				左真樹	詰バラ	1980-11	天竺詰	103	完全				煙詰
71		9	10	左真樹	詰バラ	1980-12	マキシ詰	35	完全				
72				左真樹	詰バラ	1980-12	天竺詰	103	早詰				煙詰
73				左真樹	詰バラ	1981-02	ばか自殺詰	6	完全				
74				左真樹	詰バラ	1981-04	ばか詰	11	完全				
75				出口信男	カピタン	1981-04	ネコ鮮詰	69	早詰				
76				左真樹	詰バラ	1981-05	マキシ詰	9	完全				
77				左真樹	詰バラ	1981-05	天竺ばか詰	157	完全				
78				左真樹	詰バラ	1981-05	天竺詰	117	完全				煙詰
79				玉野忠捨	詰バラ	1981-06	かしこ詰	43					
80				出口信男	カピタン	1981-06	安南詰	11	余詰				
81		10	3	出口信男	カピタン	1981-06	安南詰	53	完全				
82				出口信男	カピタン	1981-06	対面ばか詰	13	余詰				
83				出口信男	カピタン	1981-06	対面ばか詰	117	完全				
84				出口信男	カピタン	1981-06	天竺詰	87	完全				
85				出口信男	カピタン	1981-06	天竺自殺詰	110	早詰				煙詰
86		9	8	出口信男	カピタン	1981-06	マキシ詰	15	完全				
87				出口信男	カピタン	1981-06	マキシ詰	71	早詰				
88				左真樹	詰バラ	1981-07	天竺詰	11	完全				
89				左真樹	詰バラ	1981-07	天竺詰	13	完全				
90		6	3	左真樹	詰バラ	1981-07	天竺詰	15	完全				
91		6	4	左真樹	詰バラ	1981-07	天竺詰	49	完全				
92				左真樹	詰バラ	1981-08	ばか詰	7	完全				
93				左真樹	詰バラ	1981-09	天竺詰	83	早詰				
94				左真樹	詰バラ	1981-09	天竺詰	9	完全				
95				左真樹	詰バラ	1981-09	天竺詰	97	不詰				
96				出口信男	5五将棋	1981-09	5五詰	27	完全				煙詰
97				出口信男	5五将棋	1981-10	5五詰	29	完全				煙詰
98				出口信男	5五将棋	1981-12	5五詰	23	完全				煙詰
99				出口信男	カピタン	1982-01	対面ばか詰	7	完全				
100				出口信男	カピタン	1982-01	背面ばか詰	5	完全				
101				出口信男	カピタン	1982-01	ばか自殺詰	12	完全				
102				出口信男	カピタン	1982-03	ばか詰	17	完全				
103				出口信男	カピタン	1982-03	ばか詰	19	完全				
104				左真樹	詰バラ	1982-05	ばか詰	7	完全				
105				出口信男	5五将棋	1982-05	5五詰	17	完全				
106				左真樹	詰バラ	1982-07	ばか自殺詰	10	余詰				
107				出口信男	カピタン	1982-08	5五詰	25	完全				煙詰

番号	修正	世界	作者名	掲載誌	掲載号	ルール	手数	完不完	Cindex	Sindex	Pindex	備考
108			出口信男	カピタン	1982-08	5五詰	25	完全				煙詰
109			出口信男	カピタン	1982-08	5五詰	27	完全				煙詰
110			出口信男	カピタン	1982-08	ばか自殺詰	8	完全				
111			出口信男	カピタン	1982-08	ばか自殺詰	10	完全				
112			出口信男	カピタン	1982-08	マキシ詰	111	早詰				
113		2	1	出口信男	カピタン	1982-12	ミニ詰	5	完全			
114				出口信男	カピタン	1982-12	天竺詰	5	完全			
115				出口信男	カピタン	1982-12	天竺詰	21	完全			
116		10	5	出口信男	カピタン	1982-12	最悪詰	7	完全			
117				出口信男	カピタン	1982-12	最悪詰	33	完全			
118				出口信男	カピタン	1982-12	5五詰	23	完全			煙詰
119				出口信男	カピタン	1982-12	5五詰	33	完全			煙詰
120				出口信男	カピタン	1982-12	ばか詰	7	完全			
121				出口信男	カピタン	1982-12	ばか自殺詰	8	完全			
122				出口信男	カピタン	1982-12	ばか自殺詰	8	完全			
123				出口信男	カピタン	1982-12	ばか自殺詰	8	完全			
124				出口信男	カピタン	1982-12	ばか自殺詰	10	余詰			
125				出口信男	カピタン	1982-12	ばか自殺詰	10	余詰			
126				出口信男	カピタン	1982-12	ばか自殺詰	10	余詰			
127				出口信男	カピタン	1982-12	マキシばか詰	143	早詰			
128		2	4	出口信男	カピタン	1982-12	ミニ詰	37	余詰			
129		2	5	出口信男	カピタン	1982-12	ミニ詰	161	完全			煙詰
130				出口信男	カピタン	1982-12	ミニばか詰	159	完全			煙詰
131		6	1	出口信男	カピタン	1982-12	天竺詰	17	完全			
132				出口信男	カピタン	1982-12	天竺詰	63	完全			
133				出口信男	カピタン	1982-12	天竺詰	63	早詰			
134		10	14	出口信男	カピタン	1982-12	最悪詰	91	完全			煙詰
135				出口信男	5五将棋	1982-12	5五詰	25	完全			煙詰
136				出口信男	5五将棋	1982-12	5五詰	35	完全			煙詰
137				奈良部積	月刊 芸夢通信	1983-03	詰京都ミニ将棋	3				
138				奈良部積	月刊 芸夢通信	1983-03	詰京都ミニ将棋	9				
139				奈良部積	月刊 芸夢通信	1983-03	詰京都ミニ将棋	19				
140				奈良部積	月刊 芸夢通信	1983-03	詰京都ミニ将棋	21				
141				左真樹	詰バラ	1984-04	ばか自殺詰	8	完全			
142				左真樹	詰バラ	1984-05	対面ばか詰	87	早詰			
143		8	7	左真樹	詰バラ	1984-08	ばか詰	13	完全			
144				左真樹	詰バラ	1984-08	ばか自殺詰	12	完全			
145				左真樹	詰バラ	1985-01	駒ばか詰	27	早詰			
146				左真樹	詰バラ	1985-04	ばか自殺詰	8	完全			
147				左真樹	詰バラ	1985-04	ばか自殺詰	10	完全			
148				左真樹	詰バラ	1985-04	ばか自殺詰	8	完全			
149				左真樹	詰バラ	1985-04	ばか自殺詰	10	完全			
150				左真樹	詰バラ	1985-06	ばか詰	67	完全			
151		9	2	出口信男	カピタン	1985-11	安北詰	25	完全	3210		
152		3	8	出口信男	カピタン	1985-11	駒ばか詰	61	完全	3216		
153				出口信男	カピタン	1985-11	詰禽将棋	13	完全	3220		
154				出口信男	カピタン	1985-11	詰禽将棋	25	完全	3221		
155				出口信男	カピタン	1986-02	天竺詰	19	完全	3324		
156				出口信男	カピタン	1986-02	詰禽将棋	9	完全	3334		
157				出口信男	カピタン	1986-02	詰禽将棋	13	完全	3335		
158				出口信男	カピタン	1986-02	詰禽将棋	23	完全	3336		
160				出口信男	カピタン	1986-02	天竺詰	113	完全	3349		煙詰
161				左真樹	詰バラ	1986-07	対面ばか詰	49	早詰			
162		9	9	左真樹	詰バラ	1986-09	マキシ詰	61	完全			

番号	修正	世界	作者名	掲載誌	掲載号	ルール	手数	完不完	Cindex	Sindex	Pindex	備考
163			出口信男	カピタン	1986-09	連続誌	3	完全				
164			出口信男	カピタン	1986-09	連続誌	16	完全				
165			出口信男	カピタン	1986-09	連続誌	165	完全				
166			出口信男	カピタン	1986-09	連続誌	21	完全	3416			
167			出口信男	カピタン	1986-09	天竺誌	91	早誌	3425			煙誌
168			出口信男	カピタン	1986-09	天竺誌	101	完全	3426			煙誌
169		5	4 左真樹	誌バラ	1986-10	対面ばか自殺誌	10	完全				
170			出口信男	カピタン	1987-01	ニコニコ	49	完全				
171			出口信男	カピタン	1987-01	トリウラ誌	21	早誌				
172			出口信男	カピタン	1987-01	トリウラ誌	23	完全				
173		1	9 出口信男	カピタン	1987-01	トリウラ誌	37	完全				
174		7	9 出口信男	カピタン	1987-01	攻得誌	115	完全				
175			出口信男	カピタン	1987-01	天竺誌	95	余誌	3516			煙誌
176			出口信男	カピタン	1987-01	天竺誌	97	完全	3517			煙誌
177		5	6 出口信男	カピタン	1987-01	対面ばか誌	121	完全	3518			
178			左真樹	誌バラ	1987-05	対面ばか自殺誌	12	完全				
179			左真樹	誌バラ	1987-05	対面ばか自殺誌	8	余誌				
180			左真樹	誌バラ	1988-01	ばか誌	11	完全				
181			左真樹	誌バラ	1988-01	悪魔逃れ	434	完全				
182			出口信男	カピタン	1988-03	天竺誌	103	完全	3818			煙誌
183		3	9 出口信男	カピタン	1988-03	駒ばか誌	23	完全	3819			
184		3	10 出口信男	カピタン	1988-03	駒ばか誌	121	完全	3820			
185		3	4 出口信男	カピタン	1988-05	駒ばか誌	19	完全	3920			
186		3	5 出口信男	カピタン	1988-05	駒ばか誌	17	完全				
187			出口信男	カピタン	1988-05	駒誌	169	完全	3921			
188			出口信男	カピタン	1990-04	後押し誌	1	完全	42Ex4			
189			出口信男	カピタン	1990-04	後押し誌	33	完全	42Ex5			
190			出口信男	カピタン	1990-04	ビーヨン誌	25	完全	42Ex6			
191			出口信男	カピタン	1990-04	連続最悪誌	46	完全	4304			
192			出口信男	カピタン	1990-04	駒ばか誌	13	完全	4313			
193			出口信男	カピタン	1990-04	駒ばか自殺誌	42	完全	4314			
194		7	1 出口信男	カピタン	1990-05	入替ばか自殺誌	4	余誌	44Ex1a			
195		7	2 出口信男	カピタン	1990-05	入替ばか自殺誌	4	完全	44Ex1b			
196		7	3 出口信男	カピタン	1990-05	入替ばか自殺誌	4	完全	44Ex1c			
197			出口信男	カピタン	1990-05	入替ばか自殺誌	8	完全	44Ex2			
198		7	4 出口信男	カピタン	1990-05	入替ばか誌	5	完全	44Ex3			
199		7	5 出口信男	カピタン	1990-05	入替誌	119	完全	4413			
200			飯田・大恥	将	1990-05	ばか逃れ	4	余誌		例1		
201			大恥早計	将	1990-05	ばか逃れ	10	余誌		478		
202			大恥早計	将	1990-05	連続逃れ	6	完全		479		
203		9	3 出口信男	カピタン	1990-06	安北誌	37	完全	4514			
204			大恥早計	将	1990-06	当て打ち誌	17	完全		509		
205			大恥早計	将	1990-06	ばか逃れ	24	余誌		520		
206		7	6 出口信男	カピタン	1990-07	オール交換駒	15	完全	46Ex3			
207		7	7 出口信男	カピタン	1990-07	オール交換駒	39	完全	4623			煙誌 (金銀図式)
208		7	8 出口信男	カピタン	1990-07	オール交換駒	121	完全	4624			
209			出口信男	カピタン	1990-07	オール交換駒	211	完全	4625			
210			大恥早計	将	1990-08	駒ばか誌	15			557		
211			大恥早計	将	1990-08	駒ばか誌	17			558		
212			大恥早計	将	1990-08	駒ばか誌	29	完全		570		
213		3	6 出口信男	カピタン	1990-09	駒ばか誌	19	完全	4723a			
214			出口信男	カピタン	1990-09	駒ばか誌	29	完全	4723b			
215		3	7 出口信男	カピタン	1990-09	駒ばか誌	35	完全	4723c			
216			大恥早計	将	1990-09	天竺誌	89	完全		590		煙誌 (小駒)

番号	修正	世界	作者名	掲載誌	掲載号	ルール	手数	完不完	Cindex	Sindex	Pindex	備考
217			大恥早計	将	1990-09	駒ばか詰	17			600		
218			大恥早計	将	1990-10	自殺詰	40	完全		618		
219			左マキシ	将	1990-11	マキシばか詰	11	完全		637		
220			右ミニ	将	1990-11	ミニばか詰	15	余詰		638		
221			大恥余計	将	1990-11	駒ばか自殺詰	18	完全		649		
222			スナフ銀	将	1990-12	背面ばか詰	9	余詰		659		
223			大恥早計	将	1991-01	ばか自殺詰	10	完全		672		
224		11	3 安勿例	将	1991-01	攻め方ミニばか詰	13	完全		686		
225			三桂孤僧	将	1991-03	駒ばか詰	11	完全		722		
226		6	2 盤上盤外唯我	将	1991-03	天竺詰	19	完全		737		
227			大恥早計	将	1991-03	天竺詰	81	早詰		738		
228		5	7 大恥早計	将	1991-05	対面詰	95	変長		758		煙詰 (小駒)
229			大恥早計	将	1991-07	駒ばか詰	21	余詰		774		
230			大恥早計	将	1991-07	王手打ち詰	33	不詰		793		
231			左真樹	詰バラ	1991-08	対面ばか詰	5	完全				
232			左真樹	詰バラ	1991-08	安南ばか詰	7	完全				
233			大恥早計	将	1991-08	天竺詰	17	完全		819		
234		9	1 歩隣接2	将	1991-08	安北詰	11	完全		823		
235			安易例	将	1991-08	攻方ミニ詰	91	完全		827		
236			まね棋猫	将	1991-08	ばか詰	9	完全		838		
237			まね棋猫	将	1991-08	ばか詰	7	余詰		839		
238			まね棋猫	将	1991-08	ばか詰	9	余詰		840		
239			まね棋猫	将	1991-08	ばか詰	11	余詰		841		
240			スナ歩金	将	1991-08	背面ばか詰	11	余詰		849		
241			誘い水	将	1991-08	と飛詰		早詰		852		
242			大恥早計	将	1991-08	天竺詰	85	完全		853		煙詰
243			大恥早計	将	1991-10	天竺詰	93	完全		884		煙詰
244			大恥早計	将	1991-10	天竺詰	57	完全		890		
245			大恥早計	将	1991-11	天竺詰	57	早詰		898		
246			左真樹	詰バラ	1991-12	ばか詰	37	完全				
247			Babyクイーン	将	1991-12	ばか詰	11	余詰		914		
248			大恥早計	将	1991-12	天竺詰	41	完全		917		煙詰 (歩なし)
249			841000103	将	1991-12	対面詰	25	完全		933		
250			歩隣接2	将	1991-12	安南詰	31	早詰		935		
251			本名	将	1992-01	普通の詰将棋		完全		937		
252			まね棋猫	将	1992-01	ばか詰	17	完全		950		
253			大恥早計	将	1992-01	背面詰	15	早詰		952		
254			歩隣接2	将	1992-01	突歩詰	17			953		
255			誘い水	将	1992-01	と銀詰	35	余詰		954		
256			本名	将	1992-02	普通の詰将棋		完全		1014		
257			誘い水	将	1992-02	と騎士詰	29	完全		1029		
258			大恥早詰	将	1992-02	天竺詰	21	完全		1030		
259			大恥早計	将	1992-02	駒ばか自殺詰	16	完全		1032		
260			左真樹	詰バラ	1992-04	スタイルメイト	51	完全				
261			左真樹	詰バラ	1992-04	ばかスタイル	51	完全				
262			左真樹	詰バラ	1992-08	最悪詰	13	完全				
263			左真樹	詰バラ	1992-09	最悪詰	31	早詰				
264			奈良別実	将	1992-11	ばか詰	9	完全		1057		
265			大恥早計	将	1992-11	天竺詰	51	完全		1063		
266			まね棋猫	将	1992-11	ばか詰	7	完全		1077		
267			大恥早計	将	1992-11	天竺詰	113	完全		1082		煙詰
268			スナフ銀	将	1993-02	対面ばか自殺詰	16	余詰		1143		
269			誘い水	将	1993-02	駒ばか詰	17	完全		1146		
270		2	3 逸本美知	将	1993-02	ミニ詰	35	完全		1150		

番号	修正	世界	作者名	掲載誌	掲載号	ルール	手数	完不完	Cindex	Sindex	Pindex	備考
271			大恥早計	将	1993-02	マキシ詰	37	完全		1151		
272			安易例	将	1993-02	攻方マキシ詰	69	完全		1152		
273			誘い水	将	1993-05	駒ばか詰	13	余詰		1177		結果稿無
274			大恥早計	将	1993-05	対面詰	39	完全		1183		結果稿無
275			まね棋猫	将	1993-07	ばか詰	7	完全		1213		結果稿無
276			まね棋猫	将	1993-07	ばか詰	7	完全		1214		結果稿無
277			まね棋猫	将	1993-07	ばか詰	11	完全		1215		結果稿無
278		3	1 誘い水	将	1993-07	ばか詰	13	完全		1216A		結果稿無
279		3	2 誘い水	将	1993-07	ばか詰	19	完全		1216B		結果稿無
280		3	3 誘い水	将	1993-07	ばか詰	27	完全		1216C		結果稿無
281			歩隣接2	将	1993-07	Kマドラシばか詰	17	余詰		1222		結果稿無
282		5	5 大恥早計	将	1993-07	対面詰	39	完全		1236		結果稿無
283			誘い水	将	1993-07	と炮詰	71	完全		1241		結果稿無
284			逸本美知	将	1993-07	ミニ詰	59	完全		1242		結果稿無
285			大恥早計	将	1993-07	追いセット	2	完全		例題1		結果稿無
286			大恥早計	将	1993-07	追いセット	3	完全		例題2		結果稿無
287			大恥早計	将	1993-07	最短追い	8	完全		例題3		結果稿無
288			大恥早計	将	1993-07	最長追い	22	完全		例題4		結果稿無
289			大恥早計	将	1993-07	最短追い	14	完全		1243		結果稿無
290			大恥早計	将	1993-07	最短追い	24	完全		1244		結果稿無
291			左真樹	詰バラ	1993-08	ばか詰	5	完全				
292			左真樹	詰バラ	1993-09	ばか詰	9	完全				
293		8	8 左真樹	詰バラ	1993-12	ばか詰	25	完全				
294			左真樹	詰バラ	1994-01	ばか詰	11	完全				
295		8	9 青木すみれ	詰バラ	1995-03	ばか詰	29	完全				
296			青木すみれ	詰バラ	1995-08	ばか詰	9	完全				
297			青木すみれ	詰バラ	1995-09	ばか詰	9	完全				
298		8	10 青木すみれ	詰バラ	1995-11	ばか詰	61	完全				
299			左真樹	詰バラ	1996-01	ばか詰	7	完全				
300			青木すみれ	詰バラ	1996-01	ばか詰	11	完全				
301			出口信男	カピタン	1996-01	モチカエ詰	11	完全	例題1			
302			出口信男	カピタン	1996-01	モチカエばか詰	89	完全	5017			
303			出口信男	カピタン	1996-01	オールザばか詰	11	完全	例題2			
304			出口信男	カピタン	1996-01	オールザばか詰	11	完全	5016			
305			出口信男	カピタン	1996-01	カミカゼ詰	31	完全	例題3			
306			E島愛	将	1996-01	ばか詰	5	完全		1267		結果稿無
307			青木すみれ	将	1996-01	ばか詰	7	完全		1270		結果稿無
308			一色紗英姉	将	1996-01	ばか詰	7	完全		1271		結果稿無
309			歩隣接2	将	1996-01	ばか詰	9	完全		1272		結果稿無
310			まね棋猫	将	1996-01	ばか詰	15	完全		1273		結果稿無
311			木枯寒空	将	1996-01	ばか詰	5	不詰		1286		結果稿無
312			木枯寒空	将	1996-01	ばか詰	15	完全		1287		結果稿無
313		2	2 逸本美知	将	1996-01	ミニ詰	65	完全		1288		結果稿無
314			大恥早計	将	1996-01	悪魔詰	111	完全		1289		結果稿無
315			加田智文	将	1996-02	ばか詰	5	完全		1299		結果稿無
316			一色紗英姉	将	1996-02	ばか詰	13	完全		1301		結果稿無
317			E島愛	将	1996-02	ばか詰	17	完全		1302		結果稿無
318			まね棋猫	将	1996-02	ばか詰	53	完全		1303		結果稿無
319			大恥早計	将	1996-01	駒ばか詰	11	余詰		1304		結果稿無
320			大恥早計	将	1996-01	駒ばか詰	11	完全		1305		結果稿無
321			誘い水	将	1996-02	ばか詰	20	完全		1306		結果稿無
322		11	2 安易例	将	1996-02	双方ミニばか詰	49	不明		1314		結果稿無
323		10	13 大恥早計	将	1996-01	最悪詰	63	余詰		1315		結果稿無
324		10	4 大恥早計	将	1996-01	安南詰	69	完全		1316		結果稿無

番号	修正	世界	作者名	掲載誌	掲載号	ルール	手数	完不完	Cindex	Sindex	Pindex	備考
325			誘い水	将	1996-02	と角詰	71	完全		1317		結果稿無
326		8	11 青木すみれ	詰バラ	1996-03	ばか詰	15	完全				
327			出口信男	カピタン	1996-03	天竺詰	95	早詰				煙詰
328			出口信男	カピタン	1996-03	解禁詰	35	完全	例題			
329			出口信男	カピタン	1996-03	居食玉ば自	36	完全	例題			
330		8	12 青木すみれ	詰バラ	1996-09	ばか詰	9	完全				
331			青木すみれ	詰バラ	1996-11	ばか詰	45	完全				
332			青木すみれ	詰バラ	1996-11	ばか詰	53	完全				
333			青木すみれ	詰バラ	1997-01	ばか詰	21	完全				
334			青木すみれ	詰バラ	1997-02	ばか詰	19	完全				
335			青木すみれ	詰バラ	1997-02	ばか詰	15	完全				
336			青木すみれ	詰バラ	1997-02	ばか詰	15	完全				
337			青木すみれ	詰バラ	1997-03	ばか詰	11	完全				
338			青木すみれ	詰バラ	1997-04	ばか詰	27	完全				
339			青木すみれ	詰バラ	1997-04	ばか詰	27	完全				
340			青木すみれ	詰バラ	1997-05	ばか詰	33	完全				
341			青木すみれ	詰バラ	1997-07	ばか詰	9	完全				
342		8	13 青木すみれ	詰バラ	1997-07	ばか詰	9	完全				
343			青木すみれ	詰バラ	1997-08	ばか詰	5	完全				
344			青木すみれ	詰バラ	1997-09	ばか詰	11	完全				
345		5	8 左真樹	詰バラ	1997-11	対面詰	89	完全				煙詰
346			青木すみれ	詰バラ	1998-01	ばか詰	9	完全				
347			青木すみれ	詰バラ	1998-01	ばか詰	5	完全				
348			青木すみれ	詰バラ	1998-01	ばか詰	5	完全				
349			青木すみれ	詰バラ	1998-01	ばか詰	5	完全				
350			青木すみれ	詰バラ	1998-01	ばか詰	7	完全				
351			青木すみれ	詰バラ	1998-01	ばか詰	7	完全				
352		8	14 青木すみれ	詰バラ	1998-01	ばか詰	23	完全				
353			青木すみれ	詰バラ	1998-04	ばか詰	11	完全				
354			青木すみれ	詰バラ	1998-04	ばか詰	9	完全				
355			青木すみれ	詰バラ	1998-07	ばか詰	7	完全				
356			青木すみれ	詰バラ	1998-07	ばか詰	7	完全				
357			青木すみれ	詰バラ	1998-09	最悪詰	7	完全				
358			青木すみれ	詰バラ	1998-09	最悪詰	39	完全				
359			青木すみれ	詰バラ	1998-10	ばか詰	11	完全				
360			青木すみれ	詰バラ	1998-10	ばか詰	11	完全				
361			青木すみれ	詰バラ	1998-10	ばか詰	37	完全				
362			青木すみれ	詰バラ	1998-11	ばか詰	41	完全				
363			青木すみれ	詰バラ	1999-01	ばか詰	15	完全				
364			青木すみれ	詰バラ	1999-01	ばか詰	43	完全				
365			青木すみれ	詰バラ	1999-01	ばか詰	9	完全				
366			青木すみれ	詰バラ	1999-01	ばか詰	9	完全				
367			青木すみれ	詰バラ	1999-01	ばか詰	13	完全				
368			青木すみれ	詰バラ	1999-01	ばか詰	13	完全				
369			青木すみれ	詰バラ	1999-01	ばか詰	19	完全				
370			青木すみれ	詰バラ	1999-01	ばか詰	21	完全				
371			青木すみれ	詰バラ	1999-01	ばか詰	37	完全				
372			青木すみれ	詰バラ	1999-02	ばか詰	7	完全				
373			青木すみれ	詰バラ	1999-03	ばか詰	13	完全				
374			青木すみれ	詰バラ	1999-03	ばか詰	15	完全				
375			青木すみれ	詰バラ	1999-04	ばか詰	21	完全				
376			青木すみれ	詰バラ	1999-05	ばか詰	9	完全				
377			青木すみれ	詰バラ	1999-07	ばか詰	15	完全				
378			青木すみれ	詰バラ	1999-07	ばか詰	15	完全				

番号	修正	世界	作者名	掲載誌	掲載号	ルール	手数	完不完	Cindex	Sindex	Pindex	備考
379			青木すみれ	誌バラ	1999-08	ばか誌	15	完全				
380			青木すみれ	誌バラ	1999-09	ばか誌	17	完全				
381			青木すみれ	誌バラ	1999-10	ばか誌	5	完全				
382			青木すみれ	誌バラ	1999-10	ばか誌	5	完全				
383			青木すみれ	誌バラ	1999-10	ばか誌	5	完全				
384			青木すみれ	誌バラ	1999-10	ばか誌	5	完全				
385			青木すみれ	誌バラ	1999-10	ばか誌	5	完全				
386			青木すみれ	誌バラ	1999-10	ばか誌	5	完全				
387			青木すみれ	誌バラ	1999-10	ばか誌	5	完全				
388			青木すみれ	誌バラ	1999-10	ばか誌	5	完全				
389			青木すみれ	誌バラ	1999-10	ばか誌	5	完全				
390			青木すみれ	誌バラ	1999-10	ばか誌	5	完全				
391			青木すみれ	誌バラ	1999-10	ばか誌	5	完全				
392			青木すみれ	誌バラ	1999-10	ばか誌	5	完全				
393			青木すみれ	誌バラ	1999-10	ばか誌	5	完全				
394			青木すみれ	誌バラ	1999-10	ばか誌	7	完全				
395			青木すみれ	誌バラ	1999-11	ばか誌	5	完全				
396			青木すみれ	誌バラ	2000-01	ばか誌	7	完全				
397			青木すみれ	誌バラ	2000-01	ばか誌	9	完全				
398			青木すみれ	誌バラ	2000-02	ばか誌	11	完全				
399			奈良別実	誌バラ	2000-03	ばか誌	13	完全				
400			青木すみれ	誌バラ	2000-03	ばか誌	15	完全				
401			青木すみれ	誌バラ	2000-04	ばか誌	5	完全				
402			青木すみれ	誌バラ	2000-04	ばか誌	47	完全				
403			青木すみれ	誌バラ	2000-05	ばか誌	5	完全				
404		10	6	青木すみれ	誌バラ	2000-08	最悪誌	5	完全			
405				青木すみれ	誌バラ	2000-08	最悪誌	9	完全			
406				青木すみれ	誌バラ	2000-08	最悪誌	23	完全			
407				青木すみれ	誌バラ	2000-10	ばか誌	7	完全			
408				青木すみれ	誌バラ	2000-10	ばか誌	7	完全			
409		10	7	青木すみれ	誌バラ	2000-11	最悪誌	5	完全			
410		10	8	青木すみれ	誌バラ	2000-11	最悪誌	5	完全			
411		10	9	青木すみれ	誌バラ	2000-11	最悪誌	5	完全			
412		10	10	青木すみれ	誌バラ	2000-11	最悪誌	5	完全			
413		10	12	青木すみれ	誌バラ	2000-11	最悪誌	25	完全			
414				青木すみれ	誌バラ	2001-08	最悪誌	31	完全			
415		10	11	青木すみれ	誌バラ	2001-09	最悪誌	7	完全			
416				青木すみれ	誌バラ	2001-09	最悪誌	235	不誌			
417				出口信男	Pro Para	2018-10	打ち放題誌	9	完全			252
418				出口信男	Pro Para	2018-10	打ち尽くし誌	105	早誌			255
419				出口信男	Pro Para	2019-01	ばか誌	7	完全			256
420				出口信男	Pro Para	2019-01	ばか誌	11	完全			257
421				出口信男	Pro Para	2019-04	王手愛	604	完全			264
422				出口信男	Pro Para	2019-10	ばか誌	5	完全			269
423				出口信男	Pro Para	2019-10	ばか誌	15	完全			270
424		8	15	出口信男	Pro Para	2019-10	ばか誌	7	完全			271
425				出口信男	Pro Para	2020-01	天竺誌	7	完全			278
426				出口信男	Pro Para	2020-01	天竺誌	13	完全			279
427				出口信男	Pro Para	2020-01	天竺誌	111	早誌			280 煙誌
428		1	1	出久野望	Pro Para	2021-04	トリウラ誌	1				
429		1	2	出久野望	Pro Para	2021-04	トリウラ誌	1				
430		1	3	出久野望	Pro Para	2021-04	トリウラばか誌	5				
431		1	4	出久野望	Pro Para	2021-04	トリオモテばか誌	5				
432		1	5	出久野望	Pro Para	2021-04	トリウラ誌	25	完全			

番号	修正	世界		作者名	掲載誌	掲載号	ルール	手数	完不完	Cindex	Sindex	Pindex	備考
433		1	6	出久野望	Pro Para	2021-04	トリウラ詰	29					
434		1	7	出久野望	Pro Para	2021-04	トリウラ詰	33					
435		1	8	出久野望	Pro Para	2021-04	トリウラ詰	33					
436				出久野望	私信	2021-04	トリウラ詰	31	完全				
437				出久野望	私信	2021-04	トリウラ詰	23	完全				
438				出久野望	私信	2021-04	トリウラ詰	25	完全				
439				出口信男	Pro Para	2021-07	天竺詰	57				306	煙詰
440				浦島駄郎	Pro Para	2021-10	にせ背面詰	9				309	
441				浦島駄郎	Pro Para	2021-10	にせ背面詰	13				309	
442				浦島駄郎	Pro Para	2021-10	にせ背面詰	61				310	煙詰
443		11	4	出口信男	Pro Para	2022-07	せめかわり詰	25	完全				
444		11	5	出口信男	Pro Para	2022-07	せめかわり詰	15	完全				
445		11	6	出口信男	Pro Para	2022-07	せめかわり詰	75	完全			319	
446				出口信男	Pro Para	2022-07	せめかわり詰	85	不詰			320	
447				出口信男	Pro Para	2023-10	協力詰	23				329	
448				出口信男	Pro Para	2024-01	Q王協力詰	5				332	
449				出口信男	Pro Para	2024-07	協力詰	7				338	
450				出口信男	Pro Para	2024-07	いれかわり協力詰	5				340	ツインa)
451				出口信男	Pro Para	2024-07	いれかわり協力詰	7				340	ツインb)
452				玉野忠捨	Pro Para	2024-07	いれかわり協力自玉詰	20				341	
453				玉野忠捨	Pro Para	2024-07	いれかわり詰	7				342	
454				出口信男	Pro Para	2024-07	安北詰	99				344	
1	修正図	4	1	出口信男		2020-01	天竺ばか詰	3	完全				
2	修正図	4	2	左真樹	詰バラ	1979-01	天竺詰	77	完全				
14	修正図	9	6	左真樹	詰バラ	1979-02	マキシ詰	51	完全				
38	修正図			左真樹	詰バラ	1982-07	ばか自殺詰	12	完全				
56	修正図			出口信男		2020-01	背面詰	31	完全				
72	修正図			左真樹	詰バラ	1991-11	天竺詰	101	完全				
75	修正図			出口信男	カピタン	1993-09	ネコ鮮詰	65	完全				
82	修正図	5	3	出口信男	カピタン	1993-06	対面ばか詰	13	完全				
83	修正図			出口信男	カピタン	1993-06	対面ばか詰	117	完全				
95	修正図			左真樹	詰バラ	1982-04	天竺詰	93	不詰				
127	修正図			出口信男	カピタン	1993-06	マキシばか詰	137	余詰				
145	修正図			左真樹	詰バラ	1985-04	駒ばか詰	17	完全				
167	修正図			出口信男		2023-12	天竺詰	91					煙詰
171	修正図			出口信男		2020-04	トリウラ詰	21	完全				
179	修正図			左真樹	詰バラ	1991-11	対面ばか自殺詰	8	完全				
200	修正図			大恥早計	将	1990-10	ばか逃れ	4	完全				
201	修正図			大恥早計	将	1990-10	ばか逃れ	10	完全				
205	修正図			大恥早計	将	1990-10	ばか逃れ	24	完全				
206	修正図			出口信男	カピタン	1993-06	オール交換駒	29	不詰				
206	修正図			出口信男	カピタン	1993-06	オール交換駒	29	完全				
212	修正図			大恥早計	将	1991-03	駒ばか詰	53	早詰		570v		
221	修正図			大恥早計	将	1991-12	ばか詰	20	余詰		649v		
238	修正図			まね棋猫	将	1991-12	ばか詰	9	完全		840v		
238	修正図			まね棋猫	将	1991-12	ばか詰	9	完全		840vv		
239	修正図			まね棋猫	将	1992-03	ばか詰	11	完全		841v		
245	修正図			大恥早計	将	1992-03	天竺詰	57	早詰		898v		
250	修正図			歩隣接2		2020-04	安南詰	31	完全				
253	修正図			大恥早計		2020-04	背面詰	15	完全				
255	修正図			誘い水	将	1993-07	と銀詰	35	完全		954v		
281	修正図					2024-01	Kマドラシばか詰	17					

番号	修正	世界	作者名	掲載誌	掲載号	ルール	手数	完不完	Cindex	Sindex	Pindex	備考
324	修正図		大恥早計		2020-04	安南詰	69	早詰		1316v		
418	修正図		出口信男	Pro Para	2019-04	打ち尽くし詰	105	完全			255	
446	修正図	11	7	出口信男	Pro Para	2023-01	せめかわり詰	84	完全			320
*詰バラ=詰将棋パラダイス												
*世界の列は「出口信男の世界」で取り上げた章。次の列の数字は章内で登場する順番												
*Cindexは「カピタン」内の通算作品番号（途中からつくようになったので全部についているわけではない。）												
*Sindexは「将」内の通算作品番号（vは修正図を表す。vvは修正図の修正図）												
*Pindexは「ProblemParadise」の作品番号												